

静岡県立農林環境専門職大学
審査意見への対応を記載した書類
(7月)

【全体計画審査意見1、2、3の回答について】

1. <養成する人材像と3つのポリシーの整合性が不明確>

養成する人材像として「農業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」を養成するとしている。他方で、当該人材の養成に当たって、教育目標に掲げる目標を全て到達させることとしているのか不明確である。また、ディプロマ・ポリシーで示されている6つの資質・能力は多岐にわたっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる全ての資質・能力を身に付けさせるのか、一部のみの資質・能力を身に付けさせるのか不明確である。このため、養成する人材像に必要な教育目標やディプロマ・ポリシーとなっていることや、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の整合性を明確にするとともに、必要に応じて修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・1

【全体計画審査意見1の回答について】

2. <養成する人材像が不明確>

「本学」という文言が既設の農林大学校と専門職大学の双方に用いられており、専門職大学として養成する人材像が不明確である。専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けを明らかにするとともに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性を明らかにすること。(是正事項)・・・・・・19

【全体計画審査意見1、2の回答について】

3. <カリキュラム・ポリシーの内容が不十分>

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針であるが、示されたカリキュラム・ポリシーは編成に関する抽象的な内容となっており、教育内容・方法の実施に関する内容の記載がない。また、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針がないため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性が不明確である。カリキュラム・ポリシーに必要な内容を加えて、ディプロマ・ポリシーとの整合性を明らかにすること。(是正事項)・・・・・・・・・・34

【教育課程等】

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

4. <教育課程の設定が不十分>

教育課程が一定程度見直されたものの、入学定員の規模や卒業要件における履修設定を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れが解消されていない。また、現在の教育課程の編成内容では、卒業要件に必要な授業科目を履修したとしても配置された全体の授業科目からは限定的な履修となり、専門職として必要と^{みえ}みえ^たた^り能力の修得が不十分なものとなる懸念

があり、専門職大学としてふさわしい教育課程が編成されているか疑義がある。このため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに関する審査意見への対応と整合させるとともに、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえつつ、類似科目の統廃合や自由科目の設定などを検討し、未開講科目が多数とならないよう教育課程を是正すること。さらに、履修モデルでは、半期で相当数の授業科目数を履修することが示されているが、教育効果の観点から妥当と認められないため、適切な履修モデルとなるよう授業科目の配当年次の見直しも含め検討し、修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

5. <教育課程の体系性が不十分>

農林業経営者を育成するのであれば、経営者に不可欠な知識として「経営管理論」、「人材マネジメント」を必修に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

6. <教育課程の編成方針が不明確>

農林業経営体の中核を担う人材を育成するのであれば、「6次産業化実践論」、「販売実習」を必修とすることも考えられるが、それらの科目を選択として配置する趣旨やその代替として学ぶ科目をどのように配置しているのか明らかにすること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

7. <科目の配置が不十分>

選択科目を林業コースと畜産コースの学生のみが履修する場合、少数の学生での開講となるため、例えば「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」、「畜産環境学」を科目としてまとめて開講するなど、学修効果の観点から少数の学生で開講されることを改善すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

【全体計画審査意見13(1)の回答について】

8. <臨地実務実習の成績評価が不明確>

成績評価において、「単位認定における成績評価の項目」と「成績評価及び単位認定」があるが、それぞれの内容が異なっているため確認して適切に改めること。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107

【全体計画審査意見13(2)の回答について】

9. <臨地実務実習の具体的内容が不明確>

臨地実務実習において実務に従事するに当たり、例えば、「生産管理・林業」の実習においては「小型の林業機械」を使用することが示されているが、実習に臨む上で前提

となる知識やあらかじめ取得しておくべき資格や免許などの有無が不明確であるため、実習先で必要となる知識等を説明しつつ、各実習の具体的な内容を明らかにすること。
(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115

【審査意見以外の対応】

＜施設整備スケジュールの変更について＞

部材調達の遅れが懸念されるエレベータ工事について、施設整備スケジュールを見直す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・146

【審査意見以外の対応】

＜書類不備＞

申請書類に誤記や言葉の不一致があるため、再度確認を行い、修正した。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147

1. <養成する人材像と3つのポリシーの整合性が不明確>

養成する人材像として「農業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」を養成するとしている。他方で、当該人材の養成に当たって、教育目標に掲げる目標を全て到達させることとしているのか不明確である。また、ディプロマ・ポリシーで示されている6つの資質・能力は多岐にわたっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる全ての資質・能力を身に付けさせるのか、一部のみの資質・能力を身に付けさせるのか不明確である。このため、養成する人材像に必要な教育目標やディプロマ・ポリシーとなっていることや、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の整合性を明確にするとともに、必要に応じて修正すること。

(対応)

農林業は「栽培」、「林業」、「畜産」という3分野に分かれており、本学として養成する人材は、これらの各分野の経営体で活躍する人材であることを説明するとともに、このことが明確となるよう養成する人材像を修正する。教育目標及びディプロマ・ポリシーについても同様に修正の上、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について説明する。

また、カリキュラム・ポリシーを修正の上、ディプロマ・ポリシーと教育課程の整合性について説明するとともに、教育課程を修正する(別添資料1 カリキュラム・マップ)。

(詳細説明)

1 養成する人材像、教育目標及びディプロマ・ポリシーの修正

農林業は、一般的に、生産する対象により、栽培、林業、畜産という3つの分野に区分されるが、本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、いずれの分野においても多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されており、この3つの分野が本県農林業の基盤となっている。

このため、本県農林業の発展に向けては、栽培、林業、畜産というそれぞれの分野において専門性を発揮し、各分野を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。本学は、栽培、林業、畜産のいずれかの分野の経営体において中核を担い、当該分野の経営を牽引していくとともに、自らが農林業を営む農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材を専門職大学として養成するものである。

一方で、栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分も多い。また、経営体の大規模化等に対応するための経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分について、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に

関連・共通する部分は、各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としているところである。

このため、学生は2年次前期に本人の希望により栽培、林業、畜産のいずれかのコースを選択するが、各コースに分かれた後も、各分野に関連・共通する部分は共通で学ぶこととしており、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程を編成することにより、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成したいと考えている。

本学は、このような人材養成を行うために1学部1学科とし、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを単一としているものであり、そのことが明確になるよう、養成する人材像等を以下のとおり修正する。

<修正後の養成する人材像等（下線の部分が修正箇所）>

【養成する人材像】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材

【教育目標】

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。

栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。

農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。

特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。

さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。

また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有す

る豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。

<本学として養成する人材像>

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材

【ディプロマ・ポリシー】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

- (1) (略)
- (2) 栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。
- (3) 農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。
- (4) (略)
- (5) 農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。
- (6) 修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

2 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性の説明

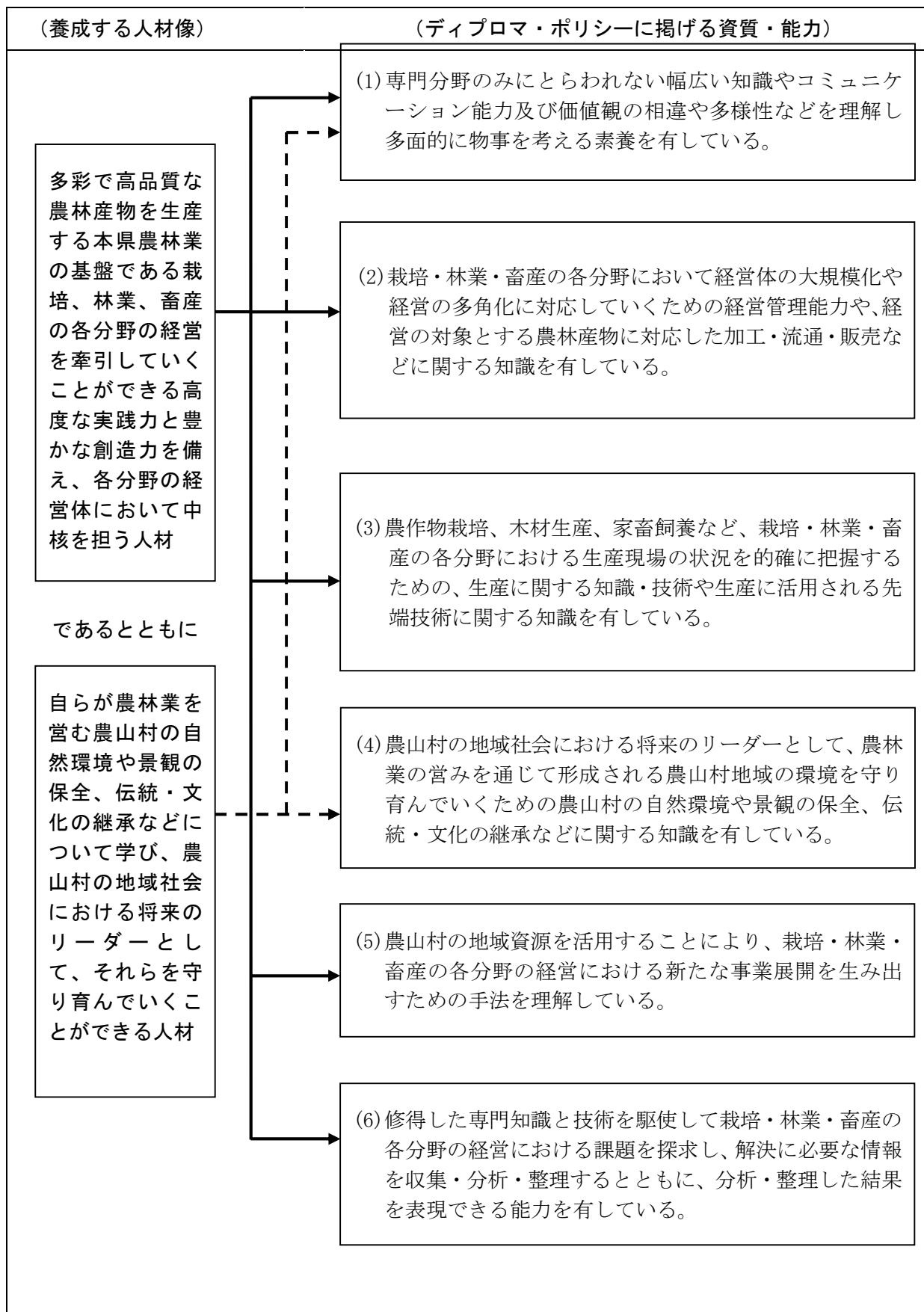
本学において養成する人材像は、「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」であるとともに、「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」であり、この2つの面から必要となる資質・能力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げている。

「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」に必要な資質・能力のうち、各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力とは、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、生産に関する知識・技術、先端技術への対応力、経営体の課題を探究する能力などによるものであり、ディプロマ・ポリシーの（2）、（3）、（6）に主に関連する。

また、豊かな創造力とは、幅広い教養を基盤に農山村の地域資源など他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる能力であり、ディプロマ・ポリシーの（1）、（5）に主に関連する。

「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」に必要な資質・能力については、リーダーに求められるコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様ななどを理解し多面的に物事を考える素養と、農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識であり、ディプロマ・ポリシーの（1）、（4）に主に関連する。（全体的な対応関係は図の次ページのとおり。）

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの対応関係



3 カリキュラム・ポリシーの修正

ディプロマ・ポリシーとの整合性を明確にするため、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針を加えるとともに、教育内容・方法の実施に関する内容の記載を加える。

＜修正後のカリキュラム・ポリシー＞

- (1) ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- (2) 栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- (3) 少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
- (4) 成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

4 ディプロマ・ポリシーと教育課程の整合性の説明

上記のカリキュラム・ポリシーのもとに、本学においては、以下のとおり教育課程を編成することとしており、ディプロマ・ポリシーに対応した教育課程としている。

- (1) 基礎科目として「一般教養」と「コミュニケーション・スキル」の科目群を置き、主に1、2年次に、経済学や情報処理などを学ぶ一般教養科目と、語学などを学ぶコミュニケーション・スキル科目を配置し、コミュニケーション能力や多面的に物事を考える素養などを身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの(1)に主に関連している。
- (2) 職業専門科目として「経営管理」と「加工・流通・販売」の科目群を置き、1年次から3年次にかけて、企業的な経営管理や経営戦略などを学ぶ経営管理科目と、栽培、林業、畜産のコースごとに加工・流通・販売を学ぶ科目を配置し、3年次までに必要な知識を身に付けた上で、4年次に、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において長期の臨地実務実習を行うことにより、経営における実践力を養成することとしており、ディプロマ・ポリシーの(2)に主に関連している。
- (3) 職業専門科目として「農林業基礎」、「生産理論」、「生産技術」の科目群を置き、農林業全般について基礎的な事項を学ぶ農林業基礎科目を、1年次を中心として配置する。また、生産理論と生産技術については、1年次に共通的な理論や技術を学ぶ科目を配置し、2年次以降は栽培、林業、畜産のコースごとに理論や技術などを学ぶ科目を配置する。これらの科目においては、生産に活用される先端技術や、農山村の自然環境や景観の保全に配慮

した生産手法などを併せて学び、農林業に関する幅広い知識を身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの（３）、（４）に主に関連している。

(4)展開科目として「農山村の伝統・文化及び地域社会」の科目群を置き、1年次から3年次にかけて、農山村の伝統・文化の継承や地域社会に関する知識、農山村の地域資源を経営に活用する手法などを学ぶ科目を配置し、農山村の地域社会をリーダーとして支える人材となるために必要な知識を身に付けさせるとともに、経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を養成することとしており、ディプロマ・ポリシーの（４）、（５）に主に関連している。

(5)総合科目として「総合的思考能力」の科目群を置き、4年間の学びの集大成として、4年次に経営分析演習とプロジェクト研究に取り組み、各分野の経営における課題の解決手法や表現力などを身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの（６）に主に関連している。

なお、教育課程の見直しを行ったところ、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力を身に付けるために必要な科目が選択科目になっている部分があったため、科目の統合などにより、いずれのコースの学生もディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身に付けることができるよう教育課程を改める。

【経営管理を学ぶ科目】

- ・「経営管理論」と「人材マネジメント」は、栽培、林業、畜産各分野の経営体の中核を担う人材に、経営組織や経営戦略、技術経営など経営管理の基礎理論や、経営資源である人材の管理の知識は不可欠であると考えため、いずれも必修科目に変更し、ディプロマ・ポリシーに掲げる経営管理能力を身に付けるために必要な科目は全て必修科目とする。
- ・栽培と生産物利用を両面から学ぶ「フードシステム論」、農林業経営を取り巻く法令について学ぶ「農林業の経営組織論」、「食と農の起業論」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」は、ステップアップのための自由科目に改める。
- ・「法と農業経営」は、類似科目である「食品加工実習」「農林業政策」「GAP演習」の3科目に講義内容を組み込み、授業における関連項目と同時に効果的に学ぶ。

【加工・流通・販売を学ぶ科目】

- ・販売管理の基礎理論や技術、POSシステムといった経営に活用される先端技術の知識と活用法について学ぶ「販売管理実習」と6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」は、栽培、林業、畜産各分野の経営体の中核を担う人材に不可欠であると考えため、必修科目に変更し、全ての学生が履修するように改める。
- ・消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」は栽培分野と畜産分野の経営体において中核を担う人材に不可欠であると考えため、栽培コースと畜産コースのコース必修科目とする。
- ・「食品加工学」を「食品加工実習」に統合し、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの知識と技術を学ぶ「食品加工実習」を栽培コースと畜産コースのコース必修科目とする。

【生産理論を学ぶ科目】

・「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」及び「畜産概論」は、「農学概論」を深化した内容を学ぶ科目で、コース選択の参考とするための科目として4科目のうちの1科目以上を選択する選択必修として配置していたが、栽培、林業、畜産の生産理論を一通り学んだ後にコース選択をする方が適しており、これらの4科目を「農林業生産理論」へ統合し必修科目とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>土台</u>である</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>基盤</u>である</p>
<p>(7 ページ)</p> <p>本学は栽培、林業、畜産の各分野の<u>経営体において中核を担う人材を養成するための教育機関</u>であり、既設の農林大学校の研究部においても、<u>経営体において中核を担う人材の養成</u>を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</u></p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会にお</u></p>	<p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>農林業経営者を養成するための教育機関</u>であり、<u>既設の農林大学校の研究部においても、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</u></p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>

新	旧
<p>ける将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>	
<p>(9ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u>」を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>土台</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会にお</u></p>	<p>(9ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u>を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>基盤</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p>

新	旧
<p>ける将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p> <p>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修科目を適切に組み合わせた教育課程</p> <p>栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分が多い。また、経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。</p> <p>こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分については、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としている。</p> <p>このような、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</p> <p>(13 ページ)</p> <p>農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。</p> <p>・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を</p>	<p>(11 ページ)</p> <p>(追加)</p> <p>(12 ページ)</p> <p>本学は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材」を養成する専門職大学</p>

新	旧
<p><u>担う人材」</u> <u>・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材」</u> <u>専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。</u> <u>このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。</u> <u>また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には基盤となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。</u></p>	<p><u>であり、「農林業経営体の中核を担う人材」を養成する既設の農林大学校研究部とは、4年間を通じて経営の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付ける教育課程としている点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さらに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</u> 「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p>

新	旧
<p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p> <p>(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-1、<u>既設の農林大学校のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 <u>企業的经营管理に加え、栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>(略)</p> <p>(9) 新設予定の専門職短期大学との違い 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材</u>」を養成する専門職短期大学である。このため「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>経営体において中核を担う人材</u>を養成する教育機関である点や、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>(15 ページ)</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u></p>	<p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-1、<u>農林大学校のカリキュラムマップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的经营管理に加え、<u>農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>(9) 新設予定の専門職短期大学との違い 本学は、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材</u>」を養成する専門職短期大学であり、「<u>農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>農林業経営者</u>を養成する教育機関である点や、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>生産現場のリーダー</u></p>

新	旧
<p>(略)</p> <p>これに対し本学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、</p> <p>(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>を養成する</p> <p>(略)</p> <p>また、<u>農林業経営体での臨地実務実習</u>を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>(17 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食料生産</u>だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農林業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>にお</p>	<p>(略)</p> <p>これに対し本学では、<u>経営者</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、</p> <p>(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>農林業生産者</u>を養成する</p> <p>(略)</p> <p>また、<u>経営体への臨地実務実習</u>を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>(15 ページ)</p> <p>また、<u>経営体への臨地実務実習</u></p> <p>(略)これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>とし</p>

新	旧
<p>いて中核を担うための実践力を身に付ける大学であり、</p>	<p>て(略) (15 ページ) 既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料17)。現代の農学が食糧生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、農業を切り口とした(略)。これに対し本学は農林業を営む実践力を身に付ける大学であり、</p>
<p>(21 ページ) 本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。 栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。 農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。 特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に</p>	<p>(20 ページ) 本学科は「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野や地域社会で活躍できる人材を養成する。 その夢の実現を助けるため、①農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、②地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成することを目標とする。</p>

新	旧
<p>関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</p> <p>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</p> <p>＜本学として養成する人材像＞</p> <p>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</p>	

新	旧
<p>(22 ページ)</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p><u>⑥修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>

新	旧
<p>⑥修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</p>	
<p>(24 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる(略)</p>	<p>(22 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、農林業経営に必須となる(略)</p>
<p>(25 ページ) 前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)を、以下のとおり定める。 ①ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。 ②栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ教育課程を編成する。 ③少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成すると</p>	<p>(23 ページ) 前述の本学部の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を、以下のとおり定める。 ①一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。 ②企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。 ③農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。 ④農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。 ⑤農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。 ⑥農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。 ⑦農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</p>

新	旧
<p><u>ともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p><u>④成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を上げることができるようGPA制度を活用する。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u></p>	

2. <養成する人材像が不明確>

「本学」という文言が既設の農林大学校と専門職大学の双方に用いられており、専門職大学として養成する人材像が不明確である。専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けを明らかにするとともに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性を明らかにすること。

(対応)

専門職大学として養成する人材像を明確にするため、養成する人材像を修正するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、既設の農林大学校と新設予定の専門職大学の養成する人材像の違いについての説明箇所を修正する。

併せて、専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けと、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について説明するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、「農林業経営者」と記載した箇所を修正する。

(詳細説明)

1 既設の農林大学校と専門職大学の養成する人材像の違い

農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。

- ・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を担う人材」
- ・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」

専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。

このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。

また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には土台となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。

2 専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けと、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性

(1) 専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付け

「農林業経営者」とは、農林業経営体の経営に責任を負う者であり、経営体のトップを指す言葉である。

一方、「農林業経営体の中核を担う人材」とは、経営体の重要なポストに就いて経営に従事している者を指し、その中には「農林業経営者」を含んでいる。

このため、本学においては、経営体のトップを「農林業経営者」、経営体のトップに限らず重要なポストに就いて経営に従事している者を「農林業経営体の中核を担う人材」と位置付けており、「設置の趣旨等を記載した書類」の7ページの「本学は農林業経営者を養成するための教育機関であり、」という箇所は、「農林業経営者」を「栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材」に修正する。

(2) 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性

これまで、養成する人材像の一部を「農林業経営体の中核を担う人材」とする一方で、ディプロマ・ポリシーにおいては、「農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付けた者に学位を授与する」こととしており、整合性がとれていなかったため、ディプロマ・ポリシーのうち「農林業経営者に求められる」としていた部分を「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」に修正する。

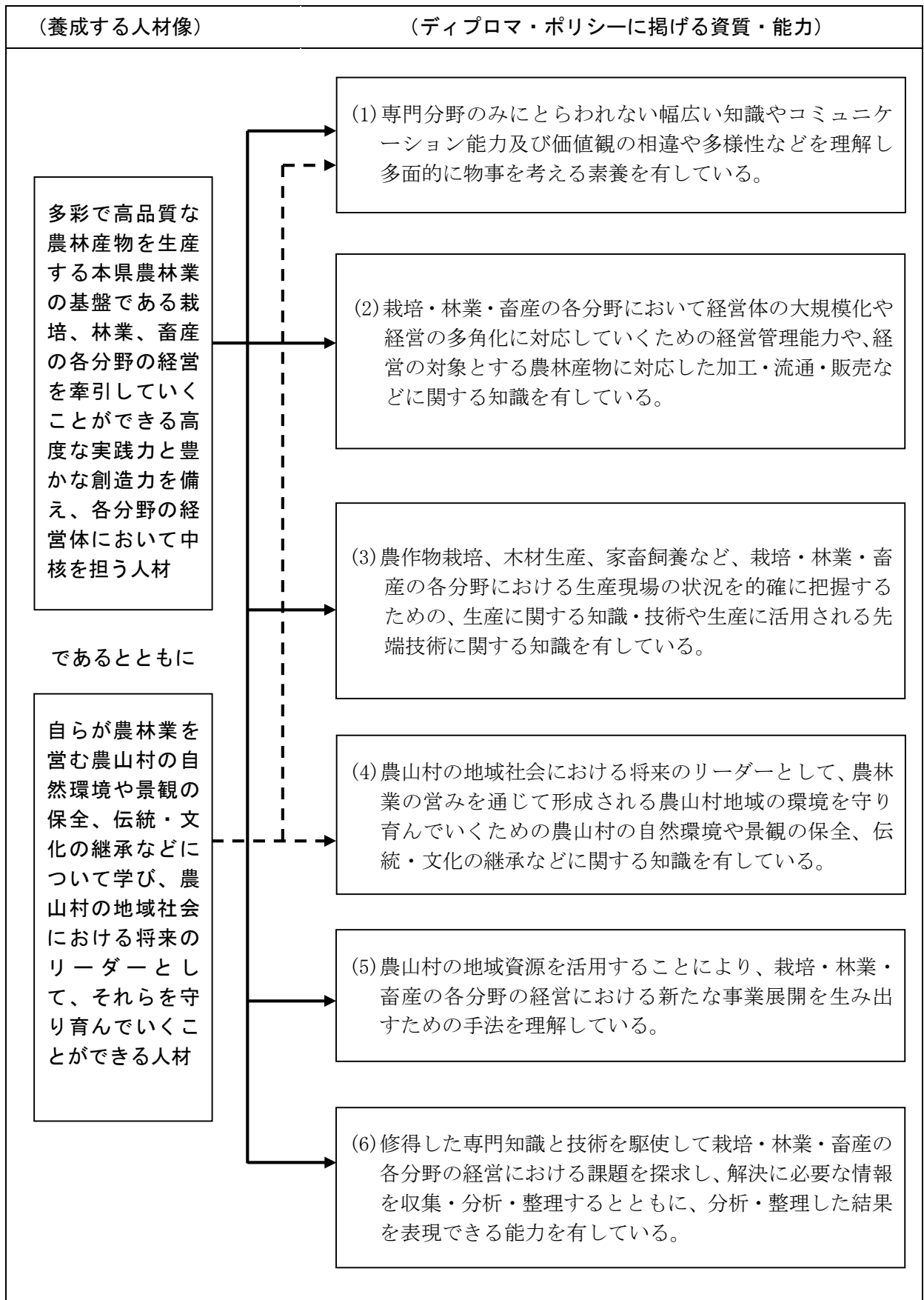
本学において養成する人材像は、「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」であるとともに、「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」であり、この2つの面から必要となる資質・能力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げている。

「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」に必要な資質・能力のうち、各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力とは、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、生産に関する知識・技術、先端技術への対応力、経営体の課題を探究する能力などによるものであり、ディプロマ・ポリシーの(2)、(3)、(6)に主に関連する。

また、豊かな創造力とは、幅広い教養を基盤に農山村の地域資源など他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる能力であり、ディプロマ・ポリシーの(1)、(5)に主に関連する。

「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」に必要な資質・能力については、リーダーに求められるコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養と、農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識であり、ディプロマ・ポリシーの（１）、（４）に主に関連する。（全体的な対応関係は図の次ページのとおり。）

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの対応関係



(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>土台</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担う人材を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の研究部においても、<u>経営体において中核を担う人材の養成</u>を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</u></p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>基盤</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>農林業経営者を養成するための教育機関</u>であり、<u>既設の農林大学校の研究部においても、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成</u>を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>
<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の</p>	<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」</p>

新	旧
<p>理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>土台</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p> <p>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修</p>	<p>の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材を養成することを基本理念とする。</u></p> <p>(略)</p> <p>①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>基盤</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p>

新	旧
<p><u>科目を適切に組み合わせた教育課程</u></p> <p><u>栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分が多い。また、経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。</u></p> <p><u>こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分については、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としている。</u></p> <p><u>このような、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</u></p> <p>(13 ページ)</p> <p><u>農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を担う人材」</u> <u>・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材である</u> 	<p>(追加)</p> <p>(12 ページ)</p> <p><u>本学は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材」を養成する専門職大学であり、「農林業経営体の中核を担う人材」を養成する既設の農林大学校研究部とは、4年間を通じて経営の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付ける教育課程としている点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さら</u></p>

新	旧
<p>とともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」</p> <p>専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。</p> <p>このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。</p> <p>また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には基盤となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p> <p>(略)</p>	<p>に、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p>

新	旧
<p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-1、<u>既設の農林大学校のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 <u>企業的経営管理に加え、栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>(略)</p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材</u>」を養成する専門職大学である。このため「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>経営体において中核を担う人材</u>を養成する教育機関である点や、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>(15 ページ)</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>(略)</p> <p>これに対し本学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応</p>	<p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-1、<u>農林大学校のカリキュラムマップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的経営管理に加え、<u>農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材</u>」を養成する専門職大学であり、「<u>農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>農林業経営者を養成する教育機関である点や、(略)</u></p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>生産現場のリーダー</u>(略)</p> <p>これに対し本学では、<u>経営者</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応</p>

新	旧
<p>新設予定の専門職短期大学は、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>農林業経営体</u>での臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 (略) (17 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食料</u>生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農林業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担うための実践力を身に付ける大学であり、</p>	<p>新設予定の専門職短期大学は、<u>農林業生産者</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 (略) (15 ページ)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習 (略)これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として(略) (15 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食糧</u>生産だけではなく、ゲノ</p>

新	旧
	<p>ム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>農林業を営む実践力を身に付ける</u>大学であり、</p>
<p>(21 ページ)</p> <p><u>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</u></p> <p><u>特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。</u></p> <p><u>さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新た</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野や地域社会で活躍できる人材を養成する。</u></p> <p><u>その夢の実現を助けるため、①農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、②地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成することを目標とする。</u></p>

新	旧
<p><u>な事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。</u></p> <p><u>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</u></p> <p><u>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</u></p> <p><u><本学として養成する人材像></u></p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u></p>	

新	旧
<p>(22 ページ)</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p><u>⑥修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>

新	旧
<p>⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>	
<p>(24 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる</u> (略)</p>	<p>(22 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>農林業経営に必須となる</u> (略)</p>
<p>(25 ページ) 前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「<u>ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針) を、以下のとおり定める。 ①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ</u>て編成する。 ②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ</u>て教育課程を編成する。 ③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成すると</u></p>	<p>(23 ページ) 前述の本学部の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「<u>ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針) を、以下のとおり定める。 ①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u> ②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u> ③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u> ④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p>

新	旧
<p><u>ともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p><u>④成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げるができるようGPA制度を活用する。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u></p>	

3. <カリキュラム・ポリシーの内容が不十分>

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針であるが、示されたカリキュラム・ポリシーは編成に関する抽象的な内容となっており、教育内容・方法の実施に関する内容の記載がない。また、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針がないため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性が不明確である。カリキュラム・ポリシーに必要な内容を加えて、ディプロマ・ポリシーとの整合性を明らかにすること。

(対応)

カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーとの整合性が明確となるようディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針を加えるとともに、教育内容・方法の実施に関する内容の記載を加える。

<修正後のカリキュラム・ポリシー>

- (1)ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- (2)栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- (3)少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
- (4)成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>土台</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担う人材を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の研究部においても、<u>経営体において中核を担う人材の養成</u>を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校</u>においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤</u>である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>基盤</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>農林業経営者を養成するための教育機関</u>であり、既設の農林大学校の研究部においても、「<u>農林業経営体の中核を担う人材</u>」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>
<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の</p>	<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」</p>

新	旧
<p>理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>土台</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p>	<p>の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>基盤</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p>

新	旧
<p>できる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」</p> <p>専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。</p> <p>このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。</p> <p>また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には基盤となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材</p>	<p>点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さらに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p>

新	旧
<p>の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p> <p>(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、本学の<u>カリキュラム・マップ</u>を資料21-1、既設の農林大学校の<u>カリキュラム・マップ</u>を資料21-2に示す。(略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的経営管理に加え、<u>栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>(略)</p> <p>(9) 新設予定の専門職短期大学との違い 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材</u>」を養成する専門職短期大学である。このため「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>経営体において中核を担う人材を養成する教育機関である点や</u>、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職短期大学の<u>カリキュラム・マップ</u>を資料21-3に示す。</p> <p>(15 ページ)</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u> (略)</p> <p>これに対し本学では、<u>栽培、林業、畜産の各</u></p>	<p>なお、比較のための参考資料として、本学の<u>カリキュラムマップ</u>を資料21-1、農林大学校の<u>カリキュラムマップ</u>を資料21-2に示す。(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的経営管理に加え、<u>農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>(9) 新設予定の専門職短期大学との違い 本学は、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材</u>」を養成する専門職短期大学であり、「<u>農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>農林業経営者を養成する教育機関である点や</u>、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職短期大学の<u>カリキュラムマップ</u>を資料21-3に示す。</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>生産現場のリーダー</u> (略)</p> <p>これに対し本学では、<u>経営者として生産現</u></p>

新	旧
<p>分野の経営体において中核を担う人材として生産現場の状況を的確に把握するための、 (略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>農林業経営体</u>での臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 (略)</p> <p>(17 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食料生産</u>だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農林業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担うための実践力を身に付ける大</p>	<p>場の状況を的確に把握するための、 (略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>農林業生産者</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 (略)</p> <p>(15 ページ)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習 (略)これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として(略)</p>

新	旧
<p>学であり、</p>	<p>(15 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料17)。現代の農学が食糧生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、農業を切り口とした(略)。これに対し本学は農林業を営む実践力を身に付ける大学であり、</p>
<p>(21 ページ)</p> <p><u>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</u></p> <p><u>特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野や地域社会で活躍できる人材を養成する。</u></p> <p><u>その夢の実現を助けるため、①農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、②地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成することを目標とする。</u></p>

新	旧
<p>関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</p> <p>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</p> <p><本学として養成する人材像></p> <p>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それら</p>	

新	旧
<p data-bbox="240 244 692 277">を<u>守り育てていくことができる人材</u></p> <p data-bbox="256 340 403 371">(22 ページ)</p> <p data-bbox="240 389 826 898"><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p data-bbox="240 963 826 1137">①<u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1155 826 1375">②<u>栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1440 826 1659">③<u>農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1724 826 1944">④<u>農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1962 826 2040">⑤<u>農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな</u></p>	<p data-bbox="868 340 1015 371">(20 ページ)</p> <p data-bbox="852 389 1422 707">本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、<u>農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p data-bbox="852 772 1422 947">①<u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p data-bbox="852 965 1422 1140">②<u>農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="852 1205 1422 1379">③<u>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="852 1444 1422 1664">④<u>農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="852 1729 1422 1859">⑤<u>農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p data-bbox="852 1924 1422 2040">⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探究し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・</u></p>

新	旧
<p>事業展開を生み出すための手法を理解している。</p> <p>⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p> <p>(24 ページ)</p> <p>農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる(略)</p> <p>(25 ページ)</p> <p>前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)を、以下のとおり定める。</p> <p>①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせで編成する。</u></p> <p>②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせで教育課程を編成する。</u></p>	<p>整理した結果を表現できる能力を有している。</p> <p>(22 ページ)</p> <p>農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>農林業経営に必須となる(略)</u></p> <p>(23 ページ)</p> <p>前述の本学部の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を、以下のとおり定める。</p> <p>①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林</u></p>

新	旧
<p>③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p>④<u>成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u></p>	<p>業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</p> <p>⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p>

4. <教育課程の設定が不十分>

教育課程が一定程度見直されたものの、入学定員の規模や卒業要件における履修設定を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れが解消されていない。また、現在の教育課程の編成内容では、卒業要件に必要な授業科目を履修したとしても配置された全体の授業科目からは限定的な履修となり、専門職として必要となる資質・能力の修得が不十分なものとなる懸念があり、専門職大学としてふさわしい教育課程が編成されているか疑義がある。このため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに関する審査意見への対応と整合させるとともに、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえつつ、類似科目の統廃合や自由科目の設定などを検討し、未開講科目が多数とならないよう教育課程を是正すること。さらに、履修モデルでは、半期で相当数の授業科目数を履修することが示されているが、教育効果の観点から妥当と認められないため、適切な履修モデルとなるよう授業科目の配当年次の見直しも含め検討し、修正すること。

(対応)

養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえた上で、

- ・ 未開講科目や少人数での開講が多数とならないように教育効果の観点からの統合
- ・ 類似科目の統廃合
- ・ 発展科目や資格取得に必要な科目の自由科目化

を行う。その上で、体系的な履修の観点を踏まえて、配当年次の見直しを行い、半期に科目が集中しないように、教育課程の編成を見直す。

さらに、少数の学生で開講した場合でも、教育効果が低減しないように授業の実施方法に配慮する(別添資料1 カリキュラム・マップ、別添資料4-1 科目・単位数の見直し状況、別添資料4-2 履修モデル)。

(詳細説明)

1 教育課程の是正

養成する人材像、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、履修する学生数の規模による教育効果の観点を踏まえた上で、未開講科目や少人数での開講科目が多数とならないように、科目の統廃合や自由科目の設定を行う。(別添資料4-1 科目・単位数の見直し状況)。

①科目の統廃合

「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」及び「畜産概論」は、「農学概論」を深化した内容を学ぶ科目で、コース選択の参考とするための科目として4科目のうちの1科目以上を選

択する選択必修として配置していたが、栽培、林業、畜産の生産理論を一通り学んだ後にコース選択をする方が適しており、かつ、少人数での開講となる懸念が軽減されるため、これらの4科目を「農林業生産理論」へ統合し必修科目とする。

「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」及び「畜産環境学」は、それぞれの分野の環境について学ぶ科目であるが、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材の育成という目的に照らして、農林業全体の環境を学ぶ方が、教育効果が高く、かつ、少人数での開講となる懸念が軽減されるため、これらの3科目を「環境保全型農林業論」へ統合する。

「技術者倫理」は、農林業分野の技術者として必要な倫理を学ぶ科目であるが、全学生が履修する本科目の中で、家畜福祉についてあわせて学ぶ方が、教育効果が高くなるため「家畜福祉」を「技術者倫理」へ整理・統合する。

「木材加工学」と「木材加工実習」、「食品加工学」と「食品加工実習」、「販売管理論」と「販売実習」については、理論と技術を一体的に学ぶ方が、教育効果が高いため、「木材加工実習」、「食品加工実習」、「販売管理実習」へ整理・統合する。

「肥料・植物栄養学」と「土壌学」は、土壌と植物栄養は一環的な物であり土づくりや施肥など共通する部分が多く、一体的に学んだ方が、教育効果が高いため「土壌肥料・植物栄養学」へ統合する。

「園芸学」、「野菜園芸学」、「果樹園芸学」、「花き園芸学」は、類似部分が多いため、教育効果の観点から内容を見直し、基礎的な内容を学ぶ「園芸学」と、発展的な内容を学ぶ「園芸学各論」へ再編した上で、「園芸学各論」を自由科目とする。

「自給飼料」は、「飼料総論」で学ぶ内容と一部が重複しているため、内容を整理した上で、「飼料総論」へ統合する。

「法と農業経営」は、農林業政策とその関連法という点で「農林業政策」と、農産物の加工などの関連法という点で「食品加工論」と、「GAP演習」は農産物の安全に関する制度と関連法という点で重複しているため、内容を整理した上で、「農林業政策」及び、「食品加工論」と「食品加工実習」を整理した「食品加工実習」、「GAP演習」へ整理・統合する。

以上の授業科目の変更や講義等の内容の変更により、26科目を12科目へ整理・統合する。

②科目の自由科目化

より高度な内容を教授できる発展的な科目や、資格取得に必要となる科目の自由科目化を行う。より深い教養をつける「文明論」、「農林業史」、「知的財産権」、「農林業の経営組織論」、「茶道」、「華道」、海外とのコミュニケーションの上達を目指す「英語Ⅳ」、栽培と生産物利用を両面から学ぶ「フードシステム論」、「食と農の起業論」、「食品科学」、「収穫後生理学」、「食と農の健康論」、園芸作物の応用的な内容について学ぶ「園芸学各論」、「植物遺伝育種学概論」、生産理論と応用を実際の農家等から学ぶ「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、大型林業機械の安全な取扱を習得する「林業機械実習」をステップアップのための自由科目とする。また、農業機械士の資格取得を目指す「大型農業機械実習Ⅱ」、家畜人工授精士の資格取得に必要となる「人工授精論」、「畜産法規」と合わせて20科目を新たに自由科目とする。さらに、「林業機械実習」は、少人数での開講となる懸念があるため、隔年での開講とする。

以上の教育課程の見直しにより、補正申請と比較して、開講科目数（単位数）は126科目（267単位）から112科目（239単位）、また、卒業要件に含まれる科目数（単位数）は119科目（255単位）から85科目（191単位）となる。また、未開講となる科目が多数とならないよう、生産理論や生産技術、加工・流通・販売の科目群の科目は、必修科目やコース必修とする。

未開講となる可能性のある科目は、選択科目のうち、選択必修やコース必修となっていない科目とみなすと、補正申請時の45科目（86単位）から13科目（26単位）へ大幅に減少する。未開講となる可能性のある科目は、基礎科目の一般教養の科目群の「歴史学概論」、「文学概論」、「法学概論」、「社会学概論」、「政治学概論」、「統計学」、コミュニケーション・スキルの科目群の「保健体育Ⅱ」、職業専門科目の農林業基礎科目群の「農林業政策」、「県内農林業事情」、「分子生物学」、「農業気象学」、「生命科学」、「野生鳥獣管理・利用論」であるが、すべて学年共通の科目であり、未開講になる可能性は低い。

<科目・単位数の見直し状況>

申請時期	開講科目数・単位数							自由科目数・単位数
	卒業要件に含まれる科目数・単位数							
	必修科目数・単位数	選択科目数・単位数			（うち選択必修）		（うちコース必修）	
（うち選択必修）		（うちコース必修）	（左記以外）					
当初申請	134科目 (287単位)	134科目 (287単位)	29科目 (74単位)	105科目 (213単位)	6科目 (12単位)	-	99科目 (201単位)	-
補正申請	126科目 (267単位)	119科目 (255単位)	35科目 (79単位)	84科目 (176単位)	9科目 (16単位)	30科目 (74単位)	45科目 (86単位)	7科目 (12単位)
再補正申請	112科目 (239単位)	85科目 (191単位)	41科目 (91単位)	44科目 (100単位)	3科目 (6単位)	28科目 (68単位)	13科目 (26単位)	27科目 (48単位)

2 配当年次の見直し

以上の見直しを踏まえ、教育課程の体系性を確保するために、科目の履修順序に配慮したうえで、半期に授業科目数が集中しないように、配当年次の見直しを行う（別添資料4-2 履修モデル）。

農林業の基礎は早期の学修が効果的であるため、「農林業政策」、「分子生物学」、「農林業経営学」、「農山村田園地域公共学」を1年後期から1年前期へ、「経営管理論」、「農村社会論」は2年前期から1年後期へ、「生命科学」は2年後期から1年後期へ、「農業気象学」は2年後期から2年前期へ、「野生鳥獣管理・利用論」は3年前期から1年後期へ変更し、補正申請時より前の期になるように配当年次を見直す。

また、応用的な内容である「人工授精論」、「木材利用・流通論」は2年前期から2年後期へ、「畜産法規」は2年前期から3年前期へ、「人材マネジメント」は3年前期から3年後期にそれぞれ変更し、補正申請時よりも後の期になるように配当年次を見直す。

これらに加え、教育課程の体系性から配当年次を見直し、「農村社会論」の配当年次の見直しと合わせて、「農山村デザイン演習」を3年前期から2年後期へと配当年次を見直す。また、新たに3年前期配置した「園芸学各論」との履修順序の観点から、「園芸学」を2年前期から2年後期へ、配当年次を見直した。

以上のとおり、配当年次を変更することで、半期で取得する最大の単位数は、補正申請時の29単位から22単位となるとともに、3コースの履修モデルで半期あたりの履修単位数は15～22単位とする。科目の配当年次の偏りを是正し、履修バランスを整えることで教育効果を担保する。

3 少人数開講時の配慮

少人数で開講する科目として、林業コース及び畜産コースの生産理論及び生産技術の科目、林業コースの加工・流通・販売の科目が考えられる。講義科目は、少人数での開講でも教育効果が大きく低減する恐れは低いと考えられるものの、授業実施に当たっては、教育効果が高くなるように、学生が質問や意見を述べる機会を多く設けたり、偏った意見とならないように教員が様々な意見を紹介したり、授業の実施方法を工夫する。また、演習科目や実習科目では、講義と同様に授業方法を工夫するとともに、積極的な学生への依存が生じたり、消極的な学生が生じないよう指導方法を工夫する。また、「県内農業事情」等の科目で多くの農業経営者等とディスカッションを行う機会を設ける。

さらに、少人数での教育では、一人ひとりの学生の理解度に合わせて授業を進めたり、意見交換などの質問の機会を持ちやすいなどのメリットがあるため、これらを活かした授業を行う。

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
② 職業専門科目	(生産理論) (林業論)	森林計画・政策論	2前		2		○			1	1				兼1	オムニバス
		造林学	2前		2		○			1					兼1	
		森林土木学	2前		2		○									
		木質科学概論	2後		2		○						1			
		木材生産システム	2後		2			○		1					兼2	オムニバス
	(生産理論) (畜産論)	飼料総論	2前		2		○			1						
		家畜生理解剖学	2前		2		○					1				
		家畜育種繁殖学	2後		2		○								兼1	
		家畜飼養学	2前		2		○			1						
		畜産法規	3前			2	○								兼1	
		人工授精論	2後			2	○								兼1	
	家畜衛生学	2後		2		○				1						
	経営管理	簿記基礎	1前			1		○								兼1
		簿記応用	1後			1		○								兼1
		フードシステム論	1後			2		○		1						
経営管理論		1後	2				○		1							
農林業経営学		1前	2				○		1		1			兼2	オムニバス	
経営戦略		2前	2				○		1							
マーケティング論		2後	2				○		1							
財務会計		2前	2				○								兼1	
管理会計		3前	1				○								兼1	
農林業の経営組織論		3前			2		○		1						兼1	オムニバス・集中
労務管理		2後	2				○								兼1	
人材マネジメント		3後	2				○								兼1	
知的財産権		3後			2		○								兼1	
農と食の起業論	3後			2		○		1								
経営実習Ⅰ	4前	5						14	5	4	1					
経営実習Ⅱ	4後	5						14	5	4	1					
加工・流通・販売	食品科学	2前			2		○			1						
	収穫後生理学	3前			2		○		1							
	木材利用・流通論	2後		2			○		1							
	食品流通論	3前		2			○							兼1		
	農と食の健康論	2後			2		○		1	1					オムニバス	
	6次産業化実践論	3後	2				○		1							
	食品加工実習	3前		2			○		1					兼1	共同※講義	
	木材加工実習	3前		2			○		1					兼1	オムニバス※講義	
販売管理実習	3前	2				○		1					兼1	共同※講義		
生産技術	総合実習	1通	2					○				3	1		兼5	オムニバス・共同
	圃場実習(栽培)	2前		2				○				2			兼7	オムニバス・共同
	圃場実習(畜産)	2前		2				○				1			兼1	共同
	演習林実習	2前		2				○					1		兼1	共同
	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後		4				○				2			兼6	共同
	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後		4				○			1	1			兼1	共同
	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後		4				○			1				兼1	共同
	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通		4				○				2			兼6	共同
	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通		4				○			1	1			兼1	共同
	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通		4				○		1	1				兼2	オムニバス・共同
	大型機械実習Ⅰ	2前	2					○				1				集中
	大型機械実習Ⅱ	3前			2			○					1			集中
	林業機械実習	3・4前			2			○		1						集中※隔年
	GAP演習	2前	2					○				1			兼2	オムニバス
企業実習	3後	10						3			1				共同	
	小計(79科目)	-	57	80	42				14	5	4	1	0	兼26		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
③ 展開科目 農山村の伝統・文化及び地域社会	農山村田園地域公共学	1前	2			○				1					兼1 集中 兼1 集中 兼1 オムニバス 兼1 兼1		
	農村景域論	3前	2			○				1							
	農と食の哲学	2前	2			○											
	食文化論	2後	2			○											
	在来作物学	3前	2			○				1							
	農村社会論	1後	2			○											
	農山村デザイン演習	2後	2				○										
	医福食農連携論	2後	2			○				1							
	グリーン・ツーリズム論	3前	2			○											
	コミュニティビジネス論	3後	2			○											
	小計(10科目)	-	20	0	0	-	-	-	1	3	0	0	0	兼3			
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	1				○		14	5	4	1					
	経営分析演習Ⅱ	4後	1				○		14	5	4	0					
	プロジェクト研究	4通	2				○		14	5	3	1					
	小計(3科目)	-	4	0	0	-	-	-	14	5	4	1	0	-			
合計(112科目)		-	91	100	48	-	-	-	14	5	4	1	0	兼39			
学位又は称号		農林業学士(専門職)		学位又は学科の分野			農学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修10単位と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■「農林業基礎」 必修6単位を含む10単位以上</p> <p>■「生産理論」 コースを選択し、必修6単位、コース必修10単位を含む16単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:作物学、園芸学、植物病理学、応用昆虫学、土壌肥料・植物栄養学 ◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土木学、木質科学概論、木材生産システム ◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学</p> <p>■「経営管理」 必修25単位</p> <p>■「加工・流通・販売」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修4単位、コース必修4単位を含む8単位</p> <p>◎栽培コース・畜産コース必修:食品流通論、食品加工実習 ◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工実習</p> <p>■「生産技術」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修16単位とコース必修10単位を含む26単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) ◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業) ◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>(展開科目)必修20単位</p> <p>(総合科目)必修4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>						1学年の学期区分						2学期					
						1学期の授業期間						15週					
						1時限の授業時間						90分					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	生産理論(林業)	森林計画・政策論	2前	2		○			1	1				兼1	オムニバス
		造林学	2前	2		○								兼1	
		樹木・組織学	1後	2		○				1					
		森林土木学	2前	2		○			1						
		木質科学概論	2後	2		○						1			
		木材生産システム	2後	2			○		1					兼2	オムニバス
		森林マネジメント	3前	2				○						兼1	
	生産理論(畜産)	畜産概論	1後	2		○			1						
		飼料総論	2前	2		○			1						
		家畜生理解剖学	2前	2		○					1				兼1
		家畜育種繁殖学	2後	2		○									
		家畜飼養学	2前	2		○			1						
		畜産法規	2前	2		○									兼1
		人工授精論	2前	2		○									兼1
		自給飼料	2後	2		○			1						
		家畜衛生学	2後	2		○				1					
		家畜福祉学	2後	2		○									兼1
	畜産環境学	3前	2		○						1				
	生産理論(共通)	農林業のための先端技術	3前	2		○			1						
	経営管理	簿記基礎	1前		1		○								兼1
		簿記応用	1後		1		○								兼1
		フードシステム論	1後	2		○			1						
		法と農業経営	2前	2		○			3						兼1
		経営管理論	2前	2		○			1						
		農林業経営学	1後	2		○			1		1				兼2
		経営戦略	2前	2		○			1						
		マーケティング論	2後	2		○			1						
		財務会計	2前	2		○									兼1
		管理会計	3前	1		○									兼1
		農林業の経営組織論	3前	2		○			1						兼1
		労務管理	2後	2		○									兼1
		人材マネジメント	3前	2		○									兼1
		知的財産権	3後	2		○									兼1
加工・流通・販売	食品科学	2前	2		○				1						
	食品加工学	2後	2		○			1							
	収穫後生理学	3前	2		○			1							
	木材利用・流通論	2前	2		○			1							
	木材加工学	2後	2		○			1							
	食品流通論	3前	2		○									兼1	
	販売管理論	3前	2		○			1							
	農と食の健康論	2後	2		○			1	1					オムニバス	
	6次産業化実践論	3後	2		○			1							
	食品加工実習	3前	2				○	1						兼1	
木材加工実習	3前	2				○							兼1		
販売実習	3後	2				○	1						兼1		
生産技術	総合実習	1通	2				○			3	1			兼5	
	圃場実習(栽培)	2前	2				○			2				兼7	
	圃場実習(畜産)	2前	2				○			1				兼1	
	演習林実習	2前	2				○				1			兼1	
	生産マネジメント実習 I (栽培)	2後	4				○			2				兼6	
	生産マネジメント実習 I (畜産)	2後	4				○		1	1				兼1	
	生産マネジメント実習 I (林業)	2後	4				○		1					兼1	
	生産マネジメント実習 II (栽培)	3通	4				○			2				兼6	
	生産マネジメント実習 II (畜産)	3通	4				○		1	1				兼1	
	生産マネジメント実習 II (林業)	3通	4				○	1	1					兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
② 職業専門科目	生産技術	大型機械実習Ⅰ	2前	2				○			1				集中 集中 集中 兼2 オムニバス 共同
		大型機械実習Ⅱ	3前		2			○			1				
		林業機械実習	3前		2				○						
		GAP演習	2前	2					○		1				
		企業実習	3後	10							1				
	小計(93科目)	-	45	150	12			-		14	5	4	1	0	兼26
③ 展開科目	農山村の伝統・文化の継承	農山村田園地域公共学	1後	2				○			1				兼1 集中
		農村景域論	3前	2				○			1				
		農と食の哲学	2前	2					○						
		食文化論	2後	2					○		1				
		在来作物学	3前	2					○						
	農山村の地域社会	農村社会論	2前	2					○						兼1
		農山村デザイン演習	3前	2						○					兼1 集中
医福食農連携論		2後	2					○		1				兼1 オムニバス	
	グリーン・ツーリズム論	3前	2					○						兼1	
	コミュニティビジネス論	3後	2					○						兼1	
	小計(10科目)	-	20	0	0			-		1	3	0	0	0	兼3
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	1					○		14	5	4	1		
	経営分析演習Ⅱ	4後	1					○		14	5	4	0		
	プロジェクト研究	4通	2					○		14	5	3	1		
	小計(3科目)	-	4	0	0			-		14	5	4	1	0	-
合計(126科目)			-	79	176	12		-		14	5	4	1	0	兼39
学位又は称号		農林業学士 (専門職)		学位又は学科の分野			農学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修科目と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■「農林業基礎」 必修を含む10単位以上</p> <p>■「生産理論」コースを選択し、必修科目、選択必修、コース必修を含む16単位以上</p> <p>○選択必修:栽培学、植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論</p> <p>◎栽培コース必修:肥料・植物栄養学、植物病理学、応用昆虫学、環境保全型農業論・栽培コース必修に加え、作物学もしくは園芸学から2単位、植物遺伝育種学概論、土壌学、野菜園芸学、花き園芸学、果樹園芸学から2単位を選択</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土壌学、木質科学概論、木材生産システム、森林マネジメント</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産環境学</p> <p>■「生産技術」 生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースは必修科目とコース必修を含む26単位以上、林業コースは必修科目とコース必修を含む28単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)、林業機械実習</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>■「加工・流通・販売」 生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースはコース必修を含む8単位以上、林業コースはコース必修を含む6単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工学、木材加工実習</p> <p>◎畜産コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>■「経営管理」 必修科目を含む25単位以上</p> <p>(展開科目)必修科目20単位</p> <p>(総合科目)必修科目4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

(新旧対照表) 授業科目の概要

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農林業政策	<p>(5 ページ)</p> <p>農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や制度について学ぶ。わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策及び、それぞれの施策の関連法について基礎的知識を習得する。また、森林・林業政策として、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。</p>		農林業政策	<p>(5 ページ)</p> <p>農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や制度について学ぶ。わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策について基礎的知識を習得する。また、森林・林業政策として、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
技術者倫理	<p>(5 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでできることが認識されつつある。<u>本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について学ぶとともに、バイオテクノロジーにおける倫理、家畜福祉など農業技術者として必要な倫理を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(① 森口卓哉/2回) 農業と環境問題</p> <p>(③ 逢坂興宏/3回) 森林・林業と環境をめぐる諸問題、森林・林業技術と地球倫理・環境倫理</p> <p>(⑧ 丹羽康夫/3回) バイオテクノロジーの展開と倫理</p> <p>(⑱ 竹内隆/2回) 農業技術と技術者の社会的責任</p> <p>(㉑ 小林信一/1回) 家畜福祉</p> <p>(㉒ 片山信也/2回) 畜産と環境問題</p> <p>(㉓ 近藤晃/2回) 林業をめぐる諸問題</p>		技術者倫理	<p>(5 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでできることが認識されつつある。<u>農林業の経済的責任や法律遵守の倫理的責任だけでなく、地球市民として天然資源の節約や温室効果ガスの発生抑制、福祉社会への貢献等々、公共益の配慮を経営プロセスに組み込み、その実践について顧客等に対して説明責任を果たすことが求められる。</u>本科目では、農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応するかを考える。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(② 森口卓哉/3回) 農業と環境問題</p> <p>(④ 逢坂興宏/3回) 森林・林業と環境をめぐる諸問題、森林・林業技術と地球倫理・環境倫理</p> <p>(⑫ 丹羽康夫/3回) バイオテクノロジーの展開と倫理</p> <p>(⑮ 竹内隆/2回) 農業技術と技術者の社会的責任</p> <p>(⑲ 片山信也/2回) 畜産と環境問題</p> <p>(㉑ 近藤晃/2回) 林業をめぐる諸問題</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農 林 業 生 産 理 論	<p>(8ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>持続的農業を展開するためには、植物の生理生態、畜産物の機能と特徴の理論を学び、生産に結びつける必要がある。本科目では植物の生理生態、作物の生産に関わる温度や光条件などの環境条件や、耕起、施肥など総合的作物管理を学ぶ。また、木材の科学的性質を理解した上の持続的林業生産、畜産業における遺伝、繁殖、飼養などの専門領域を理解した上での畜産生産と環境負荷物質を制御するための持続可能な畜産業など、農林業生産理論を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(② 祐森誠司/4 回)家畜生産の目的・特徴・増殖技術、畜産物の機能と特徴、畜産経営</p> <p>(⑦ 平岡裕一郎/4 回)</p> <p>(⑬ 佐藤展之/3 回)植物の構造・発生・分化、生理生態機能</p> <p>(⑯ 杉山恵太郎/4 回)作物の起源・分類と栽培</p>			(新規)	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境保全型農林業論	<p>(8ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>農業の生産性は、化学肥料や農薬の施用等により、大幅な向上が図られてきた。しかし、効率追求や不適切な資材利用・管理が農業生産活動が環境へ負荷の原因となっている場合もあり、環境負荷に少ない農業への注目が集まっている。本科目では、農業のもつ自然循環機能を活かし、生産性との調和等に留意した環境保全型農業の実現に向けて様々な知識と技術を学び、今後の農業のあり方について考える。併せて、国土保全や生物多様性に配慮した森林施業についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 貞弘恵/2回) 畜産と環境問題</p> <p>(15 小澤朗人/6回) 環境保全型農業とは、環境保全型農業の取り組み事例、化学農薬低減技術</p> <p>(21) 片山信也/4回) 畜産堆肥を使った土づくりと化学肥料低減技術</p> <p>(25) 鶴飼一博/3回) 森林の公益的機能と森林施業</p>			(新規)	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
園芸学	<p>(9 ページ)</p> <p><u>(概要)</u></p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料使用する品目もあるため、環境に配慮した栽培についても考える。</p> <p><u>(オムニバス方式/全 15 回)</u></p> <p><u>(① 森口卓哉/5 回) 果樹園芸の特徴、果樹生産の現状と環境、果樹の利用・分類・形態・器官・機能、果実の発育・成熟</u></p> <p><u>(⑬ 佐藤展之/5 回) 花き園芸の歴史・文化と環境、花きの分類・栽培・育種、施設園芸と環境制御</u></p> <p><u>(⑯ 杉山恵太郎/5 回) 園芸の起源・歴史、野菜の分類・生長・形態・育種、野菜栽培の基礎と実際</u></p>		園芸学	<p>(8 ページ)</p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しの機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
園芸各論	<p>(9ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>野菜、果樹、花きなど園芸作物は、様々な技術開発により高品質な生産物が安定的に生産されている。本科目では、園芸作物の専門的な知識を得ることを目的とし、各論として野菜園芸ではトマト、イチゴ、温室メロン、タマネギなど、果樹園芸では温州ミカンやカキ、ナシなど、花き園芸ではガーベラやバラ、キクなど、静岡県特産物を例にとりながら、それぞれの生理特性と栽培方法、およびそれらに關与する諸問題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(① 森口卓哉/5 回)果樹の種類と栽培、果樹栽培における生育調節剤利用、育種・繁殖、品質制御技術</p> <p>(⑬ 佐藤展之/5 回)花きの種類と栽培、花き栽培における土壌・栄養・養液栽培、生育・開花調整、鮮度保持と貯蔵・輸出入</p> <p>(⑯ 杉山恵太郎/5 回)野菜の種類と栽培、野菜栽培における作型、鮮度保持と流通</p>			(新規)	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
土壌肥料・植物栄養学	<p>(10ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>土壌は農林業に利用されるだけでなく、地球環境保全にも欠かせないものである。土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などに加え、農耕地の土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。また、植物を主体とし養分吸収特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。近年肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法についても考える。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(⑬ 佐藤展之/8 回) 植物栄養と養分の吸収機構、多量要素・微量元素の生理学的役割、肥料と施肥、環境・農業と肥料、栄養診断</p> <p>(⑭ 外側正之/7 回) 土壌の化学性・物理性、土壌構造、土壌微生物、土壌診断</p>	オムニバス方式		(新規)	
飼料総論	<p>(11ページ)</p> <p>動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。本科目では、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解するとともに、自給飼料を生産する草地での土地利用の特徴や、草地の維持管理の基礎的な理論、実際の管理技術と生産される牧草の保存、活用について教授する。また、各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる(配合する)ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。</p>		飼料総論	<p>(12 ページ)</p> <p>家畜が自らの生命を健康に維持しながら生活するためには、体を動かすためのエネルギーと体の中の種々の代謝活動のための栄養素が必要である。また、体を維持し、さらに成長させていくためにはその基質を体に取り入れることも必要である。このため、畜産を営むものには、家畜に必要な栄養と、その供給源である飼料の知識が不可欠である。本科目では家畜栄養と飼料についての基礎的な知識を学ぶとともに、飼料に求められる保存性を高める加工などの技術を知った上で、飼料配合設計技術の理論を習得することを目的とする。</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
食品加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。</p> <p>本科目では、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術、農畜産物の加工法や保存法、包装法、さらに、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶ。また、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。</p>	<p>共同</p> <p>※ 講義 16 時間</p> <p>※ 実習 44 時間</p>	食品加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。</p> <p>本科目では、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学び、加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。</p> <p>・穀物の加工:もち、パン、焼菓子</p> <p>・マメ類の加工:みそ、豆腐、和菓子</p> <p>・イモ類の加工:こんにやく</p> <p>・魚肉類の加工:さつまあげ、ちくわ</p> <p>・果実類の加工:マーマレード、ジャム</p> <p>・畜肉類の加工:ソーセージ</p> <p>・乳類の加工:ヨーグルト</p> <p>・野菜の加工:トマトピューレ</p>	共同

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
木材加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>木材は、構造材料あるいは強度部材として利用するため、木材の物理的性質や力学的性質等を把握することは重要である。本科目では、切削加工から人工乾燥等の製造技術及び品質管理手法や、合板・集成材等の製造・性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築の合理化手法や、耐久性・防耐火性を向上する手法について学ぶ。また、木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(⑩ 池田潔彦/14 回)製材・機械加工、木材の乾燥技術及び物理的・強度的性質、木質材料の種類と特徴</p> <p>(29 星川健史/16 回)木工具・木工機械の種類と管理方法、木工作品の製作</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>※ 講義 28 時間</p> <p>※ 実習 32 時間</p>	木材加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>木材加工学で学んだ木材の性質や木材加工技術などの知識を生かし、木工作品の製作を行う。本科目では、椅子などの身近な木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識や技術を習得する。</p> <p>・加工の基礎知識:加工に使用する道具・木工機械の種類と安全作業</p> <p>・設計製図:設計製図、作品の製図</p> <p>・製作:材料の調達、設計に沿った木材の加工、組み立て</p>	
販売管理実習	<p>(16 ページ)</p> <p>マーチャンダイジング、ストアオペレーション、販売管理の知識を学びながら、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための方法を学ぶための実習を行う。本科目では、農林畜産物を販売するための経営手法を理解した上で、販売管理のノウハウを修得し、販売の技術を身に付けることを目標とする。まず、どのような製品を、いくらで、どこで販売し、どのような宣伝を行うかのマーケティング戦略の手法を理解し、商品計画、価格設定、在庫管理などの商品知識を深める。そして、ストアオペレーション、販売技術、販売管理のノウハウを修得し、顧客情報の収集法と分析、顧客の管理などの手法を身に付ける。</p>	<p>共同</p> <p>※ 講義 8 時間</p> <p>※ 実習 52 時間</p>		<p>(新規)</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合実習	<p>(16 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(14 太田智/4回)果樹栽培:果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回)林業:木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回)野菜栽培(施設):環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回)畜産:酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(28 中根健/4回)作物栽培:田植え</p> <p>(29 中野敬之/4回)茶栽培:摘採、製茶</p> <p>(31 五十右薫/4回)花き栽培:播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(32 増田壽彦、33 坂口良介/4回)(共同)野菜栽培(露地):露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p>	オムニバス方式・共同 <u>(一部)</u>	総合実習	<p>(16 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、<u>農作業安全や農業現場</u>に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(9 太田智/4回)果樹栽培:果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(10 相蘇春菜/2回)林業:木材の樹種同定</p> <p>(11 大石竜/2回)野菜栽培(施設):環境制御システムの利用法</p> <p>(12 貞弘恵/4回)畜産:酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(23 中根健/2回)作物栽培:田植え</p> <p>(23 中根健、27 増田壽彦、28 坂口良介/4回)(共同)<u>農作業安全:危険箇所・危険作業の確認、刈払機・運搬車の講習</u></p> <p>(24 中野敬之/4回)茶栽培:摘採、製茶</p> <p>(26 五十右薫/4回)花き栽培:播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(27 増田壽彦、28 坂口良介/4回)(共同)野菜栽培(露地):露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p>	オムニバス方式・共同

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
林業機械実習	<p>(19 ページ)</p> <p>林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、機械集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。</p> <p>架線集材:集材機、自走式搬機の基本操作 車両集材:集材車両の機械の基本操作 高性能林業機械:フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダの基本操作</p>	<p>集中</p> <p>※隔年</p>	林業機械実習	<p>(21 ページ)</p> <p>林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、機械集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。</p> <p>架線集材:集材機、自走式搬機の基本操作 車両集材:集材車両の機械の基本操作 高性能林業機械:フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダの基本操作</p>	<p>集中</p>

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GAP演習	<p>(19 ページ)</p> <p>GAP演習 (概要)</p> <p>GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識や、農産物の安全のための制度及び関連法について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(⑫ 貞弘恵/5 回)GAPの実践(畜産編)</p> <p>(⑰ 杉山泰之/20 回)GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度、農産物安全のための制度・関連法</p> <p>(⑳ 坂口良介/5 回)GAPの実践(栽培編)</p>	オムニバス方式	GAP演習	<p>(21 ページ)</p> <p>GAP演習 (概要)</p> <p>GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(⑮ 貞弘恵/5 回)GAPの実践(畜産編)</p> <p>(⑳ 杉山泰之/20 回)GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(㉓ 坂口良介/5 回)GAPの実践(栽培編)</p>	オムニバス方式

(新旧対照表) 専門職大学等における実験, 実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する
演習による授業科目一覧

(新)

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果				
		必修	選択	自由						
実験、 実習又は実技による 授業科目	基礎科目	茶道 華道 保健体育Ⅰ 保健体育Ⅱ	2	2	1 1	実習 実習 実技 実技				
	職業専門科目	経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 総合実習 圃場実習(栽培) 圃場実習(畜産) 演習林実習 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅰ(畜産) 生産マネジメント実習Ⅰ(林業) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(畜産) 生産マネジメント実習Ⅱ(林業) 大型機械実習Ⅰ 大型機械実習Ⅱ 林業機械実習 企業実習 食品加工実習 木材加工実習 販売管理実習	5 5 2 2 2 4 4 4 4 4 4 2 2 10 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 2 4 4 4 4 4 4 2 2 2 2 2	実習 [臨] 実習 [臨] 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習				
		展開科目	該当なし							
		総合科目	該当なし							
		小計 (23科目)		28	36	6				
		うち卒業・修了に必要な実習等単位数		28	12	—				
		うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—				
		演習による 実習等代替 授業科目	科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果 実習等に変えて演習を行う理由として、演習を行うことで、実際の事例に基づいた模擬的な学びが可能になるという効果が期待される。これにより、課題を発見し解決する技能を修得することが可能となり、実際の現場において自ら実践できるという効果が見込まれる。	
			基礎科目	該当なし						
			職業専門科目	GAP演習	2					演習
			展開科目	農山村デザイン演習	2					演習
			総合科目	該当なし						
		小計 (2科目)		4	—	()				
		うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		4	—	—				
		うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	—	—				
		合計 (25科目)		32	36	()				
	うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		32	12	—					
	うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—					

(旧)

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧									
(生産環境経営学部生産環境経営学科)									
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果			
		必修	選択	自由					
実験、 実習又は 実技による 授業科目	基礎科目	茶道 華道 保健体育Ⅰ 保健体育Ⅱ	2	1 1 2		実習 実習 実技 実技			
	職業専門科目	経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 総合実習 圃場実習(栽培) 圃場実習(畜産) 演習林実習 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅰ(畜産) 生産マネジメント実習Ⅰ(林業) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(畜産) 生産マネジメント実習Ⅱ(林業) 大型機械実習Ⅰ 大型機械実習Ⅱ 林業機械実習 企業実習 食品加工実習 木材加工実習 販売実習	5 5 2 2 10 2	 2 2 2 4 4 4 4 4 4 2 2 2 2		実習 [臨] 実習 [臨] 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
	展開科目	該当なし							
	総合科目	該当なし							
	小計 (23科目)		26	44	0				
	うち卒業・修了に必要な実習等単位数		26	12	—				
	うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—				
	演習による 実習等代替 授業科目	科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果	
		基礎科目	該当なし				実習等に変えて演習を行う理由として、演習を行うことで、実際の事例に基づいた模擬的な学びが可能になるという効果が期待される。これにより、課題を発見し解決する技能を修得することが可能となり、実際の現場において自ら実践できるという効果が見込まれる。		
		職業専門科目	GAP演習	2					演習
		展開科目	農山村デザイン演習	2					演習
		総合科目	該当なし						
	小計 (2科目)		4	—	()				
	うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		4	—	—				
	うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	—	—				
	合計 (25科目)		30	44	()				
	うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		30	12	—				
	うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—				

(新旧対照表) シラバス

(新) 目次

<シラバス目次>

NO	授業科目
1	静岡学※
2	歴史学概論
3	統計学
4	情報処理基礎
5	情報処理応用
6	農学概論
7	環境と農林業※
8	農林業史
9	農林業政策*
10	技術者倫理*
11	県内農林業事情
12	県外農林業事情
13	海外農林業事情
14	農林業のための生物学
15	農林業のための化学
16	農林業のための地学
17	分子生物学
18	農業気象学
19	生命科学
20	農林業生産理論●
21	環境保全型農林業論●
22	農林業のための先端技術※
23	作物学※
24	園芸学*
25	園芸学各論●
26	植物病理学※
27	応用昆虫学
28	土壌肥料・植物栄養学●
29	植物遺伝育種学概論
30	森林計画・政策論※
31	森林土木学※
32	木質科学概論
33	木材生産システム○
34	飼料総論*
35	家畜生理解剖学
36	家畜飼養学※
37	家畜衛生学
38	フードシステム論○
39	経営管理論※
40	農林業経営学※

- ※ : 補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 補正申請で新たに追加したシラバス
- * : 再補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 再補正申請で新たに追加したシラバス

41	経営戦略○
42	マーケティング論
43	農林業の経営組織論○
44	農と食の起業論
45	経営実習 I
46	経営実習 II
47	食品科学○
48	収穫後生理学
49	木材利用・流通論○
50	農と食の健康論
51	6次産業化実践論
52	食品加工実習●
53	木材加工実習●
54	販売管理実習●
55	総合実習*
56	圃場実習(栽培)
57	圃場実習(畜産)
58	演習林実習
59	生産マネジメント実習 I (栽培)
60	生産マネジメント実習 I (畜産)
61	生産マネジメント実習 I (林業)
62	生産マネジメント実習 II (栽培)
63	生産マネジメント実習 II (畜産)
64	生産マネジメント実習 II (林業)
65	大型機械実習 I
66	大型機械実習 II
67	林業機械実習
68	GAP演習*
69	企業実習
70	農山村田園地域公共学
71	農村景域論
72	食文化論
73	在来作物学
74	医福食農連携論
75	経営分析演習 I ※
76	経営分析演習 II ※
77	プロジェクト研究○

- ※ : 補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 補正申請で新たに追加したシラバス
- * : 再補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 再補正申請で新たに追加したシラバス

(新旧対照表) シラバス

(旧) 目次

シラバス目次

ページ	授業科目
1	静岡学
2	歴史学概論
3	統計学
4	情報処理基礎
5	情報処理応用
6	農学概論
7	環境と農林業
8	農林業史
9	農林業政策
10	技術者倫理
11	県内農林業事情
12	県外農林業事情
13	海外農林業事情
14	農林業のための生物学
15	農林業のための化学
16	農林業のための地学
17	分子生物学
18	農業気象学
19	生命科学
20	栽培学
21	植物生理生態学
22	作物学
23	園芸学
24	植物病理学
25	応用昆虫学
26	肥料・植物栄養学
27	野菜園芸学
28	果樹園芸学
29	花き園芸学
30	植物遺伝育種学概論
31	土壌学
32	環境保全型農業論
33	森林計画・政策論
34	樹木・組織学
35	森林土木学
36	木質科学概論
37	木材生産システム
38	畜産概論
39	飼料総論
40	家畜生理解剖学
41	家畜飼養学
42	自給飼料
43	家畜衛生学
44	畜産環境学
45	農林業のための先端技術
46	フードシステム論
47	法と農業経営
48	経営管理論
49	農林業経営学
50	経営戦略
51	マーケティング論
52	農林業の経営組織論
53	農と食の起業論
54	経営実習 I

55	経営実習 II
56	食品科学
57	食品加工学
58	収穫後生理学
59	木材利用・流通論
60	木材加工学
61	販売管理論
62	農と食の健康論
63	6次産業化実践論
64	食品加工実習
65	販売実習
66	総合実習
67	圃場実習(栽培)
68	圃場実習(畜産)
69	演習林実習
70	生産マネジメント実習 I (栽培)
71	生産マネジメント実習 I (畜産)
72	生産マネジメント実習 I (林業)
73	生産マネジメント実習 II (栽培)
74	生産マネジメント実習 II (畜産)
75	生産マネジメント実習 II (林業)
76	大型機械実習 I
77	大型機械実習 II
78	林業機械実習
79	GAP演習
80	企業実習
81	農山村田園地域公共学
82	農村景城論
83	食文化論
84	在来作物学
85	医福食農連携論
86	経営分析演習 I
87	経営分析演習 II
88	プロジェクト研究

授業名 農林業政策 Theory of Agriculture and Forestry Policy		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	1 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎
授業時間	金曜日 1 時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での、食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策及び、各施策の関連法について基礎的知識を習得する。また、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。		
授業目的・目標	農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や森林・林業政策とその制度について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農林業政策展開の概説と授業の進め方。	
	2	わが国農林業の構造変化	
	3	戦後農政の展開1(農地法、食糧管理法)	
	4	戦後農政の展開2(農業災害補償法、農業協同組合法)	
	5	基本法農政の展開	
	6	総合農政・新農政の展開	
	7	食料・農業・農村基本法以降の展開	
	8	現行の農業経営をめぐる生産政策と関連法1(経営所得安定対策、収入保険制度)	
	9	現行の農業経営をめぐる生産政策と関連法2(農地中間管理機構、GAP、6次産業化)	
	10	現行の農業経営をめぐる生産政策と関連法3(作目別諸施策:園芸、畜産)	
	11	現行の農業経営をめぐる担い手政策と関連法(農業次世代人材投資資金、経営体育成支援事業、認定農業者制度)	
	12	現行の農業経営をめぐる環境政策・地域政策と関連法(環境保全型農業直接支払い等)	
	13	林業の構造変化および林業政策の展開	
	14	現行の林業経営をめぐる諸施策と関連法	
15	農林業経営における諸施策への対応に関するとりまとめ		
キーワード	食料・農業・農村基本法、森林・林業基本法、経営所得安定対策、森林経営管理法		
教科書・参考書	農業経済学第4版2015年、荏開津典生・鈴木宣弘(岩波書店) 食料・農業・農村白書(農林水産省) 森林・林業白書(林野庁)		
評価方法・評価基準	試験(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 農林業政策 (英名) Theory of Agriculture and Forestry Policy		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎
授業時間	火曜日 1 時限	教室	小講義室 7
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現今の食料・農業・農村基本法の下での、食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策について基礎的知識を習得する。また、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。		
授業目的・目標	農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や森林・林業政策とその制度について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農林業政策展開の概説と授業の進め方。	
	2	わが国農林業の構造変化	
	3	農業政策の経済学	
	4	戦後農政の展開 1 (農地法、食糧管理法)	
	5	戦後農政の展開 3 (農業災害補償法、農業協同組合法)	
	6	基本法農政の展開	
	7	総合農政・新農政の展開	
	8	食料・農業・農村基本法以降の展開	
	9	現行の農業経営をめぐる生産政策 1 (経営所得安定対策、収入保険制度)	
	10	現行の農業経営をめぐる生産政策 2 (農地中間管理機構、GAP、6次産業化)	
	11	現行の農業経営をめぐる生産政策 3 (作目別諸施策)	
	12	現行の農業経営をめぐる環境政策・地域政策	
	13	林業の構造変化および林業政策の展開	
	14	現行の林業経営をめぐる諸施策	
15	農林業経営における諸施策への対応に関するとりまとめ		
キーワード	食料・農業・農村基本法、森林・林業基本法、経営所得安定対策、森林経営管理法		
教科書・参考書	農業経済学第4版2015年、荏開津典生・鈴木宣弘(岩波書店) 食料・農業・農村白書(農林水産省) 森林・林業白書(林野庁)		
評価方法・評価基準	試験(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 技術者倫理 Engineering Ethics		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉、丹羽康夫、逢坂興宏、竹内隆、片山信也、近藤晃、小林信一
授業時間	月曜日 5 時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んできることが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について学ぶとともに、バイオテクノロジーにおける倫理、家畜福祉など農業技術者として必要な倫理を身につける。		
授業目的・目標	農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	温暖化の影響評価 (森口卓哉)	
	2	温暖化の適応策 (森口卓哉)	
	3	農業技術と技術者の社会的責任① (竹内隆)	
	4	農業技術と技術者の社会的責任② (竹内隆)	
	5	バイオテクノロジーの発展過程 (丹羽康夫)	
	6	倫理の基準となる宗教観と食文化の差異 (丹羽康夫)	
	7	人口爆発・食料不足へのバイオテクノロジーの役割と期待 (丹羽康夫)	
	8	畜産と環境問題① (片山信也)	
	9	畜産と環境問題② (片山信也)	
	10	家畜福祉 (小林信一)	
	11	技術者の社会的責任 (逢坂興宏)	
	12	森林・林業と環境をめぐる諸問題 (逢坂興宏)	
	13	森林・林業技術者と地球倫理・環境倫理 (逢坂興宏)	
	14	林業をめぐる諸問題① (近藤晃)	
15	林業をめぐる諸問題② (近藤晃)		
キーワード	温暖化、影響評価、適応策、緩和策、果実着色不良、睡眠不全、バイオテクノロジー、家畜福祉		
教科書・参考書	参考書：温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？(杉浦俊彦著 技術評論社)、祖田修・太田猛彦「農林水産業の技術者倫理」農文協		
評価方法・評価基準	試験 (60%)、レポート・小テスト (40%)		
関連科目	農業気象学、農学概論・分子生物学・生命科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 技術者倫理 (英名) Engineering Ethics		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉、丹羽康夫、逢坂興宏、竹内隆、片山信也、近藤晃
授業時間	水曜日 1 時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでくることが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について果樹を中心に学ぶとともに、温暖化緩和策としての樹園地の機能について考えることを目的とする。		
授業目的・目標	農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	温暖化の影響評価	
	2	温暖化の適応策I	
	3	温暖化の適応策II、緩和策	
	4	農業技術と技術者の社会的責任①	
	5	農業技術と技術者の社会的責任①	
	6	バイオテクノロジーの発展過程	
	7	倫理の基準となる宗教観と食文化の差異	
	8	人口爆発・食料不足へのバイオテクノロジーの役割と期待	
	9	畜産と環境問題①	
	10	畜産と環境問題②	
	11	技術者の社会的責任	
	12	森林・林業と環境をめぐる諸問題	
	13	森林・林業技術者と地球倫理・環境倫理	
	14	林業をめぐる諸問題①	
15	林業をめぐる諸問題②		
キーワード	温暖化、影響評価、適応策、緩和策、果実着色不良、休眠不全、バイオテクノロジー		
教科書・参考書	参考書：温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？（杉浦俊彦著 技術評論社）、祖田修・太田猛彦「農林水産業の技術者倫理」農文協		
評価方法・評価基準	試験（60％）、レポート・小テスト（40％）		
関連科目	農業気象学、農学概論・分子生物学・生命科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(新) シラバス 20 ページ

授業名 農林業生産理論 Agriculture and Forestry Production Theory		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	佐藤展之、杉山恵太郎、平岡裕一郎、祐森誠司
授業時間	月曜日 3時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続的農業を展開するためには、植物の生理生態、畜産物の機能と特徴の理論を学び、生産に結びつける必要がある。本科目では植物の生理生態、作物の生産に関わる温度や光条件などの環境条件や、耕起、施肥など総合的作物管理を学ぶ。また、木材の科学的性質を理解した上の永続的林業生産、畜産業における遺伝、繁殖、飼養などの専門領域を理解した上での畜産生産と環境負荷物質を制御するための持続可能な畜産業など、農林業生産理論を学ぶ。		
授業目的・目標	農林業生産のために必要な理論を理解し、実践のための応用力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	植物の構造、発生と分化 (佐藤展之)	
	2	光・植物ホルモンによる制御と植物代謝生理 (佐藤展之)	
	3	植物生理生態と農業生産 (佐藤展之)	
	4	作物の起源と分類 (杉山恵太郎)	
	5	作物と栽培環境 (杉山恵太郎)	
	6	作物の栽培管理 (杉山恵太郎)	
	7	施設環境と施設栽培 (杉山恵太郎)	
	8	生物資源としての林産物、木材の構造 (平岡裕一郎)	
	9	木質のバイオメカニクス (平岡裕一郎)	
	10	特用林産物 (平岡裕一郎)	
	11	樹実類と樹脂類、これからの林産物生産と利用 (平岡裕一郎)	
	12	家畜生産の目的・特徴・増殖技術 (祐森誠司)	
	13	畜産物の機能と特徴 (乳製品) (祐森誠司)	
	14	畜産物の機能と特徴 (肉、卵) (祐森誠司)	
15	産業としての畜産 (経営)、環境に配慮した畜産 (祐森誠司)		
キーワード	植物生理生態、作物、栽培環境、木材、非木材林産物、畜産、畜産物、持続的農業		
教科書・参考書	栽培学 (朝倉書店)、「ベーシックマスター植物生理学」塩井祐三編、「木質の形成 第2版」海青社福島和彦編、「畜産学入門」唐澤豊他編、文永堂出版 (株)		
評価方法・評価基準	試験 (80%)、課題 (20%)		
関連科目	特になし		
履修要件	農学概論		
備考	特になし		

(旧) 追加

授業名 環境保全型農林業論 Sustainable Agriculture Systems		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	3 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	小澤朗人、片山信也、貞弘恵、鶴飼一博
授業時間	木曜日 3 時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業の生産性は、化学肥料や農薬の施用等により、大幅な向上が図られてきた。しかし、効率追求や不適切な資材利用・管理が農業生産活動が環境へ負荷の原因となっている場合もあり、環境負荷に少ない農業への注目が集まっている。本科目では、農業のもつ自然循環機能を活かし、生産性との調和等に留意した環境保全型農業の実現に向けて様々な知識と技術を学び、今後の農業のあり方について考える。併せて、国土保全や生物多様性に配慮した森林施業についても学ぶ。		
授業目的・目標	環境保全型農業の実現に向けて様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	環境保全型農業論・序論－沈黙の春～奪われし未来（小澤朗人）	
	2	化学的防除の功罪－薬剤抵抗性・耐性菌問題、誘導多発生、環境汚染（小澤朗人）	
	3	I P M（総合的病害虫管理）の理論、減農薬、有機栽培、自然農法などの特徴と取り組み事例（小澤朗人）	
	4	有機栽培の実態と取り組み事例（小澤朗人）	
	5	生物多様性とは何か、外来侵入生物が引き起こす諸問題（小澤朗人）	
	6	農地における総合的生物多様性管理（I B M）と生態系サービス（小澤朗人）	
	7	畜産業と環境問題（貞弘恵）	
	8	畜産廃棄物の種類と処理方法（貞弘恵）	
	9	ふん尿施用の基本的考え方（片山信也）	
	10	ふん尿の腐熟度（片山信也）	
	11	ふん尿の肥料成分含有率の推定（片山信也）	
	12	牧草・飼料・畑作物・野菜への施用法（片山信也）	
	13	森林の公益的機能（鶴飼一博）	
	14	森林の公益的機能向上に向けた森林施業（1）（鶴飼一博）	
15	森林の公益的機能向上に向けた森林施業（2）（鶴飼一博）		
キーワード	I P M、環境、生態系、生物多様性、防除、農薬、有機、家畜ふん尿処理、家畜ふん尿施用、家畜ふん堆肥、肥料代替率、国土保全、生物多様性		
教科書・参考書	静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準、「ただの虫」を無視しない農業（桐谷圭治・著、築地書館）、生物多様性入門（鷲谷いづみ・著、岩波ブックレット）、家畜ふん尿処理・利用の手引き（畜産環境機構）、「畜産環境保全論」養賢堂		
評価方法・評価基準	試験（70%）、履修態度（30%）		
関連科目	応用昆虫学、植物病理学、環境と農林業、家畜衛生学、農林業経営学、森林計画・政策論、造林学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 園芸学 Horticulture		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	2 年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山恵太郎、佐藤展之、森口卓哉
授業時間	火曜日 3 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料使用する品目もあるため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業目的・目標	園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	園芸の起源と歴史 (杉山恵太郎)	
	2	野菜の分類 (杉山恵太郎)	
	3	野菜の基礎と実際 (成長と形態) (杉山恵太郎)	
	4	野菜栽培の基礎と実際 (養分吸収・光合成と転流・利用) (杉山恵太郎)	
	5	野菜の育種と利用 (杉山恵太郎)	
	6	花き園芸の歴史と文化 (佐藤展之)	
	7	花きの分類 (佐藤展之)	
	8	花き栽培の基礎と実際 (佐藤展之)	
	9	花きの育種 (佐藤展之)	
	10	施設園芸の省エネと環境制御 (佐藤展之)	
	11	果樹園芸の特徴 (環境条件からみた適地適作、果樹の役割、課題) (森口卓哉)	
	12	果樹生産の現状および果樹の利用と分類 (森口卓哉)	
	13	形態、器官と機能 (森口卓哉)	
	14	花芽分化と果実発育 (森口卓哉)	
15	果実の発育・成熟と環境 (森口卓哉)		
キーワード	野菜、花き、果樹、起源、歴史、栽培、園芸療法、環境保全型農業		
教科書・参考書	園芸学の基礎 (鈴木正彦編著、農文協)、園芸学入門 (今西秀雄編著、朝倉書店)、園芸学 (金浜耕基著、文永堂出版)		
評価方法・評価基準	試験 (70%)、小テスト (20%)、履修態度 (10%)		
関連科目	農学概論、農林業生産理論、園芸学各論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 園芸学 Horticulture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山恵太郎
授業時間	木曜日 4時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業目的・目標	園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	園芸作物の起源と歴史	
	2	野菜の起源と歴史	
	3	野菜の分類	
	4	野菜栽培の基礎と実際	
	5	野菜の保存、流通、加工	
	6	花き園芸の歴史と文化	
	7	花きの分類	
	8	花き栽培の基礎と実際	
	9	花きの育種	
	10	施設園芸の環境制御	
	11	果樹の起源と歴史	
	12	果樹の分類	
	13	果樹の生産と環境	
	14	園芸療法	
15	低投入持続的農業、環境保全型農業		
キーワード	野菜、花き、果樹、起源、歴史、園芸療法、低投入持続的農業、環境保全型農業		
教科書・参考書	園芸学の基礎（鈴木正彦編著、農文協）、園芸学入門（今西秀雄編著、朝倉書店）、園芸学（金浜耕基著、文永堂出版）		
評価方法・評価基準	試験（100%）		
関連科目	農学概論、栽培学、野菜園芸学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 園芸学各論 Horticulture theory		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山恵太郎、佐藤展之、森口卓哉
授業時間	木曜日 4 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	野菜、果樹、花きなど園芸作物は、様々な技術開発により高品質な生産物が安定的に生産されている。本科目では、園芸作物の専門的な知識を得ることを目的とし、各論として野菜園芸ではトマト、イチゴ、温室メロン、タマネギなど、果樹園芸では温州ミカンやカキ、ナシなど、花き園芸ではガーベラやバラ、キクなど、静岡県特産物を例にとりながら、それぞれの生理特性と栽培方法、およびそれらに関する諸問題について学ぶ。		
授業目的・目標	野菜、果樹、花き栽培の専門的知識を得る。環境に配慮した栽培方法について考える。園芸作物の生産から流通までを体系的に学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	野菜の作型 (杉山恵太郎)	
	2	果菜類各論 (杉山恵太郎)	
	3	葉茎菜類各論 (杉山恵太郎)	
	4	根菜類各論 (杉山恵太郎)	
	5	野菜の鮮度保持と流通 (杉山恵太郎)	
	6	花きの土壌と栄養、養液栽培 (佐藤展之)	
	7	花きの生育と開花調節 (佐藤展之)	
	8	花きの鮮度保持と貯蔵、輸出入 (佐藤展之)	
	9	花き栽培各論 (切花) (佐藤展之)	
	10	花き栽培各論 (鉢物、切枝) (佐藤展之)	
	11	主要果樹の種類別各論 (温州ミカン、リンゴ、ナシ) (森口卓哉)	
	12	主要果樹の種類別各論 (ブドウ、モモ、カキ、その他) (森口卓哉)	
	13	果樹栽培における生育調節剤の利用 (森口卓哉)	
	14	果樹の品質制御技術 (森口卓哉)	
15	果樹の育種と繁殖 (森口卓哉)		
キーワード	野菜園芸、花卉園芸、果樹園芸、環境条件、栽培生理		
教科書・参考書	野菜園芸学 (金浜耕基、文永堂出版)、果樹園芸学 (米森敬三編集 朝倉書店)、花卉園芸総論 (大川清 養賢堂)、必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験 (70%)、レポート (20%)、履修態度 (10%)		
関連科目	農学概論、農林業生産理論、園芸学		
履修要件	農学概論		
備考	特になし		

(新) シラバス 28 ページ

授業名 土壌肥料・植物栄養学 Soil Fertilizer and Plant Nutrition		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	外側正之・佐藤展之
授業時間	水曜日 2時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	土壌は農林業に利用されるだけでなく、地球環境保全にも欠かせないものである。土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などに加え、農耕地の土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。また、植物を主体とし養分吸収特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。近年肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法についても考える。		
授業目的・目標	土壌の基礎知識、土壌改良の方法を理解するとともに、植物が成長するために必要な養分の機能、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。また、環境に配慮した施肥についても考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	植物の養分吸収の研究と肥料養分の吸収機構 (佐藤展之)	
	2	多量要素の生理学的役割 (佐藤展之)	
	3	微量要素の生理学的役割 (佐藤展之)	
	4	野菜、花き、果樹、茶における施肥方法 (佐藤展之)	
	5	有機農業 (佐藤展之)	
	6	養液栽培の肥料 (佐藤展之)	
	7	植物の栄養診断 (佐藤展之)	
	8	環境、農業と肥料 (佐藤展之)	
	9	土壌と農業・土壌構造 (外側正之)	
	10	土壌と物質循環 (外側正之)	
	11	土壌の化学性 (外側正之)	
	12	土壌の物理性 (外側正之)	
	13	農耕地の種類と土壌特性 (外側正之)	
	14	土壌微生物 (外側正之)	
	15	土壌診断の方法と活用 (外側正之)	
キーワード	土壌、三相構造、土性、土壌微生物、土壌診断肥料、微量元素、施肥方法、有機農業、養液栽培		
教科書・参考書	「土づくりと作物生産」「土・肥料のきほん」日本土壌協会編、必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法・評価基準	試験 (70%)、小テスト (20%)、履修態度 (10%)		
関連科目	環境と農林業、農林業生産理論、		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(旧) 追加

授業名 飼料総論 Feed and Feedstuff		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	祐森誠司
授業時間	水曜日1時限	教室	講義室12
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。また、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解するとともに、自給飼料を生産する草地での土地利用の特徴や、草地の維持管理の基礎的な理論、実際の管理技術と生産される牧草の保存、活用について教授する。		
授業目的・目標	各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる(配合する)ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	日本と世界における飼料の流通状況、飼料安全法について	
	2	化学成分と栄養価値について	
	3	濃厚飼料[穀類、食品残さ等]について	
	4	濃厚飼料[糟糠類、油実粕類]について	
	5	濃厚飼料[農産製造粕類・動物質飼料]について	
	6	粗飼料[イネ科牧草、マメ科牧草]について	
	7	粗飼料[乾草の調製、サイレージの調製、野草]について	
	8	簡単な配合設計について	
	9	飼料添加物について	
	10	飼料作物の栽培	
	11	資源活用に基づく持続可能な畜産について	
	12	有機資源となる家畜排せつ物の管理と利用法	
	13	放牧の活用	
	14	自給飼料として注目される稲作について	
15	まとめ		
キーワード	家畜(牛、豚、家禽)、飼料、養分要求量、安全性、消化吸収、飼料作物、草地管理、持続可能、排せつ物の利用と管理、牧養力、自給飼料		
教科書・参考書	動物の飼料 第2版 唐澤 豊他編、文永堂出版(株)		
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目。		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 飼料総論 Feed and Feedstuff		単位数 2単位	授業の方法 講義	
		履修年次	1年 前期	
受講対象	生産環境経営学部			
授業コード	8910234	教員名	祐森誠司	
授業時間	火曜日3時限	教室	講義室3	
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡			
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp			
授業概要	動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。また、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解する。			
授業目的・目標	各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる(配合する)ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。			
授業計画・内容	回数	内容		
	1	日本と世界における飼料の流通状況, 飼料安全法について		
	2	化学成分と栄養価値について		
	3	濃厚飼料[穀類]について		
	4	濃厚飼料[食品残さ等]について		
	5	濃厚飼料[糟糠類]について		
	6	濃厚飼料[油実粕類]について		
	7	濃厚飼料[農産製造粕類・動物質飼料]について		
	8	粗飼料[イネ科牧草]について		
	9	粗飼料[マメ科牧草]について		
	10	粗飼料[乾草の調製]について		
	11	粗飼料[サイレージの調製]について		
	12	粗飼料[野草]について		
	13	簡単な配合設計について		
	14	飼料添加物について		
15	まとめ			
キーワード	家畜[牛、豚、家禽], 飼料、養分要求量、安全性、消化吸収			
教科書・参考書	動物の飼料 第2版 唐澤 豊他編、文永堂出版(株)			
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)			
関連科目	家畜飼養学、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目。			
履修要件	特になし			
備考	特になし			

授業名 食品加工実習 Food Processing Practice		単位数 2 単位	授業の方法 講義 実験・実習
		履修年次	3 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	前田節子、池ヶ谷篤
授業時間	月曜日 3, 4 時限	教室	加工講義室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。本科目では、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術、農畜産物の加工法や保存法、包装法、さらに、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶ。また、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。		
授業目的・目標	農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術と、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶことができる。加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	授業の方法
	1	イントロダクション 食品の保蔵・加工と食生活	講義
	2	農産物の加工について学ぶ。(豆類)	講義
	3	豆類の加工①・・・米麹味噌の仕込みを行う。	
	4	豆類の加工②・・・大豆から木綿豆腐と絹ごし豆腐を製造する。	
	5	食品加工の操作、包装について	講義
	6	農産物の加工について学ぶ。(穀類・イモ類)	講義
	7	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	8	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	9	食品加工に用いられる新技術、食品添加物と安全性	講義
	10	畜産物の加工について学ぶ。(畜肉類、乳類、卵類)	講義
	11	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーメイドを製造する。	
	12	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーメイドを製造する。	
	13	調味料、嗜好品の加工法について学ぶ。	講義
	14	インスタント食品の歴史、現状について学ぶ。	講義
	15	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	16	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	17	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子やパンを製造する。	
	18	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子やパンを製造する。	
	19	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	20	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	21	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	22	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	23	乳類の加工・・・ヨーグルトの製造	
	24	乳類の加工・・・世界のチーズと日本のチーズの試食	
	25	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	26	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	27	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成	
	28	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 プレゼンテーションの準備	
	29	プレゼンテーションの準備	
30	プレゼンテーション 全体のまとめ		
キーワード	食品加工・6次産業化・商品開発		
教科書・参考書	教科書：なし(プリントを配布) 参考書：三訂 食品加工学 菅原龍幸編 建帛社		
評価方法・評価基準	試験(50%)、レポート(30%)、履修態度(20%)		
関連科目	食品科学・6次産業化実践論		
履修要件	特になし		
備考	人は古来から経験に基づき食品を加工し食してきました。それと同時に固有の食文化も生まれました。この実習を通して先人の知恵や食品加工への熱き思いを感じ取ってください。予定は、材料の都合等により変更になる場合があります。		

授業名 食品加工実習 (英名) Food Processing Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	前田節子
授業時間	火曜日 3, 4時限	教室	加工講義室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。本科目では、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。		
授業目的・目標	加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	イントロダクション 豆類の加工①・・・米麹味噌の仕込みを行う。	
	2	豆類の加工①・・・米麹味噌の仕込みを行う。	
	3	豆類の加工②・・・大豆から木綿豆腐と絹ごし豆腐を製造する。	
	4	豆類の加工②・・・大豆から木綿豆腐と絹ごし豆腐を製造する。	
	5	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	6	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	7	豆類の加工③・・・餡と練りきりから季節の和菓子を作る。	
	8	豆類の加工③・・・餡と練りきりから季節の和菓子を作る。	
	9	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーマレードを製造する。	
	10	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーマレードを製造する。	
	11	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	12	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	13	イモ類の加工・・・こんにやく芋、こんにやく精粉よりこんにやくを製造する。	
	14	イモ類の加工・・・こんにやく芋、こんにやく精粉よりこんにやくを製造する。	
	15	穀類の加工②・・・小麦粉の特性を学び食パンとバターロールを作	
	16	穀類の加工②・・・小麦粉の特性を学び食パンとバターロールを作	
	17	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子を製造する。	
	18	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子を製造する。	
	19	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	20	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	21	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	22	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	23	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	24	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	25	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成	
	26	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成	
	27	乳類の加工・・・ヨーグルトの製造	
	28	乳類の加工・・・世界のチーズと日本のチーズの試食	
	29	プレゼンテーションの準備	
30	各班によるプレゼンテーション 全体のまとめ		
キーワード	食品加工・6次産業化・商品開発		
教科書・参考書	教科書：なし (プリントを配布) 参考書：三訂 食品加工学 菅原龍幸編 建帛社		
評価方法・評価基準	試験 (50%)、レポート (30%)、履修態度 (20%)		
関連科目	食品加工学・食品化学・6次産業化実践論		
履修要件	特になし		
備考	人は古来から経験に基づき食品を加工し食してきました。それと同時に固有の食文化も生まれました。この実習を通して先人の知恵や食品加工への熱き想いを感じ取ってください。予定は、材料の都合等により変更になる場合があります。		

(新) シラバス 53 ページ

授業名 木材加工実習		単位数 2 単位	授業の方法 講義 実験・実習
Wood-technology and Woodworking		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、星川健史
授業時間	月曜日 3, 4 時限	教室	講義室11
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	木材は、構造材料あるいは強度部材として利用するため、木材の物理的性質や力学的性質等を把握することは重要である。本科目では、切削加工から人工乾燥等の製造技術及び品質管理手法や、合板・集成材等の製造・性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築の合理化手法や、耐久性・防耐火性を向上する手法について学ぶとともに、木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識と技術を習得する。		
授業目的・目標	木材製品の製造技術及び品質管理手法及び性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築のプレカット加工や木質パネル化の進展、耐久性等向上手法について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	授業の方法
	1、2	製材・機械加工（製材機械の変遷、近年の動向、JAS等の規格、大径材）（池田潔彦）	講義
	3、4	木工具の管理（星川健史）	
	5、6	製材・機械加工（プレカット加工機械）、乾燥技術（天然乾燥、葉枯らし処理）（池田潔彦）	講義
	7、8	電動木工機械の管理（星川健史）	
	9、10	乾燥技術（蒸気式乾燥、高周波・減圧乾燥、大断面材の乾燥）（池田潔彦）	講義
	11、12	木工作品の製作（設計）（星川健史）	
	13、14	物理的・強度的性質（非破壊評価手法、国産材、外材の特徴）（池田潔彦）	講義
	15、16	木工作品の製作（材料準備、切断）（星川健史）	
	17、18	物理的・強度的性質（大径材、広葉樹、早生樹）、木質材料（合板製造手法、種類・規格、新たな用途、最近の動向）（池田潔彦）	講義
	19、20	木工作品の製作（部品の加工）（星川健史）	
	21、22	木質材料 集成材・CLT&LVL（製造手法、種類・規格、最近の動向）（池田潔彦）	講義
	23、24	木工作品の製作（部品の加工）（星川健史）	
	25、26	木質材料（木質系ボード）、木材の耐火性向上（難燃処理、熱処理、化学加工）、木材の耐久性向上（防腐処理、塗装、化学加工）（池田潔彦）	講義
27、28	木工作品の製作（組み立て）（星川健史）		
29、30	木工作品の製作（仕上げ・塗装）（星川健史）		
キーワード	製材機械、乾燥、木質材料、物理的性質、力学的性質、耐火性、耐久性		
教科書・参考書	最新木材工業事典（日本木材加工技術協会）、木材の物理、木材の加工（文永堂）、必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(20%)、完成品の評価(20%)、受講態度(20%)		
関連科目	木材生産システム、木材利用・流通論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(旧) 追加

(新) シラバス 54 ページ (追加)

授業名 販売管理実習		単位数	2 単位	授業の方法	講義 実験・実習
Sales Management Practice		履修年次	3年 前期		
受講対象	生産環境経営学部				
授業コード	8910234	教員名	柯麗華、池ヶ谷篤		
授業時間	金曜日3, 4時限	教室	講義室14		
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡				
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp				
授業概要	マーチャンダイジング、ストアオペレーション、販売管理の知識を学びながら、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための方法を学ぶための実習を行う。まず、どのような製品を、いくらで、どこで販売し、どのような宣伝を行うかのマーケティング戦略の手法を理解し、商品計画、価格設定、在庫管理などの商品知識を深める。そして、ストアオペレーション、販売技術、販売管理のノウハウを修得し、顧客情報の収集法と分析、顧客の管理などの手法を身に付ける。				
授業目的・目標	農林畜産物を販売するための経営手法を理解した上で、販売管理のノウハウを修得し、販売の技術を身に付けることを目標とする。				
授業計画・内容	回数	内容			授業の方法
	1	授業ガイダンス			講義
	2	小売業の業態			講義
	3	接客技術			講義
	4	顧客管理			講義
	5	マーケティング1 顧客満足			
	6	マーケティング2 商圏の設定と出店			
	7	マーケティング3 リージョナルプロモーション			
	8	マーケティング4 顧客志向型の売場づくり			
	9	報告会とグループディスカッション1			
	10	マーチャンダイジング1 商品計画、販売計画			
	11	マーチャンダイジング2 価格設定			
	12	マーチャンダイジング3 在庫管理			
	13	マーチャンダイジング4 POSシステム			
	14	報告会とグループディスカッション2			
	15	ストアオペレーション1 スタアオペレーションの基本			
	16	ストアオペレーション2 包装技術の基本			
	17	ストアオペレーション3 ディスプレイの基本			
	18	ストアオペレーション4 作業割当の基本			
	19	報告会とグループディスカッション3			
	20	販売技術1 店舗運営の基本			
	21	販売技術2 販売員のマナー			
	22	販売技術3 計数管理、決算データ			
	23	販売技術4 クレームや返品の対応			
	24	販売技術5 販売員の法令知識			
	25	報告会とグループディスカッション4			
	26	販売管理1 万引き防止の対策			
	27	販売管理2 衛生管理			
	28	販売管理3 店舗施設の保守・管理			
	29	販売管理4 顧客情報の管理・分析			
	30	発表会			
キーワード	マーケティング戦略、店舗管理、顧客情報管理				
教科書・参考書	教科書 坪井晋也ほか『販売管理論入門』学分社、2018年 参考書 石川和幸『図解でわかる販売・物流管理の進め方』日本実業出版社、2017年				
評価方法・評価基準	試験(80%)、履修態度(20%)				
関連科目	マーケティング論				
履修要件	特になし				
備考	日頃から、流通企業の動向に関する情報収集を積極的に行って下さい。 事前学習と事後学習を確実にしておくこと。				

(旧) 追加

(新) シラバス 68 ページ

授業名 GAP 演習 GAP Seminar		単位数 2 単位	授業の方法 演習
		履修年次	2 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山泰之、坂口良介、貞弘恵
授業時間	水曜日 4, 5 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックである GAP 規範が定められており、JGAP や GLOBAL G. A. P. などの認証制度がある。		
授業目的・目標	GAP の定義や導入されている背景、GAP 規範、GAP 認証制度などの基礎知識や食品安全に関する関連法について学び、GAP の実践方法について演習やフィールドワークを通じて習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	GAP の概要 (杉山泰之)	
	2	土壌と作物の栄養管理 (杉山泰之)	
	3	農場における水管理 (杉山泰之)	
	4	作物保護と廃棄物の取扱い (杉山泰之)	
	5	農場内の施設・資材管理 (杉山泰之)	
	6	農産物の安全性と食品衛生と関連法 (杉山泰之)	
	7	労働安全の確保 (杉山泰之)	
	8	農業管理の作業手順づくりと周知方法・社員教育の必要性 (杉山泰之)	
	9	人権保護 (杉山泰之)	
	10	農場経営管理 (杉山泰之)	
	11	リスク評価 (杉山泰之)	
	12	リスクの回避と模擬演習 (杉山泰之)	
	13	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	14	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	15	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	16	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	17	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	18	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	19	GAP 認証の取得方法 (杉山泰之)	
	20	GAP 認証の取得方法 (杉山泰之)	
	21	畜産実践編 飼養衛生と環境保全 (貞弘恵)	
	22	畜産実践編 アニマルウェルフェアに対応した飼養管理 (貞弘恵)	
	23	畜産実践編 畜産物生産工程におけるリスク管理 (貞弘恵)	
	24	畜産実践編 生産資材 (動物用医薬品・精液・受精卵・素畜・飼料・敷料) の管理 (貞弘恵)	
	25	畜産実践編 畜産現場における労働安全管理 (貞弘恵)	
	26	栽培実践編 施肥計画の検討 (坂口良介)	
	27	栽培実践編 防除計画の検討 (坂口良介)	
	28	栽培実践編 収穫作業方法の検討 (坂口良介)	
	29	栽培実践編 モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
	30	栽培実践編 モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
キーワード	農場管理、農産物、安全性、リスク、ハザード、J-GAP、G-GAP		
教科書・参考書	日本GAP協会「農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 実務者のための日本GAP協会 JGAP導入ガイドブック」、日本生産者GAP協会「日本GAP規範ver 1.1」(幸書房)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	労務管理、大型機械実習Ⅰ・Ⅱ、栽培学、園芸学、園芸学各論、家畜飼養学、家畜福祉学、飼料総論、畜産法規、家畜衛生学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 GAP演習 (GAP Seminar)		単位数 2単位	授業の方法 演習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山泰之、坂口良介、貞弘恵
授業時間	火曜日 3, 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。		
授業目的・目標	GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習やフィールドワークを通じて習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	GAPの概要 (杉山泰之)	
	2	土壌と作物の栄養管理 (杉山泰之)	
	3	農場における水管理 (杉山泰之)	
	4	作物保護と廃棄物の取扱い (杉山泰之)	
	5	農場内の施設・資材管理 (杉山泰之)	
	6	農産物の安全性と食品衛生 (杉山泰之)	
	7	労働安全の確保 (杉山泰之)	
	8	農業管理の作業手順づくりと周知方法・社員教育の必要性 (杉山泰之)	
	9	人権保護(杉山泰之)	
	10	農場経営管理(杉山泰之)	
	11	リスク評価 (杉山泰之)	
	12	リスクの回避と模擬演習 (杉山泰之)	
	13	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	14	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	15	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	16	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	17	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	18	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	19	GAP認証の取得方法 (杉山泰之)	
	20	GAP認証の取得方法 (杉山泰之)	
	21	(畜産実践編) 飼養衛生と環境保全 (貞弘恵)	
	22	(畜産実践編) アニマルウェルフェアに対応した飼養管理 (貞弘恵)	
	23	(畜産実践編) 畜産物生産工程におけるリスク管理 (貞弘恵)	
	24	(畜産実践編) 生産資材 (動物用医薬品・精液・受精卵・素畜・飼料・敷料) の管理 (貞弘恵)	
	25	(畜産実践編) 畜産現場における労働安全管理 (貞弘恵)	
	26	(栽培実践編) 施肥計画の検討 (坂口良介)	
	27	(栽培実践編) 防除計画の検討 (坂口良介)	
	28	(栽培実践編) 収穫作業方法の検討 (坂口良介)	
	29	(栽培実践編) モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
	30	(栽培実践編) モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
キーワード	農場管理、農産物、安全性、リスク、ハザード、J-GAP、G-GAP		
教科書・参考書	日本GAP協会「農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 実務者のための日本GAP協会 JGAP導入ガイドブック」、日本生産者GAP協会「日本GAP規範ver 1.1」(幸書房)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜福祉学、飼料総論、自給飼料、畜産法規、家畜衛生学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(25 ページ)</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p><u>カリキュラム・ポリシー</u></p> <p>①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせる。</u></p> <p>②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせる。</u></p> <p>③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p>④<u>成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行</u></p>	<p>(23 ページ)</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p><u>カリキュラム・ポリシー</u></p> <p>①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p><u>各CP (カリキュラム・ポリシー、以下同) は各DP (ディプロマ・ポリシー、以下同) に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、DP①はCP①、DP②はCP②と④、DP③はCP③と④、DP④はCP⑤と⑥、DP⑤はCP⑥、DP⑥はCP⑦に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身に付けることができる。CPと教育課程とDPの対応について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料21-1に示す。</u></p> <p><u>なお、本学は1学部1学科のため、このカリ</u></p>

新	旧
<p>う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を<u>挙げる</u>ことができるようGPA制度を活用する。<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ</u>て編成する。</p> <p><u>なお、本学は1学部1学科のため、このカリキュラム・ポリシーは本学全体のカリキュラム・ポリシーとする。「カリキュラム・マップ」を資料21-1に示す。</u></p> <p>(26 ページ)</p> <p>(2) 基礎科目</p> <p>(略)</p> <p><u>一般教養科目群とコミュニケーション・スキル科目群の2科目群から構成する。</u></p> <p>(略)</p> <p>また、法の基本を理解し、法学の基本概念を習得する「<u>法学概論</u>」、現代の課題を歴史的な観点から考える「<u>歴史学概論</u>」、<u>自然科学的な思考と文学的想像力との結びつき</u>について考察する「<u>文学概論</u>」、コミュニティについて学ぶ「<u>社会学概論</u>」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「<u>政治学概論</u>」、統計学の基本的な知識やデータ解析手法を学ぶ「<u>統計学</u>」を選択科目として配置する。<u>より深い教養をつける「文明論」、日本文化について学ぶ「茶道」、「華道」を、ステップアップのための自由科目として配置する。</u></p> <p>②コミュニケーション・スキルの科目群</p> <p>(略)</p> <p>コミュニケーション能力や表現力の向上を</p>	<p>キュラム・ポリシーは本学全体のカリキュラム・ポリシーとする。</p> <p>(24 ページ)</p> <p>(2) 基礎科目</p> <p>(略)</p> <p><u>「一般教養」科目群と「コミュニケーション・スキル」科目群の2科目群から構成する。</u></p> <p>①一般教養の科目群</p> <p>(略)</p> <p>また、法の基本を理解し、法学の基本概念を習得する「<u>法学概論</u>」、現代の課題を歴史的な観点から考える「<u>歴史学概論</u>」、「<u>文明論</u>」、<u>自然科学的な思考と文学的想像力との結びつき</u>について考察する「<u>文学概論</u>」、日本文化について学ぶ「<u>茶道</u>」、「<u>華道</u>」、コミュニティについて学ぶ「<u>社会学概論</u>」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「<u>政治学概論</u>」、統計学の基本的な知識やデータ解析手法を学ぶ「<u>統計学</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>(追加)</p> <p>②コミュニケーション・スキルの科目群</p> <p>(略)</p> <p>また、英語の「<u>聞く</u>」、「<u>話す</u>」、「<u>読む</u>」、「<u>書</u></p>

新	旧
<p>目的とした「コミュニケーション論」を必修科目として配置する。また、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を高める「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、それに加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」を選択科目とする。また、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を自由科目として配置し、学生が自分の能力に合わせて選択できるようにする。</p>	<p>く」の4技能を高める「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」技能に加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を選択科目として配置し、学生が自分の能力に合わせて選択できるようにする。</p>
<p>(略)</p>	<p>(略)</p>
<p>(26 ページ)</p>	<p>(24 ページ)</p>
<p>(3) 職業専門科目</p>	<p>(3) 職業専門科目</p>
<p>栽培・林業・畜産各分野の農林業生産現場の状況を的確に把握するための知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授業科目を配置する。農林業に関する基礎的知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目へ、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目に配置する。また、農林業生産に関する理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目に配置する。職業専門科目では、<u>農林業基礎の科目及び生産理論の共通科目は、全学生が共通で学ぶが、経営管理、生産理論、生産技術の科目は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて、加工・流通関連科目は栽培コース・畜産コース共同と、林業コースに分かれて学ぶ。</u></p>	<p>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授業科目を配置する。農林業に関する基礎的知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目群へ、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目群に配置する。また、農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目群へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目群に配置する。職業専門科目では、<u>農林業基礎及び経営管理の科目群は、全学生が共通で学ぶが、生産理論、生産技術、加工・流通・販売の科目群は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて学ぶ。</u></p>
<p>①経営管理の科目群</p> <p>経営管理の科目群は、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目群である。16科目を配置し、栽培・林業・畜産各分野の農林業経営を</p>	<p>①農林業基礎の科目群</p> <p>(略)</p> <p>農林業の発展や倫理的な課題について考え</p>

新	旧
<p>行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成とする。<u>3年次まで経営管理の科目群を共通で学び、4年次の「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」ではコース別に行う。</u></p> <p>農林業経営の基礎理論や経営管理の基礎理論について学ぶ「<u>農林業経営学</u>」、経営戦略に関する基礎理論や戦略策定に有効な分析手法について学ぶ「<u>経営戦略</u>」、マーケティングの基礎理論を学ぶ「<u>マーケティング論</u>」、企業の財務諸表の読み方や経営分析の手法について学ぶ「<u>財務会計</u>」、企業の利益管理や経営戦略と管理会計の関連について学ぶ「<u>管理会計</u>」、労働者の雇用の実務に必要な知識を学ぶ「<u>労務管理</u>」、<u>人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント</u>」、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において、生産現場における経営戦略について学ぶ<u>臨地実務実習「経営実習Ⅰ・Ⅱ」</u>を必修科目として配置する。</p> <p>また、<u>経営管理の科目群に関する学びを深める自由科目として、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解する「フードシステム論</u>」、<u>経営管理や経営組織の基礎理論について学ぶ「経営管理論</u>」、<u>経営組織の理論の基礎知識や農業協同組合の理念や組織、事業展開等について学ぶ「農林業の経営組織論</u>」、<u>知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権</u>」、<u>農業や食品関連分野での起業について学ぶ「農と食の起業論</u>」、<u>経営管理の実践力を高める「簿記基礎</u>」、「<u>簿記応用</u>」を配置する。</p> <p>②加工・流通・販売の科目群</p> <p><u>加工販売の手法や流通の仕組み、栽培・林業・畜産各分野の経営に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、9科目を配置する。6次産業化や販売管理を学ぶ科目は共通で学ぶ。食品加工・流通関連科目は栽培コースと畜産コースが、木材の加工・流通関連科目は林業コースが学ぶ。</u></p>	<p>る「<u>技術者倫理</u>」を必修科目として配置する。これらの3科目では、<u>自然環境の保全</u>について取り上げる。</p> <p>また、農林業の歴史の変遷を学ぶ「<u>農林業史</u>」、<u>農業・食料関連政策や森林・林業政策</u>について学ぶ「<u>農林業政策</u>」、<u>県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情</u>」、「<u>県外農林業事情</u>」、「<u>海外農林業事情</u>」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「<u>分子生物学</u>」、農林業における気象災害とその対策について学ぶ「<u>農業気象学</u>」、生命科学の基本を学ぶ「<u>生命科学</u>」、野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ「<u>野生鳥獣管理・利用論</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>(略)</p> <p>さらに、農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため、「<u>農林業のための基礎数学</u>」、「<u>農林業のための生物学</u>」、「<u>農林業のための化学</u>」、「<u>農林業のための物理学</u>」、「<u>農林業のための地学</u>」を自由科目として配置する。</p> <p>(25 ページ)</p> <p>②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、<u>農林業生産</u>に関する基礎的な理論、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群である。</p> <p>(略)</p> <p>コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの<u>農林業分野での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</u></p>

新	旧
<p>ア 共通</p> <p>6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」、販売管理の基礎理論や技術、POSシステムといった経営に活用される先端技術の知識と活用法について学ぶ「販売管理実習」を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース・畜産コース</p> <p><u>農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの知識と技術を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」をコース必修として配置する。</u></p> <p><u>食品の加工流通の知識をさらに深めるための自由科目として、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」を配置する。</u></p> <p>ウ 林業コース</p> <p>木材の様々な利用方法や流通・原木市場、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」、<u>木材加工の基礎理論と木工作品の製作を行う「木材加工実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p>(28 ページ)</p> <p>③農林業基礎の科目群</p> <p>(略)</p> <p>農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」を必修科目として配置する。これらの3科目では、<u>農山村の自然環境の保全</u>についても取り上げる。</p> <p>また、農業・食料関連政策や森林・林業政策</p>	<p>ア 共通</p> <p><u>コース選択の参考とする導入的な科目として、「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」を選択科目として配置する。</u>なお、「栽培学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」の授業の中で、<u>自然環境の保全</u>について取り上げる。また、<u>農林業の生産や経営に関連する先端技術</u>について学ぶ「<u>農林業のための先端技術</u>」を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>栽培コースの生産理論科目群として、<u>10科目</u>を配置する。栽培技術を学ぶ上で、<u>植物栄養や病害虫、栽培体系、環境保全型農業の知識</u>は不可欠である。このため、<u>植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料</u>について学ぶ「<u>肥料・植物栄養学</u>」、<u>病害虫の種類や特長</u>について学ぶ「<u>植物病理学</u>」及び「<u>応用昆虫学</u>」、<u>環境に配慮した農業</u>を学ぶ「<u>環境保全型農業論</u>」をコース必修として配置する。また、栽培体系及び先端技術を学ぶ科目として、<u>水稻や茶の栽培体系や精密農業</u>について学ぶ「<u>作物学</u>」、<u>野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御</u>について総合的に学ぶ「<u>園芸学</u>」を配置し、<u>いずれかを選択する</u>。これらの2科目は栽培に関する先端技術を学ぶ科目である。さらに知識を深める科目として、<u>土壌診断や土づくり</u>について学ぶ「<u>土壌学</u>」、<u>野菜栽培の基礎知識</u>を学ぶ「<u>野菜園芸学</u>」、<u>果樹栽培の基礎知識</u>を学ぶ「<u>果樹園芸学</u>」、<u>花き栽培の基礎知識</u>を学ぶ「<u>花き園芸学</u>」を選択科目として配置する。なお、<u>これらの10科目の授業の中で、自然環境の保全</u>について取り上げる。</p> <p><u>また、植物の遺伝の仕組みや育種技術</u>について学ぶ「<u>植物遺伝育種学概論</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>ウ 林業コース</p>

新	旧
<p>について学ぶ「<u>農林業政策</u>」、<u>県内の農林業経営体等の現状を学ぶ</u>「<u>県内農林業事情</u>」、<u>生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する</u>「<u>分子生物学</u>」、<u>農林業における気象災害とその対策について学ぶ</u>「<u>農業気象学</u>」、<u>生命科学の基本を学ぶ</u>「<u>生命科学</u>」、<u>野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ</u>「<u>野生鳥獣管理・利用論</u>」を選択科目として配置する。</p> <p><u>農林業の歴史の変遷を学ぶ</u>「<u>農林業史</u>」、<u>県外、海外の農林業経営体等の現状と課題を学ぶ</u>「<u>県外農林業事情</u>」、「<u>海外農林業事情</u>」を、<u>ステップアップのための自由科目</u>として配置し、さらに、<u>農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため</u>、「<u>農林業のための基礎数学</u>」、「<u>農林業のための生物学</u>」、「<u>農林業のための化学</u>」、「<u>農林業のための物理学</u>」、「<u>農林業のための地学</u>」を<u>リメディアルのための自由科目</u>として配置する。</p> <p>(29 ページ)</p> <p>④生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、<u>栽培・林業・畜産各分野の生産に関する基礎的な理論</u>、<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産</u>、<u>農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群</u>である。</p> <p>(略)</p> <p>コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの<u>分野</u>での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</p> <p>ア 共通</p> <p><u>栽培・畜産・林業の3分野について学び</u>、<u>コース選択の参考とする導入的な科目</u>の「<u>農林業生産理論</u>」、<u>農林業の生産や経営に関連する先</u></p>	<p>林業コースの生産理論科目群として<u>6科目</u>を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「<u>森林計画・政策論</u>」、<u>林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ</u>「<u>木材生産システム</u>」をコース必修として配置する。<u>これら2科目は、林業における先端技術について学ぶ科目</u>である。</p> <p>また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「<u>造林学</u>」、<u>治山・砂防や林業土木</u>、<u>森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学ぶ</u>「<u>森林土木学</u>」、<u>木質バイオマスについて学ぶ</u>「<u>木質科学概論</u>」<u>森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的</u><u>林業経営や森林認証制度について学ぶ</u>「<u>森林マネジメント</u>」をコース必修として配置する。</p> <p>なお、「<u>森林計画・政策論</u>」、「<u>造林学</u>」、「<u>森林マネジメント</u>」では、<u>授業のなかで自然環境保全について取り上げる</u>。さらに、「<u>造林学</u>」及び「<u>森林土木学</u>」では<u>森林景観の保全について取り上げる</u>。</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>(略)</p> <p>「<u>家畜衛生学</u>」、<u>環境に配慮した畜産について学ぶ</u>「<u>畜産環境学</u>」をコース必修として配置する。なお、「<u>家畜飼養学</u>」の授業の中で畜産分野での<u>先端技術を</u>、「<u>畜産環境学</u>」の中で<u>自然環境の保全について取り上げる</u>。</p> <p>また、畜産分野では家畜人工授精師が重要な資格となっているため、本資格を取得するために必要となる「<u>畜産法規</u>」や「<u>人工授精論</u>」を<u>選択科目として配置する</u>。更に、<u>草地の特徴や管理方法について学ぶ</u>「<u>自給飼料</u>」や、<u>アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理が求めら</u></p>

新	旧
<p><u>端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」、農林業と自然環境の保全について体系的に学ぶ「環境保全型農林業論」の3科目を共通の必修科目として配置する。</u></p> <p>イ 栽培コース</p> <p>栽培コースの生産理論科目群として、<u>7科目を配置する。栽培技術を学ぶ上で、植物栄養や病害虫、栽培体系の知識は不可欠である。このため、土づくりや植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「土壌肥料・植物栄養学」、水稻や茶の栽培体系や精密農業について学ぶ「作物学」、野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御、栽培に関する先端技術を併せて総合的に学ぶ「園芸学」、病害虫の種類や特長について学ぶ「植物病理学」及び「応用昆虫学」をコース必修として配置する。さらに知識を深める自由科目として、野菜や花き、果樹の詳細な栽培体系や栽培に関する先端技術をより深く学ぶ「園芸学各論」、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」を配置する。なお、これらの7科目の授業の中で、栽培分野における環境の保全についても取り上げる。</u></p> <p>ウ 林業コース</p> <p>林業コースの生産理論科目群として<u>5科目を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「森林計画・政策論」、林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」をコース必修として配置する。</u></p> <p>また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「造林学」、治山・砂防や林業土木、森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学ぶ「森林土木学」、<u>木質</u></p>	<p><u>れるようになってきているため、「家畜福祉学」を選択科目として配置する。</u></p> <p>③経営管理の科目群</p> <p>経営管理の科目群は、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目群である。<u>17科目を配置し、農林業経営を行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成とする。</u></p> <p>(追加)</p> <p>農林業経営の基礎理論や経営管理の基礎理論について学ぶ「農林業経営学」、経営戦略に関する基礎理論や戦略策定に有効な分析手法について学ぶ「経営戦略」、マーケティングの基礎理論を学ぶ「マーケティング論」、企業の財務諸表の読み方や経営分析の手法について学ぶ「財務会計」、企業の利益管理や経営戦略と管理会計の関連について学ぶ「管理会計」、労働者の雇用の実務に必要な知識を学ぶ「労務管理」、農林業の経営について学ぶ臨地実務実習である「経営実習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。</p> <p><u>また、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解する「フードシステム論」、農林業経営を取り巻く法令について学ぶ「法と農業経営」、経営管理や経営組織の基礎理論について学ぶ「経営管理論」、経営組織の理論の基礎知識や農業協同組合の理念や組織、事業展開等について学ぶ「農林業の経営組織論」、人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」、農業や食品関連分野での起業について学ぶ「農と食の起業論」を選択科目として配置する。さらに、経営管理の科目群に関する学びを深めるにあたっては簿記の知識が</u></p>

新	旧
<p>バイオマスの特徴と実際について学ぶ「木質科学概論」をコース必修として配置する。</p> <p>なお、「森林計画・政策論」、「造林学」では、<u>林業分野における環境保全について、「森林計画政策論」、「木材生産システム」では先端技術について、「造林学」及び「森林土木学」では森林景観の保全についても取り上げる。</u></p> <p>エ 畜産コース (略)</p> <p>「家畜衛生学」をコース必修として配置する。なお、「家畜飼養学」の授業の中で畜産分野における<u>先端技術についても取り上げる。</u></p> <p>また、畜産分野では家畜人工授精師が重要な資格となっているため、本資格を取得するために必要となる「畜産法規」や「人工授精論」を自由科目として配置する。</p> <p>⑤生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、<u>栽培・畜産・林業の各分野における基礎的な技術や先端技術、環境の保全に配慮した生産について学ぶ科目群であり、15科目を配置する。</u></p> <p>ア 共通</p> <p>共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など<u>生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を必修科目として配置する。また、農業機械士の資格取得を目指す「大型農業機械実習Ⅱ」を自由科目として配置する。</u></p> <p>イ 栽培コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、</p>	<p>不可欠であるため、「簿記基礎」、「簿記応用」を自由科目として配置する。</p> <p>④加工・流通・販売の科目群</p> <p>加工・流通・販売の科目群は、加工販売の手法や流通の仕組み、<u>農林業経営に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、12科目を配置し、生産理論と同様に、3コースに分かれて学ぶ。</u></p> <p>ア 栽培コース</p> <p>販売管理の基礎理論やPOSシステムといった経営に活用される先端技術の知識を学ぶ「販売管理論」と、販売技術やPOSシステムの活用法について学ぶ「販売実習」をコース必修として配置する。また、<u>食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」を選択科目として配置する。</u></p> <p>イ 林業コース</p> <p>木材の様々な利用方法や流通・原木市場、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」、<u>木材加工の基礎理論を学ぶ「木材加工学」、木工作品の製作を行う「木材加工実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p>ウ 畜産コース</p> <p>販売管理の基礎理論やPOSシステムとい</p>

新	旧
<p>生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、<u>栽培分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（栽培）」では、先端技術の導入についても学ぶ。</p> <p>ウ 林業コース</p> <p>基礎的な<u>森林の管理技術</u>を学ぶ「演習林実習」、林業分野生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、<u>林業分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」では、先端技術の導入について学ぶ。</p> <p>また、林業機械の操作法や高性能林業機械についても学ぶ「<u>林業機械実習</u>」を自由科目として配置する。</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>基礎的な<u>家畜の飼養管理技術</u>を学ぶ「圃場実習（畜産）」、<u>畜産分野の生産現場のマネジメント</u>の基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」、<u>畜産分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」では、先端技術の導入についても学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">(削除)</p> <p>(4) 展開科目</p> <p>農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、<u>栽培・畜</u></p>	<p>った経営に活用される先端技術の知識を学ぶ「販売管理論」と、販売技術やPOSシステムの活用法について学ぶ「販売実習」をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」を選択科目として配置する。</p> <p style="text-align: center;">(25 ページ)</p> <p>⑤生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、<u>農林業生産に関する基礎的な技術や先端技術、農山村の自然環境の保全に配慮した生産を学ぶ科目群</u>であり、15科目を配置し、<u>共通科目と生産理論と同様の3コースに分かれて学ぶ科目</u>からなる。</p> <p>ア 共通</p> <p>共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など<u>農業の生産工程管理</u>について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」、<u>農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」</u>を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>

新	旧
<p><u>産・林業の各分野の経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた人材を養成するための10科目を配置し、全コースが共通で学ぶ。</u></p> <p>①農山村の伝統・文化及び地域社会の科目群</p> <p>農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」、<u>農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目</p> <p>①総合的思考能力の科目群</p> <p>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・畜産・林業の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を習得するため、<u>栽培・畜産・林業の各分野の経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ3科目を配置し、全コースが共通で学ぶ。</u></p> <p><u>栽培・畜産・林業の各分野の経営体の生産部門の分析を行う「経営分析演習Ⅰ」、経営全般について分析する「経営分析演習Ⅱ」、課題と</u></p>	<p>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（栽培）」では、先端技術の導入について学ぶ。また、<u>大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</u></p> <p>ウ 林業コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「演習林実習」、<u>生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」をコース必修として配置する。</u>なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」では、先端技術の導入について学ぶ。また、<u>林業機械の操作法や高性能林業機械について学ぶ「林業機械実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p>エ 畜産コース</p> <p>基礎的な飼養管理技術を学ぶ「圃場実習（畜産）」、<u>生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」をコース必修として配置する。</u>なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」では、先端技術の導入について学ぶ。<u>また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</u></p> <p>(4) 展開科目</p> <p>農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、<u>農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、農林業経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた農林業経営者を養成するための科目を配置する。</u></p>

新	旧
<p>解決策を考える「プロジェクト研究」を必修科目として配置する。</p>	<p>①<u>農山村の伝統・文化の継承の科目群</u> 農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」を必修科目として配置する。</p> <p>②<u>農山村の地域社会の科目群</u> 農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。</p> <p>(5) <u>総合科目</u></p> <p>修得した専門知識と技術を駆使して<u>農林業経営</u>における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を習得するため、<u>農林業経営</u>における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ科目を配置する。</p> <p><u>農林業経営体の生産部門の分析</u>を行う「経営分析演習Ⅰ」、<u>農林業経営体の経営全般</u>について分析する「経営分析演習Ⅱ」、<u>農林業経営体を分析し、課題と解決策</u>を考える「プロジェクト研究」を必修科目として配置する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(36 ページ)</p> <p>6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)</p> <p>④履修モデル</p> <p><u>栽培コース・林業コース・畜産コースのコース別の履修モデルは、次のとおりである (資料23)。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修モデル：<u>栽培コース</u> ・履修モデル：<u>林業コース</u> ・履修モデル：<u>畜産コース</u> 	<p>(34 ページ)</p> <p>6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)</p> <p>④履修モデル</p> <p><u>履修モデルを提示し、卒業後の進路希望に即した履修指導を行う。設定した履修モデルは、次のとおりである (資料23)。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修モデル：<u>農業経営・水稻 (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業経営・茶 (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業経営・施設野菜 (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・農業経営・<u>露地野菜 (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・農業経営・<u>花き (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業経営・果樹 (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>林業経営 (経営体後継者・幹部・起業者、森林組合職員)</u> ・履修モデル：<u>畜産経営 (経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業指導者 (公務員、農業協同組合職員)</u> ・履修モデル：<u>林業指導者 (公務員)</u> ・履修モデル：<u>畜産指導者 (公務員、農業協同組合職員)</u>

5. <教育課程の体系性が不十分>

農林業経営者を育成するのであれば、経営者に不可欠な知識として「経営管理論」、
「人材マネジメント」を必修に改めること。

(対応)

本学として養成する人材像は、経営者も含む「栽培、林業、畜産の各分野において経営体の中核を担う人材」である。

経営体において中核を担う人材は、経営組織や経営戦略など経営管理の基礎理論や、経営資源である人材の管理の知識は不可欠であり、今後経営体の大規模化に対応するためにも、人材のマネジメント能力は重要である。

改めて教育内容を検討し、これらの知識について学ぶ「経営管理論」や「人材マネジメント」は、本学のすべての学生が学ぶべき科目と考え、補正申請では選択科目であったが、必修科目へ履修条件を改める。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新					旧						
(2ページ)					(2ページ)						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由				必修	選択	自由
②職業専門科目	簿記基礎	1前			1	②職業専門科目	簿記基礎	1前			1
	簿記応用	1後			1		簿記応用	1後			1
	フードシステム論	1後			2		フードシステム論	1後		2	
	経営管理論	1後	2				法と農業経営	2前		2	
	農林業経営学	1前	2				経営管理論	2前		2	
	経営戦略	2前	2				農林業経営学	1後	2		
	マーケティング論	2後	2				経営戦略	2前	2		
	財務会計	2前	2				マーケティング論	2後	2		
	管理会計	3前	1				財務会計	2前	2		
	農林業の経営組織論	3前			2		管理会計	3前	1		
	労務管理	2後	2				農林業の経営組織論	3前			2
	人材マネジメント	3後	2				労務管理	2後	2		
	知的財産権	3後			2		人材マネジメント	3前			2
	農と食の起業論	3後			2		知的財産権	3後			2
経営実習 I	4前	5			農と食の起業論	3後			2		
経営実習 II	4後	5			経営実習 I	4前	5				
					経営実習 II	4後	5				

6. <教育課程の編成方針が不明確>

農林業経営体の中核を担う人材を育成するのであれば、「6次産業化実践論」、「販売実習」を必修とすることも考えられるが、それらの科目を選択として配置する趣旨やその代替として学ぶ科目をどのように配置しているのか明らかにすること。

(対応)

本学として養成する人材像は、「栽培、林業、畜産各分野の経営体の中核を担う人材」である。

経営体の中核を担う人材として、第1次産業、第2次産業、第3次産業が連携し、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す6次産業化の知識は不可欠であるため、「6次産業化実践論」を選択科目から必修科目へ履修条件を改める。

また、審査意見4を踏まえて内容を検討し、理論と技術を一体的に学ぶ方が、教育効果が高いため、講義科目である「販売管理論」と実習科目である「販売実習」を「販売管理実習」に統合した。改めて教育内容を検討し、経営体の中核を担う人材として、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための販売管理の知識や技術は不可欠であるため、「販売管理実習」を必修科目とする。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新					旧						
(2ページ)					(2ページ)						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由				必修	選択	自由
②職業専門科目	食品科学	2前			2	②職業専門科目	食品科学	2前			2
	収穫後生理学	3前			2		食品加工学	2後			2
	木材利用・流通論	2後		2			収穫後生理学	3前			2
	食品流通論	3前		2			木材利用・流通論	2前			2
	農と食の健康論	2後			2		木材加工学	2後			2
	6次産業化実践論	3後	2				食品流通論	3前			2
	食品加工実習	3前		2			販売管理論	3前			2
	木材加工実習	3前		2			農と食の健康論	2後			2
	販売管理実習	3前	2				6次産業化実践論	3後			2
					食品加工実習	3前			2		
					木材加工実習	3前			2		
					販売実習	3後			2		

7. <科目の配置が不十分>

選択科目を林業コースと畜産コースの学生のみが履修する場合、少数の学生での開講となるため、例えば「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」、「畜産環境学」を科目としてまとめて開講するなど、学修効果の観点から少数の学生で開講されることを改善すること。

(対応)

環境を学ぶ応用的な科目として、栽培コースでは「環境保全型農業論」、林業コースでは「森林マネジメント」、畜産コースでは「畜産環境学」を、それぞれのコースでコース必修として配置していた。

将来の農山村の地域社会のリーダーの育成という目的に照らして、改めて教育課程を見直したところ、総合的農作物管理や、農畜産における廃棄物処理、生物の多様性、森林の公益的機能など農林業全体の環境について学ぶ方が、教育効果が高く、また、少人数での開講となる懸念が解消されるため、「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」、「畜産環境学」を「環境保全型農林業論」へ統合し、コースに関係なく全学生が学ぶ必修科目とする。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新				旧			
(2ページ)				(2ページ)			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				
			必修	選択	自由		
② 職業専門科目 (生産理論)	農林業生産理論	1後	2				
	環境保全型農林業論	3前	2				
	農林業のための先端技術	3前	2				
	作物学	2前		2			
	園芸学	2後		2			
	園芸学各論	3前			2		
② 職業専門科目 (栽培論)	植物病理学	2前		2			
	応用昆虫学	2後		2			
	土壌肥料・植物栄養学	2前		2			
	植物遺伝育種学概論	2後			2		
	栽培学	1後			2		
	植物生理生態学	1後			2		
② 職業専門科目 (生産理論)	作物学	2前		2			
	園芸学	2前		2			
	植物病理学	2前		2			
	応用昆虫学	2後		2			
	肥料・植物栄養学	2前		2			
	野菜園芸学	2後		2			
	果樹園芸学	2後		2			
	花き園芸学	2後		2			
	植物遺伝育種学概論	2後			2		
	土壌学	2後			2		
	環境保全型農業論	3前			2		

新					旧				
(3 ページ)					(3 ページ)				
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数						
			必 修	選 択	自 由				
②職業専門科目	(生産理論 - 林業)	森林計画・政策論	2前	2					
		造林学	2前	2					
		森林土木学	2前	2					
		木質科学概論	2後	2					
		木材生産システム	2後	2					
	(生産理論 - 畜産)	飼料総論	2前	2					
		家畜生理解剖学	2前	2					
		家畜育種繁殖学	2後	2					
		家畜飼養学	2前	2					
		畜産法規	3前		2				
	人工授精論	2後		2					
	家畜衛生学	2後	2						
②職業専門科目	(生産理論 - 林業)	森林計画・政策論	2前	2					
		造林学	2前	2					
		樹木・組織学	1後	2					
		森林土木学	2前	2					
		木質科学概論	2後	2					
		木材生産システム	2後	2					
		森林マネジメント	3前	2					
	(生産理論 - 畜産)	畜産概論	1後	2					
		飼料総論	2前	2					
		家畜生理解剖学	2前	2					
		家畜育種繁殖学	2後	2					
		家畜飼養学	2前	2					
		畜産法規	2前	2					
		人工授精論	2前	2					
	自給飼料	2後	2						
	家畜衛生学	2後	2						
	家畜福祉学	2後	2						
	畜産環境学	3前	2						

8. <臨地実務実習の成績評価が不明確>

成績評価において、「単位認定における成績評価の項目」と「成績評価及び単位認定」があるが、それぞれの内容が異なっているため確認して適切に改めること。

(対応)

御指摘を踏まえて、改めて内容を確認したところ、「設置の趣旨を記載した書類」の「11 実習の具体的計画」の「(1) 学内施設及び件試験研究機関等での実習」及び「(2) 隣地実務実習」では、成績評価の項目が異なるため、本来は分けて記載すべきところを、「(4) 成績評価体制及び単位認定方法」でまとめて記載しており、不明確でわかりにくく、また、「(2) 隣地実務実習」の各隣地実習の「単位認定における成績評価の項目」の内容と一致していなかった。

また、「(2) 隣地実務実習」の「⑬成績評価体制及び単位認定」の内容は、臨地実務実習指導者が記載する臨地実務実習の取組状況の評価の内容であり、標題が不適切であった。

このため、成績評価の方法について「(1) 学内施設及び件試験研究機関等での実習」と「(2) 隣地実務実習」のそれぞれの評価項目を明らかにし、それぞれの成績評価と単位認定の内容について記載するように「設置の趣旨を記載した書類」の内容をあたためる。あわせて、「シラバス」及び「臨地実務実習要綱(案)」の記載内容を改める。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
(45ページ) 経営実習 I 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価 (25%)、自己点検表 (10%)、報告書 (40%)、報告会 (25%)</u>	(54ページ) 経営実習 I 評価方法・評価基準 <u>作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)</u>
(46ページ) 経営実習 II 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価 (25%)、自己点検表 (10%)、報告書 (40%)、報告会 (25%)</u>	(55ページ) 経営実習 II 評価方法・評価基準 <u>作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)</u>
(69ページ) 企業実習 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価 (25%)、自己点検表 (10%)、報告書 (40%)、報告会 (25%)</u>	(80ページ) 企業実習 評価方法・評価基準 <u>作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (52ページ)

新	旧
<p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略)</p> <p>⑦成績評価及び単位認定 成績評価及び単位認定は、学生の報告資料 (レポート)や学生の取組姿勢を総合的に判 断して行う。</p> <p>⑧緊急連絡体制 実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連 絡先や緊急時の対応について定める対応マ ニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受 講する学生にも周知の徹底を図る。 (略)</p> <p>(2) 臨地実務実習(資料 29 臨地実務実習 要綱) (略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的 ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単 位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目は、 次の通りである。 a. <u>臨地実務実習指導者による取組状 況の評価</u> b. <u>学生が作成する自己点検表</u> c. <u>学生が作成する報告書</u> d. <u>臨地実務実習後の報告会</u> (略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目は、 次の通りである。</p>	<p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略) <u>(追加)</u></p> <p>(略)</p> <p>(2) 臨地実務実習(資料 29 臨地実務実習 要綱) (略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的 ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単 位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目 は、次の通りである。 a. <u>臨地実務実習指導者による成績 評価</u> b. <u>臨地実務実習中の作業記録・自 己点検表</u> c. <u>臨地実務実習後の報告会での報 告内容</u> d. <u>事後報告書</u> (略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目は、 次の通りである。</p>

新	旧
<p>a. <u>臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p>b. <u>学生が作成する自己点検表</u></p> <p>c. <u>学生が作成する報告書</u></p> <p>d. <u>臨地実務実習後の報告会</u></p> <p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位） （略） （エ）評価 単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</p> <p>a. <u>臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p>b. <u>学生が作成する自己点検表</u></p> <p>c. <u>学生が作成する報告書</u></p> <p>d. <u>臨地実務実習後の報告会</u></p> <p>（略）</p> <p>⑬成績評価及び単位認定 <u>全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得る。成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する作業記録・自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での報告内容をもとに、総合的に判断して行う。</u></p>	<p>a. <u>臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p>b. <u>臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p>c. <u>臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>d. <u>事後報告書</u></p> <p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位） （略） （エ）評価 単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</p> <p>a. <u>臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p>b. <u>臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p>c. <u>臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>d. <u>事後報告書</u></p> <p>（略）</p> <p>⑬成績評価体制及び単位認定 臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科目別に3種類（企業実習、経営実習Ⅰ、経営実習Ⅱ）に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。</p> <p>各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</p> <p>a. 態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</p> <p>b. 臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</p>

新	旧												
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;">(削除)</p>	<p>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</p> <p style="text-align: center;">＜評価＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">評価</th> <th style="text-align: center;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(4) 成績評価体制及び単位認定方法 成績評価及び単位認定は、学生の報告資料(レポート)や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(5) 緊急連絡体制 実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。
評価	内容												
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。												

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 資料29 臨地実務実習要綱 (案)

新	旧
<p>(3ページ)</p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p>	<p>(5ページ)</p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p>

新	旧
<p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p><u>②学生が作成する自己点検表</u></p> <p><u>③学生が作成する報告書</u></p> <p><u>④臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p><u>②学生が作成する自己点検表</u></p> <p><u>③学生が作成する報告書</u></p> <p><u>④臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>3) 経営実習 II (4年次後期 5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p><u>②学生が作成する自己点検表</u></p> <p><u>③学生が作成する報告書</u></p> <p><u>④臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①実習受入先の農林業経営体を理解するための事前調査</u></p> <p><u>②農林業経営体の生産現場における生産技術の学習</u></p> <p><u>③学習内容の記録・報告</u></p> <p><u>④事後の報告書</u></p> <p>2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①実習受入先の農林業経営体を理解するための事前調査</u></p> <p><u>②生産現場におけるマネジメントの学習</u></p> <p><u>③学習内容の記録・報告</u></p> <p><u>④事後報告</u></p> <p>3) 経営実習 II (4年次後期 5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p>① 実習受入先の農林業経営体を理解するための事前調査</p> <p>② 生産現場におけるマネジメントの学習</p> <p>③ 学習内容の記録・報告</p> <p>④ 事後報告</p> <p>4) 評価方法 全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。評価基準を下表に示す。「企業実習」では、「職業人としての適性」、「生産管理」について、「経営実習 I」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作</p>

新	旧										
<p>4) 評価事項 <u>臨地実務実習で身に付ける技能を明らかにするため、臨地実務実習ごとの評価事項を下記に示す。</u></p>	<p>業管理」について、「経営実習Ⅱ」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作業管理」、「財務管理」について評価基準を設けて、評価を行う。</p> <p>5) 評価事項 各臨地実務実習ごとの評価事項を下記に示す。</p>										
<p>(21 ページ) V (全員) 臨地実務実習の評価 (略)</p> <p>2. 臨地実務実習指導者による実習の取組状況評価</p> <p>(1) 臨地実務実習指導者が毎日、出欠の状況を確認し、臨地実務実習出欠表(様式第7号)へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。</p> <p>(2) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表(様式第8～10号)を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。</p> <p>(3) 臨地実務指導者は、臨地実務実習評価表に署名・捺印し、記載年月日を記入する。</p> <p>3. 臨地実務実習評価表の記入方法 臨地実務実習指導者は、実習の取組状況</p>	<p>(23 ページ) V (全員) 臨地実務実習の評価 (略)</p> <p>2. 評価項目</p> <table border="1" data-bbox="879 1272 1394 1711"> <thead> <tr> <th>作成者</th> <th>提出書類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨地実務実習指導者</td> <td>評価表(様式8号、様式9号、様式10号)</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>自己点検表(様式12号、様式13号、様式14号) 報告書(様式15号)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>方法 臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科</p>	作成者	提出書類	臨地実務実習指導者	評価表(様式8号、様式9号、様式10号)	学生	自己点検表(様式12号、様式13号、様式14号) 報告書(様式15号)				
作成者	提出書類										
臨地実務実習指導者	評価表(様式8号、様式9号、様式10号)										
学生	自己点検表(様式12号、様式13号、様式14号) 報告書(様式15号)										

新	旧																								
<p>について、<u>臨地実務実習評価表を用いて評価する。評価表は、職業人としての適性、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっており、下表の評価基準のとおり5段階で評価する。</u></p>	<p>目別に3種類（企業実習、経営実習Ⅰ、経営実習Ⅱ）に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。</p> <p>1) <u>態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</u></p> <p>2) <u>臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</u></p> <p><u>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</u></p>																								
<p><評価基準></p> <table border="1" data-bbox="256 1137 715 2011"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。	<p><評価></p> <table border="1" data-bbox="831 1126 1289 2000"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。
評価	内容																								
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。																								
評価	内容																								
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。																								

新		旧	
<p>4. <u>成績評価及び単位認定</u></p> <p><u>全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得る。実習の成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での内容を、下表に基づいて総合的に判断して行う。</u></p>		<p>3) 出欠の状況は、臨地実務実習指導者が毎日、臨地実務実習出欠表（様式第 7号）へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。</p> <p>4) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表（様式第8～10号）を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。</p> <p>5) 臨地実務実習評価表には、署名・捺印し、記載年月日を記入する。</p>	
		<p>3. <u>単位認定</u></p> <p><u>各実習において、全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</u></p>	
評価項目	様式等 (作成者)	比率	
①評価表	(様式 8 号、様式 9号、様式 10号) (臨地実務実習指導者)	25%	
②自己点検表	(様式 12号、様式 13号、様式 14号) (学生)	10%	
③報告書	(様式 15号) (学生)	40%	
④報告会	(パワーポイントを使った発表) ニ	25%	

9. <臨地実務実習の具体的な内容が不明確>

臨地実務実習において実務に従事するに当たり、例えば、「生産管理・林業」の実習においては「小型の林業機械」を使用することが示されているが、実習に臨む上で前提となる知識やあらかじめ取得しておくべき資格や免許などの有無が不明確であるため、実習先で必要となる知識等を説明しつつ、各実習の具体的な内容を明らかにすること。

(対応)

御指摘を踏まえ、臨地実務実習に望む上で前提となる知識・技術や、資格・免許について明確にし、実習の具体的な内容を明らかにする。

(詳細説明)

本学の臨地実務実習として「企業実習」、「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」を配置している。各臨地実務実習に望む上で前提となる知識や技術、資格や免許等は次のとおりである。

<前提となる知識や技術、資格や免許等>

①「企業実習」

「企業実習」の受講に当たっては、事前に、すべての学生が「総合実習」で行う刈払機作業安全衛生教育を修了し、また、「大型機械実習Ⅰ」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。

また、栽培コースでは、「圃場実習（栽培）」において作物の特徴や作型に関する知識や栽培技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」において生産管理の基礎知識・技術を学ぶ。林業コースでは、「演習林実習」において森林・林業生産の基礎知識・技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」においてチェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術、森林の保護管理技術を学ぶ。畜産コースでは、「圃場実習（畜産）」において、家畜の特徴や生理や習性に関する知識、家畜の「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」において、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。

<必要な知識・技術や資格・免許等>

コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等
栽培コース	<ul style="list-style-type: none">作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術生産管理の基礎知識・技術	<ul style="list-style-type: none">刈払機作業安全衛生教育修了大型特殊免許（農耕車限定）
林業コース	<ul style="list-style-type: none">森林・林業生産の基礎知識・技術チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術森林の保護管理技術	<ul style="list-style-type: none">刈払機作業安全衛生教育修了大型特殊免許（農耕車限定）
畜産コース	<ul style="list-style-type: none">家畜の特徴や生理や習性に関する知識家畜飼養管理の基礎知識・技術	<ul style="list-style-type: none">刈払機作業安全衛生教育修了大型特殊免許（農耕車限定）

② 「経営実習Ⅰ」

「経営実習Ⅰ」の受講に当たっては、事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コースは、「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」、において、下表の知識や技術を取得することを想定している。

<必要な知識・技術等>

コース	必要な知識・技術
栽培コース	<ul style="list-style-type: none">・ 経営分析の知識・ 労務管理の知識・ 生産工程管理の知識・技術・ 実践的な栽培管理の知識・技術
林業コース	<ul style="list-style-type: none">・ 経営分析の知識・ 労務管理の知識・ 生産工程管理の知識・技術・ 実践的な森林・林業生産の知識・技術
畜産コース	<ul style="list-style-type: none">・ 経営分析の知識・ 労務管理の知識・ 生産工程管理の知識・技術・ 実践的な家畜飼養管理の知識・技術

③ 「経営実習Ⅱ」

「経営実習Ⅱ」の受講にあたっては、事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。

＜必要な知識・技術等＞

コース	必要な知識・技術
栽培コース 畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 人的資源管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 販売管理の知識・技術 ・ 食品加工の知識・技術
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 人的資源管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 販売管理の知識・技術 ・ 木材加工の知識・技術

以上について、当初申請や補正申請では具体的な知識や技術、資格や免許についての記載が不十分であったため、授業科目の概要及びシラバス、設置の趣旨を記載した書類の内容が具体的となるように記載内容を改める。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合実習	<p>(16ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、<u>農作業安全</u>や農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑨ 太田智/4回) 果樹栽培: 果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(⑩ 相蘇春菜/2回) 林業: 木材の樹種同定</p> <p>(⑪ 大石竜/2回) 野菜栽培(施設): 環境制御システムの利用法</p> <p>(⑫ 貞弘恵/4回) 畜産: 酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(⑬ 中根健/2回) 作物栽培: 田植え</p> <p>(⑭ 中根健、⑮ 増田壽彦、⑯ 坂口良介/4回) (共同) <u>農作業安全: 危険箇所・危険作業の確認、刈払機・運搬車の講習</u></p>	オムニバス方式(一部)	総合実習	<p>(16ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑭ 太田智/4回) 果樹栽培: 果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(⑮ 相蘇春菜/2回) 林業: 木材の樹種同定</p> <p>(⑰ 大石竜/4回) 野菜栽培(施設): 環境制御システムの利用法</p> <p>(⑱ 貞弘恵/4回) 畜産: 酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(⑳ 中根健/4回) 作物栽培: 田植え</p> <p>(㉑ 中野敬之/4回) 茶栽培: 摘採、製茶</p> <p>(㉒ 五十右薫/4回) 花き栽培: 播種、鉢上げ、収穫・調整</p>	オムニバス方式

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(24) 中野敬之 / 4 回) 茶栽培 : 摘採、製茶 (26) 五十右薫 / 4 回) 花き栽培 : 播種、鉢上げ、収穫・調整 (27) 増田壽彦、(28) 坂口良介 / 4 回) (共同) 野菜栽培 (露地) : 露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察			(32) 増田壽彦、(33) 坂口良介 / 4 回) (共同) 野菜栽培 (露地) : 露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察	

(新旧対照表) シラバス

(新) 55ページ

授業名 総合実習 Field Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	1年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	中根健、中野敬之、坂口良介、増田壽彦、大石竜、太田智、五十右薫、貞弘恵、相蘇春菜
授業時間	水曜日 3時限	教室	実習圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	実習や生産現場の見学を通じ、水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術、 <u>農作業安全</u> など農学の基本を学ぶ。また、ICTやIoTの事例の視察を行う。		
授業目的・目標	①農林業を総合的に理解する。 ②農林業の先端技術の現状を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1~4	農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、運搬車の安全使用、刈払機の安全講習)(中根健、増田壽彦、坂口良介)	
	5~6	作物栽培: 田植え(中根健)	
	7~10	茶栽培: 摘採、製茶(中野敬之)	
	11~12	野菜栽培(露地): 露地野菜の播種、育苗、定植(坂口良介、増田壽彦)	
	13~14	野菜栽培(露地): スマート農業の視察(坂口良介、増田壽彦)	
	15~16	野菜栽培(施設): 環境制御システムの利用方法(大石竜)	
	17~20	果樹栽培: 枝管理と着果管理、接木、挿し木(太田智)	
	21~24	花き栽培: 播種、鉢上げ、収穫、調整(五十右薫)	
	25~28	畜産: 酪農施設、乳業メーカー見学(貞弘恵)	
	29~30	林業: 木材の樹種同定(相蘇春菜)	
キーワード	水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業		
教科書・参考書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	圃場実習(栽培)、圃場実習(畜産)、演習林実習		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 総合実習 Field Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	1年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	中根健、中野敬之、坂口良介、増田壽彦、大石竜、太田智、五十右薫、貞弘恵、相蘇春菜
授業時間	水曜日 3時限	教室	圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、 <u>農学の基本を学ぶ</u> 。また、ICTやIoTの事例の視察を行う。		
授業目的・目標	①農林業を総合的に理解する。 ②農林業の先端技術の現状を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1~4	作物栽培：田植え（中根健）	
	5~8	茶栽培：摘採、製茶（中野敬之）	
	9~10	野菜栽培（露地）：露地野菜の播種、育苗、定植（坂口良介、増田壽彦）	
	11~12	野菜栽培（露地）：スマート農業の視察（坂口良介、増田壽彦）	
	13~16	野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用方法（大石竜）	
	17~20	果樹栽培：枝管理と着果管理、接木、挿し木（太田智）	
	21~24	花き栽培：播種、鉢上げ、収穫、調整（五十右薫）	
	25~28	畜産：酪農施設、乳業メーカー見学（貞弘恵）	
	29~30	林業：木材の樹種同定（相蘇春菜）	
キーワード	水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業		
教科書・参考書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート（50%）、履修態度（50%）		
関連科目	圃場実習（栽培）、圃場実習（畜産）、演習林実習		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 演習林実習 Forest Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産経営科学科		
授業コード	8910234	教員名	相蘇春菜、星川健史
授業時間	火曜日 1, 2時限	教室	県有林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	林業経営管理全般を理解するため、実習を通じて森林の調査方法、服装と道具、造林技術などの基礎知識や基礎技術について学ぶ。		
授業目的・目標	演習林での実習を通じて、森林・林業生産技術の基礎を学ぶとともに、環境に調和した林業のあり方を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1～2	林業基礎①(樹木の組織と構造、森林の階層構造、気候、地形と土壌)	
	3～4	林業基礎②(森林の一次・二次遷移、林相、植生と群落、森林の機能)	
	5～6	森林調査①(調査項目、調査の方法と道具、地図の見方、山の面積の調べ方)	
	7～8	森林調査②(調査の歩き方、林分密度の調べ方、樹齢の調査、直径及び樹高の調査)	
	9～12	森林調査③(材積の算出、簡易調査方法、生産力の見積もり、伐期の設定)	
	13～14	服装と道具(山仕事の服装、安全の工夫、手道具、チェーンソー等)	
	15～16	造林技術(人工林)①(伐採の方法、地ごしらえ・植栽密度)	
	17～18	造林技術(人工林)②(下刈り・つる切り・除伐)	
	19～20	造林技術(人工林)③(枝打ちの器具、切断位置と切断の仕方)	
	21～22	造林技術(人工林)④(間伐の種類と方法、強度と頻度、間伐の進め方)	
	23～24	造林技術(天然林)①(天然下種更新、伐採方法、保育材・間伐)	
	25～26	造林技術(天然林)②(萌芽更新施業、萌芽整理、林相改良)	
	27～30	まとめ	
キーワード	林業の基礎、森林の調査、服装と道具、造林技術		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考			

授業名 演習林実習 Forest Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産経営科学科		
授業コード	8910234	教員名	相蘇春菜、星川健史
授業時間	火曜日 1, 2時限	教室	演習林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	林業経営管理全般を理解するため、実習を通じて森林の調査方法、服装と道具、造林技術などの基礎知識や基礎技術について学ぶ。		
授業目的・目標	演習林での実習を通じて、森林・林業生産技術の基礎を学ぶとともに、環境に調和した林業のあり方を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1～2	林業基礎①(樹木の組織と構造、森林の階層構造、気候、地形と土壌)	
	3～4	林業基礎②(森林の一次・二次遷移、林相、植生と群落、森林の機能)	
	5～6	森林調査①(調査項目、調査の方法と道具、地図の見方、山の面積の調べ方)	
	7～8	森林調査②(調査の歩き方、林分密度の調べ方、樹齢の調査、直径及び樹高の調査)	
	9～12	森林調査③(材積の算出、簡易調査方法、生産力の見積もり、伐期の設定)	
	13～14	服装と道具(山仕事の服装、安全の工夫、手道具、小型林業機械)	
	15～16	造林技術(人工林)①(伐採の方法、地ごしらえ・植栽密度)	
	17～18	造林技術(人工林)②(下刈り・つる切り・除伐)	
	19～20	造林技術(人工林)③(枝打ちの器具、切断位置と切断の仕方)	
	21～22	造林技術(人工林)④(間伐の種類と方法、強度と頻度、間伐の進め方)	
	23～24	造林技術(天然林)①(天然下種更新、伐採方法、保育材・間伐)	
	25～26	造林技術(天然林)②(萌芽更新施業、萌芽整理、林相改良)	
	27～30	まとめ	
キーワード	林業の基礎、森林の調査、服装と道具、造林技術		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考			

授業名 生産マネジメント実習 I (畜産) Study of Product Management I (Animal Husbandry)		単位数 4 単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	火曜日 1, 2 時限、金曜日 1, 2 時限	教室	実習圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画(PLAN)、実施(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTON)のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2～5	肉牛生産管理① 個体情報管理(血統、出生報告、基本登録、子牛登記など)	
	6～9	肉牛生産管理② 繁殖管理(発情、授精、妊娠、分娩など)	
	10～13	肉牛生産管理③ 飼料給与管理(個体単位の飼料の計画給与など)	
	14～17	肉牛生産管理④ 飼育管理(牛舎の管理、放牧など)	
	18～21	乳牛生産管理① 個体情報管理(血統、基本登録など)	
	22～25	乳牛生産管理② 繁殖管理 1 (種付計画、発情、授精など)	
	26～29	乳牛生産管理③ 繁殖管理 2 (妊娠、分娩)	
	30～33	乳牛生産管理④ 飼料給与管理(個体単位の飼料の計画給与など)	
	34～37	乳牛生産管理⑤ 飼育管理(牛舎管理、病気の予防など)	
	38～41	養鶏生産管理① 個体管理(出荷、補充、事故、廃用、移動、斃死)	
	42～43	養鶏生産管理② 飼料管理、給水管理(飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	44～47	養鶏生産管理③ 先進事例視察	
	48～51	養豚生産管理① 種豚管理	
	52～55	養豚生産管理② 飼料給与管理(飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	56～59	養豚生産管理③ 飼育管理(豚舎の管理、病気の予防など)	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		
履修要件	畜産コースを選択した者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

授業名 生産マネジメント実習 I (畜産) Study of Product Management I (Animal Husbandry)		単位数 4 単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	火曜日 1, 2 時限、金曜日 1, 2 時限	教室	圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画(PLAN)、実施(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTON)のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2～5	肉牛生産管理① 個体情報管理(血統、出生報告、基本登録、子牛登記など)	
	6～9	肉牛生産管理② 繁殖管理(発情、授精、妊娠、分娩など)	
	10～13	肉牛生産管理③ 飼料給与管理(個体単位の飼料の計画給与など)	
	14～17	肉牛生産管理④ 飼育管理(牛舎の管理、放牧など)	
	18～21	肉牛生産管理⑤ 疾病・予防管理(ワクチン接種、去勢、除角、鼻輪装着など)	
	22～25	肉牛生産管理⑥ 体型・体重管理(体重、体高、十字部高、体長の測定)	
	26～29	肉牛生産管理⑦ 生産原価・損益管理(生産原価の計算、損益管理)	
	30～33	肉牛生産管理⑧ 成績評価(子牛販売、枝肉販売)	
	34～37	肉牛生産管理⑨ 家畜市場、先進事例視察	
	38～41	養鶏生産管理① 個体管理(出荷、補充、事故、廃用、移動、斃死)	
	42～43	養鶏生産管理② 飼料管理、給水管理(飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	44～47	養鶏生産管理③ 産卵管理(卵数管理)	
	48～51	養鶏生産管理④ 鶏舎内の管理(鶏舎内温度、外気温、湿度)	
	52～55	養鶏生産管理⑤ 生産原価、損益管理、成績評価	
	56～59	養鶏生産管理⑥ 先進事例視察	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、自給飼料、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		
履修要件	畜産コースを選択した者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

授業名 生産マネジメント実習Ⅰ (林業) Study of Product Management I (Forestry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	平岡裕一郎、星川健史
授業時間	火曜日1, 2時限、金曜日1, 2時限	教室	県有林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画 (PLAN)、実施 (DO)、評価 (CHECK)、改善 (ACTION) の PDCA サイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場での ICT などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎	
	2～6	森林の保護管理技術① (森林の生物被害と防除 (病害・森林害虫))	
	7～10	森林の保護管理技術② (森林の生物被害と防除 (ほ乳類)、気象被害)	
	11～14	収穫技術① (チェーンソーの基本操作と整備方法)	
	15～18	収穫技術② (立木の成長と収穫時期、造材作業の基本技術)	
	19～22	収穫技術③ (架線集材・車両集材、運材作業の基礎技術)	
	23～26	収穫技術④ (皆伐・間伐の伐出技術、複層林施業の伐出技術、環境保全への配慮)	
	27～30	収穫技術⑤ (伐採木材の測定)	
	31～34	林地へのアクセス (林内路網の計画・配置、設計と作設、メンテナンス)	
	35～38	野生鳥獣① (森林の分布パターンと鳥獣の生息状況、森林性鳥獣の森林生態系への役割)	
	39～42	野生鳥獣② (森林施業と野生鳥獣の関係、共存の指針と管理手法)	
	43～46	特用林産物① (きのこ類の原木栽培)	
	47～50	特用林産物② (山菜栽培、天然の特用林産物利用)	
51～60	まとめ (生産に必要な情報収集・分析、経営に必要な情報収集・分析)		
キーワード	育林、林業機械、伐木集運材、木材利用、測樹、森林測量、森林情報、特用林産		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド (社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅱ (林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

授業名 生産マネジメント実習Ⅰ (林業) Study of Product Management I (Forestry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	平岡裕一郎、星川健史
授業時間	火曜日 1, 2時限、金曜日 1, 2時限	教室	演習林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画 (PLAN)、実施 (DO)、評価 (CHECK)、改善 (ACTION) の P D C A サイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場での ICT などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎	
	2～6	森林の保護管理技術① (森林の生物被害と防除 (病害・森林害虫))	
	7～10	森林の保護管理技術② (森林の生物被害と防除 (ほ乳類)、気象被害)	
	11～14	収穫技術① (立木の成長と収穫時期、伐倒作業 (チェーンソー))	
	15～18	収穫技術② (造材作業の基本技術)	
	19～22	収穫技術③ (架線集材・車両集材、運材作業の基礎技術)	
	23～26	収穫技術④ (皆伐・間伐の伐出技術、複層林施業の伐出技術、環境保全への配慮)	
	27～30	収穫技術⑤ (伐採木材の測定)	
	31～34	林地へのアクセス (林内路網の計画・配置、設計と作設、メンテナンス)	
	35～38	野生鳥獣① (森林の分布パターンと鳥獣の生息状況、森林性鳥獣の森林生態系への役割)	
	39～42	野生鳥獣② (森林施業と野生鳥獣の関係、共存の指針と管理手法)	
	43～46	特用林産物① (きのこ類の原木栽培)	
	47～50	特用林産物② (山菜栽培、天然の特用林産物利用)	
51～60	まとめ		
キーワード	育林、林業機械、伐木集運材、木材利用、測樹、森林測量、森林情報、特用林産		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド (社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅱ (林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ (畜産) Study of Product ManagementⅡ (Animal Husbandry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	前期:木曜日1, 2時限、後期(9~16週目):木曜日1~4時限	教室	実習圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	効率的かつ安定的な畜産経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、PDC Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、生産現場のマネジメントを学ぶ。施設規模や畜種に応じた生産計画と、その計画に沿った時期や人数などの人員配置計画、飼料など資材使用計画、費用と利益の計画を策定し、生産データを収集・分析しながら生産を行う。また、生産終了後は、計画と実績の比較を行い、その差異の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する実践的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の分析の方法を習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2~5	肉牛生産管理① 疾病・予防管理(ワクチン接種、去勢、除角、鼻輪装着など)	
	6~9	肉牛生産管理② 体型・体重管理(体重、体高、十字部高、体長の測定)	
	10~13	肉牛生産管理③ 生産原価・損益管理(生産原価の計算、損益管理)	
	14~17	肉牛生産管理④ 成績評価(子牛販売、枝肉販売)	
	18~21	肉牛生産管理⑤ 家畜市場、先進事例視察	
	22~25	乳牛生産管理① 乳質管理(出荷時検査、受入時検査、乳質基準)	
	26~29	乳牛生産管理② 生産原価・損益管理(生産原価の計算、損益管理)	
	30~33	乳牛生産管理③ 成績評価(牛乳販売、子牛販売)	
	34~37	乳牛生産管理④ 牛乳工場、先進事例調査	
	38~41	養鶏生産管理① 産卵管理(卵数管理)	
	42~45	養鶏生産管理② 鶏舎内の管理(鶏舎内温度、外気温、湿度)	
	46~49	養鶏生産管理③ 生産原価、損益管理、成績評価	
	50~53	養豚生産管理① 出荷管理、仕入管理	
	54~57	養豚生産管理② 生産原価、損益管理、成績評価	
	58~59	養豚生産管理③ 先進事例視察	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)		
履修要件	畜産コースを選択している者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ (畜産) Study of Product ManagementⅡ (Animal Husbandry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	前期:木曜日1, 2時限、後期(9～16週目):木曜日1～4時限	教室	圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画 (PLAN)、実施 (DO)、評価 (CHECK)、改善 (ACTON) の P D C A サイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場での I C T などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2～5	乳牛生産管理① 個体情報管理 (血統、基本登録など)	
	6～9	乳牛生産管理② 繁殖管理 1 (種付計画、発情、授精など)	
	10～13	乳牛生産管理③ 繁殖管理 2 (妊娠、分娩)	
	14～17	乳牛生産管理④ 飼料給与管理 (個体単位の飼料の計画給与など)	
	18～21	乳牛生産管理⑤ 飼育管理 (牛舎管理、病気の予防など)	
	22～25	乳牛生産管理⑥ 乳質管理 (出荷時検査、受入時検査、乳質基準)	
	26～29	乳牛生産管理⑦ 生産原価・損益管理 (生産原価の計算、損益管理)	
	30～33	乳牛生産管理⑧ 成績評価 (牛乳販売、子牛販売)	
	34～37	乳牛生産管理⑨ 牛乳工場、先進事例調査	
	38～41	養豚生産管理① 種豚管理	
	42～43	養豚生産管理② 飼料給与管理 (飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	44～47	養豚生産管理③ 飼育管理 (豚舎の管理、病気の予防など)	
	48～51	養豚生産管理④ 出荷管理、仕入管理	
	52～55	養豚生産管理⑤ 生産原価、損益管理、成績評価	
	56～59	養豚生産管理⑥ 先進事例視察	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、自給飼料、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習 (畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ (畜産)		
履修要件	畜産コースを選択している者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>(65ページ) 大型機械実習 I</p> <p>履修要件</p> <p><u>自動二輪もしくは普通免許を取得していること</u></p>	<p>(65ページ) 大型機械実習 I</p> <p>履修要件</p> <p><u>自動二輪もしくは普通免許を取得していること</u> <u>がのぞましい</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(53ページ)</p> <p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略)</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般(水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」を配置する。</p> <p><u>生産現場では、危険作業を伴うことがある。このため、講義の始めには、危険箇所の確認や、危険な作業を伴う刈払機等の安全使用のための講習等の安全作業のための講習を行う。</u></p> <p>イ 2年次</p> <p>前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、<u>栽培、畜産、林業の各分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、「演習林実習」、「圃場実習(畜産)」を配置する。</u></p> <p>また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習 I」を配置する。</p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した<u>栽培、畜産、林業の各分野の生産管理</u>について学ぶ「生産マネジメント</p>	<p>(52ページ)</p> <p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略)</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般(水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」を配置する。</p> <p>イ 2年次</p> <p>前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、<u>それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、「演習林実習」、「圃場実習(畜産)」を配置する。</u></p> <p>また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習 I」を配置する。</p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した<u>生産管理</u>について学ぶ「生産マネジメント実習 II (栽培)」、「生</p>

新	旧
<p>ント実習Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「木材加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「<u>販売管理実習</u>」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「<u>販売管理実習</u>」についてはC棟売店で実施する。</p> <p>(略)</p> <p>(2) 臨地実務実習（資料29 臨地実務実習要綱(案)）</p> <p>(略)</p> <p>③ 臨地実務実習計画の概要</p> <p>本学の養成する人材像である「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダー</u>」を育成することを目標に、農林業経営者としての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。</p> <p>(略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的</p>	<p>産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「木材加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「<u>販売実習</u>」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「<u>販売実習</u>」についてはC棟売店で実施する。</p> <p>(略)</p> <p>(2) 臨地実務実習（資料29 臨地実務実習要綱）</p> <p>(略)</p> <p>③ 臨地実務実習計画の概要</p> <p>本学の養成する人材像である「<u>農林業の生産技術や知識にくわえ、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する</u>」ことを目標に、農林業経営者としての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。</p> <p>臨地実務実習は3年次に「企業実習」（必修10単位）、4年次に「経営実習Ⅰ」（必修5単位）と「経営実習Ⅱ」（必修5単位）を配置する。</p> <p>(略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的</p>

新	旧
<p>ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単位)</p> <p>(ア) 目的 <u>先進的な栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標 a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。 b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>(ウ) 方法 実習は、「<u>臨地実務実習要綱</u>」(資料29)に基づいて実施する。 3年次に配置し、<u>学生が希望する経営体</u>において、約2カ月間実施する。学生数は<u>原則1施設1名とする。</u> 「<u>企業実習</u>」の受講に当たっては、<u>事前に、すべての学生が「総合実習」で行う刈払機作業安全衛生教育を修了し、また、「大型機械実習Ⅰ」において、大型特殊免許(農耕車限定)を取得する。</u> また、栽培コースでは、「<u>圃場実習(栽培)</u>」において<u>作物の特徴や作型に関する知識や栽培技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)」において栽培管理の基礎知識・技術を学ぶ。</u>林業コースでは、「<u>演習林実習</u>」において<u>森林・林業生産の基礎知識・技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ(林業)」においてチェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術、森林の保護管理技術を学ぶ。</u>畜産コースでは、「<u>圃場実習(畜産)</u>」において、<u>家畜の特徴や生理や習性に関する知識、家畜の「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」において、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。</u> 実習実施前には、実習受入れ先の農</p>	<p>ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単位)</p> <p>(ア) 目的 先進的な<u>農林業経営体</u>での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標 a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。 b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>(ウ) 方法 実習は、「<u>臨地実務実習要綱</u>」(資料29)に基づいて実施する。 3年次に配置し、<u>学生が希望する農林業経営体</u>において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。 企業実習の受講に当たっては、「<u>圃場実習(栽培)</u>」、「<u>圃場実習(畜産)</u>」、「<u>演習林実習</u>」及び「<u>生産マネジメント実習Ⅰ</u>」において、<u>基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。</u></p>

新		旧
<p>林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p> <p>＜必要な知識・技術や資格・免許等＞</p>		<p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>
コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術</u> ・ <u>栽培管理の基礎知識・技術</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>刈払機作業者安全衛生教育修了</u> ・ <u>大型特殊免許（農耕車限定）</u>
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>森林・林業生産の基礎知識・技術</u> ・ <u>チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術</u> ・ <u>森林の保護管理技術</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>刈払機作業者安全衛生教育修了</u> ・ <u>大型特殊免許（農耕車限定）</u>
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家畜の特徴や生理や習性に関する知識</u> ・ <u>家畜飼養管理の基礎知識・技術</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>刈払機作業者安全衛生教育修了</u> ・ <u>大型特殊免許（農耕車限定）</u>

新	旧
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位)</p> <p>(ア) 目的</p> <p>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <p>a. 生産現場の年間計画が理解できる。</p> <p>b. 生産現場の必要な要素(資材、労力、資金)について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。</p> <p>(ウ) 方法</p> <p>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p><u>「経営実習 I」の受講に当たっては、事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。</u></p> <p><u>また、栽培コースは、「生産マネジメント実習 II (栽培)」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習 II (林業)」、「生産マネジメント実習 II (畜産)」において、下表の知識や技術を習得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は経営分析演習 I にて実</p>	<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位)</p> <p>(ア) 目的</p> <p>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <p>a. 生産現場の年間計画が理解できる。</p> <p>b. 生産現場の必要な要素(資材、労力、資金)について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。</p> <p>(エ) 方法</p> <p>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は経営分析演習 I にて実</p>

新	旧								
<p>習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。</p> <p><u>＜必要な知識・技術等＞</u></p> <table border="1" data-bbox="255 409 778 1323"> <thead> <tr> <th data-bbox="255 409 430 461">コース</th> <th data-bbox="430 409 778 461">必要な知識・技術</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="255 461 430 748">栽培コース</td> <td data-bbox="430 461 778 748"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 748 430 1034">林業コース</td> <td data-bbox="430 748 778 1034"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1034 430 1323">畜産コース</td> <td data-bbox="430 1034 778 1323"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(略)</p>	コース	必要な知識・技術	栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 	林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 	畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 	<p>習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
コース	必要な知識・技術								
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 								
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 								
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 								
<p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）</p> <p>(ア) 目的</p> <p>農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。 ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。 ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。 <p>(ウ) 方法</p>	<p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）</p> <p>(ア) 目的</p> <p>農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。 ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。 ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。 <p>(ウ) 方法</p>								

新	旧
<p>実習は、「臨地実務実習要綱」（資料29）に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p><u>事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。</u></p> <p><u>また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。</p>	<p>実習は、「臨地実務実習要綱」（資料29）に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。</p>

新		旧
<u>＜必要な知識・技術等＞</u>		
<u>コース</u>	<u>必要な知識・技術</u>	
<u>栽培コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>経営管理・経営戦略・マーケティングの知識</u> 	
<u>畜産コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>経営分析の知識</u> ・<u>労務管理の知識</u> ・<u>人的資源管理の知識</u> ・<u>生産工程管理の知識・技術</u> ・<u>販売管理の知識・技術</u> ・<u>食品加工の知識・技術</u> 	
<u>林業コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>経営管理・経営戦略・マーケティングの知識</u> ・<u>経営分析の知識</u> ・<u>労務管理の知識</u> ・<u>人的資源管理の知識</u> ・<u>生産工程管理の知識・技術</u> ・<u>販売管理の知識・技術</u> ・<u>木材加工の知識・技術</u> 	

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 資料29 臨地実務実習要綱(案)

新	旧
(2ページ)	(2ページ)
I (全員) 教育課程と実習	I (全員) 教育課程と実習
1. 教育目標	1. 教育目標
<p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材を養成する。</u></p>	<p><u>農林業分野の専門職業人として、農林業を取り巻く様々な事象を体系的に捉え、それらの変化に柔軟に対応でき、また、より広い視野で農林業を捉え、将来地域社会を中心となって支えていく人材を養成するため、次の教育目標を掲げている。</u></p> <p>1) <u>農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を養う。</u></p>

新	旧
<p>2. 教育課程の構造</p> <p>本学の教育課程は、上記の教育目標を達成するため、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の4つの基礎的な枠組みを構成する。</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる掲げる資質・能力を身に付ける。</u></p>	<p>2) <u>地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成する。</u></p> <p>2. 教育課程の構造</p> <p>本学の教育課程は、上記の教育目標を達成するため、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の4つの基礎的な枠組みを構成し、<u>農林業分野の専門職業人として豊かな人間性を育み、農林業全般にわたり必要とされる理論的かつ実践的な能力や、農林業の新たな展開につながる応用能力・創造的役割を果たすために必要な能力を修得することを基本としている。</u></p> <p>(1) <u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び多面的に物事を考える素養を身に付けるため、基礎科目として、一般教養やコミュニケーションスキルを学ぶ科目や、グループワークにより学生同士の意見交換を行う科目などを配置する。</u></p> <p>(2) -1 <u>農林業経営体の経営管理能力を身に付けるため、職業専門科目として、経営管理、経営戦略、マーケティングなどに関する科目を配置するとともに、農林業経営を学ぶ臨地実務実習の科目を配置する。</u></p> <p>(2) -2 <u>農林業生産に関する基礎的な知識・技術を身に付けるため、職業専門科目として、農林業基礎、生産理論及び生産技術に関する科目を配置し、生産理論</u></p>

新	旧
	<p><u>及び生産技術については、「栽培」、「林業」、「畜産」のコース別に講義、実習・演習及び臨地実務実習を行う。</u></p> <p><u>(2) -3 農林業の生産や経営に活用される先端技術に関する知識・技術を身に付けるため、職業専門科目において、先端技術について学ぶ授業を幅広く実施する。</u></p> <p><u>(2)-4 農山村の自然環境や景観の保全に関する知識を身に付けるため、職業専門科目において、自然環境に配慮した農林業生産や森林景観の保全手法などについて学ぶ授業を幅広く実施する。</u></p> <p><u>(2)-5 農林産物の加工・流通・販売に関する知識を身に付けるため、職業専門科目として、「栽培」、「林業」、「畜産」のコース別に、加工・販売の手法や流通の仕組みなどに関する講義・実習等の科目を配置する。</u></p> <p><u>(3) 農山村の伝統・文化の継承に関する知識を身に付けるとともに、地域資源としての活用手法を学ぶため、展開科目として、農山村の歴史や文化、地域社会などに関する科目を配置する。</u></p> <p><u>(4) 農林業経営における課題の解決に向けて情報を収集・分析・整理する能力や、その結果を表現する能力を身に付けるため、総合科目として、経営課題の研究などに関する科目を配置する。</u></p>

新	旧
<p>(2ページ)</p> <p>II (全員) 臨地実務実習の概要と目標</p> <p>1. 臨地実務実習の概要</p> <p>本学の臨地実務実習は、「実践的な経営管理能力を身につける」ことを目標に、<u>経営に不可欠な生産技術及び実践的な経営管理能力を身につける。</u></p> <p>(略)</p> <p>2. 臨地実務実習の目標</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら<u>実際の現場</u>を体験し、各臨地実務実習の目標を達成することで、実務的な農林業経営を営む能力を養う。</p> <p>臨地実務実習のうち、「企業実習」では<u>実践的な生産技術を学ぶ。</u>また、「経営実習Ⅰ」では<u>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を、</u>「経営実習Ⅱ」では、<u>経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</u></p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p> <p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位)</p> <p>(略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定して</p>	<p>(3ページ)</p> <p>II (全員) 臨地実務実習の概要と目標</p> <p>1. 臨地実務実習の概要</p> <p>本学の臨地実務実習は、「実践的な経営管理能力を身につける」ことを目標に、<u>農林業経営で不可欠な生産技術及び実践的な経営管理能力を身につける。</u></p> <p>(略)</p> <p>2. 臨地実務実習の目標</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら農林業現場を体験し、各臨地実務実習の目標を達成することで、実務的な農林業経営を営む能力を養う。</p> <p>臨地実務実習のうち、「企業実習」では<u>農林業経営に欠かせない生産技術を学ぶ。</u>また、「<u>経営実習Ⅰ</u>」及び「<u>経営実習Ⅱ</u>」では、<u>現場の運営管理や経営管理について学ぶ。</u></p> <p><u>農林業経営者としての能力の育成に関することは、次の通りである。</u></p> <p><u>1) 農林業の基礎的な生産技術や知識を持つ</u></p> <p><u>2) 経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する</u></p> <p><u>3) 幅広い教養と豊かな人間性を備え、地域の伝統文化を守っていく使命感を有する。</u></p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p> <p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位)</p> <p>(略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定して</p>

新	旧
<p>いる。</p> <p><u>「企業実習」の受講に当たっては、学内で行う実習である「圃場実習（栽培）」、「演習林実習」、「圃場実習（畜産）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」及び「大型機械実習Ⅰ」において、下表の知識や技術、資格や免許等を取</u> <u>得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>	<p>いる。</p> <p>企業実習の受講に当たっては、「圃場実習（栽培）」、「圃場実習（畜産）」、「演習林実習」、「<u>生産マネジメント実習Ⅰ</u>」及び「<u>生産マネジメント実習Ⅱ</u>」において、<u>基本的な生産技術について学んでいることを前提とする。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>

新		旧												
<p><必要な知識・技術や資格・免許等></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>必要な生産知識・技術</th> <th>資格・免許等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栽培コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・生産管理の基礎知識・技術 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) </td> </tr> <tr> <td>林業コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・森林の保護管理技術 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) </td> </tr> <tr> <td>畜産コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) </td> </tr> </tbody> </table>			コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等	栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・生産管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 	林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・森林の保護管理技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 	畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定)
コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等												
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・生産管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 												
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・森林の保護管理技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 												
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 												
(略)														
2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5単位)		2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5単位)												
(略)		(略)												
(3) 方法		(3) 方法												
<p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～4名を想定している。</p> <p>「経営実習 I」の受講に当たっては、<u>事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。</u></p>		<p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～4名を想定している。</p>												

新	旧								
<p>また、栽培コースは、「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」において、下表の知識や技術を習得する。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>	<p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>								
<p><必要な知識・技術等></p>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="256 1131 424 1176">コース</th> <th data-bbox="424 1131 772 1176">必要な知識・技術</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="256 1176 424 1464">栽培コース</td> <td data-bbox="424 1176 772 1464"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1464 424 1753">林業コース</td> <td data-bbox="424 1464 772 1753"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1753 424 2038">畜産コース</td> <td data-bbox="424 1753 772 2038"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 </td> </tr> </tbody> </table>	コース	必要な知識・技術	栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 	林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 	畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 	
コース	必要な知識・技術								
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 								
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 								
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 								

新	旧
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>3) 経営実習Ⅱ (4年次後期 5単位) (略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～5名を想定している。</p> <p><u>事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。</u></p> <p><u>また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、農林業経営のあり方について理解を深める。</p>	<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>3) 経営実習Ⅱ (4年次後期 5単位) (略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～5名を想定している。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、農林業経営のあり方について理解を深める。</p>

新		旧
<u><必要な知識・技術等></u>		
<u>コース</u>	<u>必要な知識・技術</u>	
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 	
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・人的資源管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・販売管理の知識・技術 ・食品加工の知識・技術 	
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・人的資源管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・販売管理の知識・技術 ・木材加工の知識・技術 	

【審査意見以外の対応】

生産環境経営学部 生産環境経営学科

＜施設整備スケジュールの変更について＞
 部材調達の遅れが懸念されるエレベータ工事について、施設整備スケジュールを見直す。

(対応)

既存の校舎となるA棟の改修工事について、当初の計画では、開学前年度（2019年度）に教員用研究室や臨時図書室の整備、実験室や視聴覚室等の改修、エレベータの新設を行う予定であったが、鉄骨工事に使用する高力ボルトの需給ひっ迫の影響により、鉄骨造であるエレベータの新設工事を予定通り実施することは困難となった。

そのため、施設整備スケジュールを見直し、エレベータ工事の完了時期を2020年度（第1年次）に修正する。

なお、開学前年度（2019年度）に予定しているエレベータ新設以外の工事は予定どおり実施するため、授業実施に必要な教室等は確保しており、本学及び校舎を共用する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部、既設の農林大学校の授業は支障なく実施できる。

(新旧対照表) 施設整備スケジュール

	2018年度			2019年度												2020年度（第1年次）												2021年度（第2年次）											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
新	A棟 改修工事 <small>(うち、エレベータ工事)</small>	基本・実施設計	工事												開学	第2年次																							
			備品搬入													工事 備品搬入																							
	C棟 建築工事	基本・実施設計			工事												備品搬入																						
B棟 (工事なし)													備品搬入															備品搬入											
旧	A棟 改修工事	基本・実施設計	工事												開学	第2年次																							
			備品搬入													工事 備品搬入																							
	B棟 建築工事	基本・実施設計			工事												備品搬入																						
C棟 (工事なし)													備品搬入															備品搬入											

【審査意見以外の対応】

生産環境経営学部 生産環境経営学科

＜書類不備＞

申請書類に誤記や言葉の不一致があるため、再度確認を行い、修正した。

(対応)

申請書類の誤記や言葉の不一致について改めて点検した結果、「基本計画書」「シラバス」「設置の趣旨等を記載した書類」の誤記や不一致等があったため、下記の通り修正する。

(詳細説明)

1 基本計画書

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
<p>(2ページ)</p> <p>・校地等</p> <p>【備考】</p> <p>平成<u>33年度</u>までは静岡県立農林大学校と共用</p> <p>・校舎</p> <p>【備考】</p> <p>平成<u>33年度</u>までは静岡県立農林大学校と共用</p>	<p>(2ページ)</p> <p>・校地等</p> <p>【備考】</p> <p>平成<u>32年度</u>は静岡県立農林大学校と共用</p> <p>・校舎</p> <p>【備考】</p> <p>平成<u>32年度</u>は静岡県立農林大学校と共用</p>
<p>(3ページ)</p> <p>・附属施設の概要</p> <p>【演習林】</p> <p>名 称：静岡県有林</p> <p>所在地：<u>浜松市</u></p> <p>規模等：森林面積 <u>294ha</u></p>	<p>(3ページ)</p> <p>・附属施設の概要</p> <p>【演習林】</p> <p>名 称：静岡県有林</p> <p>所在地：<u>浜松市ほか</u></p> <p>規模等：森林面積約 <u>280ha</u></p>

5 シラバス

誤記や不一致について修正する。

新	旧
<p>(63ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）</p> <p>授業概要： <u>効率的かつ安定的な畜産経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、生産現場のマネジメントを学ぶ。施設規模や畜種に応じた生産計画と、その計画に沿った時期や人数などの人員配置計画、飼料など資材使用計画、費用と利益の計画を策定し、生産データを収集・分析しながら生産を行う。また、生産終了後は、計画と実績の比較を行い、その差異の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。</u></p> <p>授業目的・目標： ①生産マネジメントに関する<u>実践的な知識・技能</u>を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な<u>評価結果の分析の方法</u>を習得する。</p>	<p>(74ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）</p> <p>授業概要： <u>生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）のP D C Aサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのI C Tなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要なとなる施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。</u></p> <p>授業目的・目標： ①生産マネジメントに関する<u>基礎的な知識・技能</u>を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な<u>評価結果の内容を</u>理解する。</p>
<p>(64ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） 【別紙1】</p>	<p>(75ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） 【別紙2】</p>
<p>(74ページ) 医福食農連携論 【別紙3】</p>	<p>(74ページ) 医福食農連携論 【別紙4】</p>

9 設置の趣旨等を記載した書類
誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(1 ページ)</p> <p>静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治 33 年に農事試験場として<u>農事練習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農業技術員養成所、農業講習所、各試験場併設専門研修所、農業中央研修所、林業講習所、農業短期大学、林業短期大学、農林短期大学、農林短期大学校</u>などそれぞれの時代に対応し、(略)</p> <p>現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する 2 年制の「養成部」と、更に 2 年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の約 8 割が (略)</p>	<p>(1 ページ)</p> <p>静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治 33 年に農事試験場として<u>農事見習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農会技術員養成所、農業講習所、農業中央専門研修所、農業短期大学校、農林短期大学校</u>などそれぞれの時代に対応し、(略)</p> <p>現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する 2 年制の「養成部」と、更に 2 年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の <u>8 割以上</u>が (略)</p>
<p>(2 ページ)</p> <p>このような変化に対応していくため、本県総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン 2018～2021 (農業・農村編) (資料 6-1) では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の<u>涵養</u>や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、<u>2014</u>年には 2,204 億円だった農業産出額を 2021 年には 2,400 億円まで伸ばし、(略)</p>	<p>(2 ページ)</p> <p>このような変化に対応していくため、本県総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン 2018～2021 (農業・農村編) (資料 6) では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の<u>かん養</u>や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、<u>2015</u>年には 2,204 億円だった農業産出額を 2021 年には 2,400 億円まで伸ばし、(略)</p>

新	旧
<p>(3 ページ)</p> <p>また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(森林・林業編)』(資料7)では(略)</p>	<p>(3 ページ)</p> <p>また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料7)では(略)</p>
<p>(5 ページ)</p> <p>(略)、平成30年2月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料11-2)。</p>	<p>(5 ページ)</p> <p>(略)、平成30年2月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料11)。</p>
<p>(6 ページ)</p> <p>『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料6-1)においては、(略)</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料6)においては、(略)</p>
<p>(7 ページ)</p> <p>(略) 全国<u>3</u>位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、(略)</p>	<p>(7 ページ)</p> <p>(略) 全国<u>4</u>位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、(略)</p>
<p>(12 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、県内農林業経営体において実務に従事する実習科目を設ける。</p>	<p>(12 ページ)</p> <p>④農林業事業体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、県内農林業事業体において実務に従事する実習科目を設ける。</p>
<p>(17 ページ)</p> <p>政府が平成30年5月に決定した食料・農業・農村の動向(資料19-1)では、(略)</p>	<p>(17 ページ)</p> <p>政府が平成30年5月に決定した食料・農業・農村の動向(資料19)では、(略)</p>
<p>(16 ページ)</p> <p>森林及び林業の動向(資料19)では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとしている。</p>	<p>(16 ページ)</p> <p>森林及び林業の動向(資料20)では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとしている。</p>
<p>(17 ページ)</p> <p>しかし経営体の<u>約8割</u>(127経営体)が事</p>	<p>(17 ページ)</p> <p>しかし経営体の<u>8割以上</u>(127経営体)が</p>

新	旧
業の拡大・強化を考慮しており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強く、(略)	事業の拡大・強化を考慮しており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強く、(略)
(34 ページ) (略)、より細やかな指導が必要となる <u>作目別の生産マネジメント実習</u> や、(略)。	(34 ページ) (略)、より細やかな指導が必要となる <u>品目別の生産マネジメント実習</u> や、(略)。
(36 ページ) 各授業科目の成績評価は、S(100 点～ <u>90 点以上</u>)、A(90 点未満～80 点以上)、B(80 点未満～70 点以上)、(略)	(36 ページ) 各授業科目の成績評価は、S(100 点～ <u>90 点</u>)、A(90 点未満～80 点以上)、B(80 点未満～70 点以上)、(略)
(40 ページ) (1) 本学キャンパスの整備方針 本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。 既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成 <u>33</u> 年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。 その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。 各校舎の整備は、平成 <u>33</u> 年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成 31 年度中に視聴覚室や教室、実験室等の改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整え <u>るとともに、平成 32～33 年度に、エレベータの設置工事やC棟への図書館等の機能移転等に対応した改修工事を行う。</u> C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成 32 年度までの実施を予定している。	(40 ページ) (1) 本学キャンパスの整備方針 本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。 既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成 <u>32</u> 年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。 その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。 各校舎の整備は、平成 <u>32</u> 年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成 31 年度中に改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整える。C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成 32 年度までの実施を予定している。
(40 ページ) 校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校 (平成 <u>32</u> 年度から学生募集停	(40 ページ) 校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校 (平成 <u>31</u> 年度から学生募集停

新	旧
止)の校地を活用する。	止)の校地を活用する。
<p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 <u>33</u> 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。</p>	<p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 <u>32</u> 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。</p>
<p>(41 ページ)</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室(A棟、<u>C棟</u>)のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学と共用する。静岡県立農林環境専門職大学の専用部分は使用しない。</p>	<p>(41 ページ)</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室(<u>A棟</u>)のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学と共用する。静岡県立農林環境専門職大学の専用部分は使用しない。</p>
<p>(41 ページ)</p> <p>また、平成 <u>33</u> 年度までは静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主にA棟及びC棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主にB棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25, 26 に示す。</p>	<p>(41 ページ)</p> <p>また、平成 <u>32</u> 年度は静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主にA棟及びC棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主にB棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25, 26 に示す。</p>
<p>(39 ページ)</p> <p>⑨附属施設（農場等）</p> <p>専門職短期大学設置基準第 46 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修場 36,656 m²を転用するとともに、県有施設である農林技術研究所（本所）115,252 m²、農林技術研究所茶業研究センター58,000 m²、農林技術研究所果樹研究センター53,904 m²、農林技術研究所森林・林業研究センター58,959 m²を充てる。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林 <u>294ha</u> を充てる（資料 26）。</p>	<p>(39 ページ)</p> <p>⑨附属施設（農場等）</p> <p>専門職短期大学設置基準第 46 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修所 36,656 m²を転用するとともに、県有施設である農林技術研究所（本所）115,252 m²、農林技術研究所茶業研究センター58,000 m²、農林技術研究所果樹研究センター53,904 m²、農林技術研究所森林・林業研究センター58,959 m²を充てる。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林 <u>280ha</u> を充てる（資料 26）。</p>

新	旧
<p>(71 ページ)</p> <p>(2) 具体的方策</p> <p>社会的・職業的自立に関する指導体制概念図 (資料 30) 参照</p>	<p>(71 ページ)</p> <p>(2) 具体的方策</p> <p>社会的・職業的自立に関する指導体制概念図 (資料 29) 参照</p>
<p>(66 ページ)</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の専門基礎科目として、1年次夏季に「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、2年次夏季に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、1年次春季には「農林業政策」を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。</p> <p>「生産現場での就業イメージの形成」のために、職業専門科目の生産技術の科目として、1年次秋・冬季に「コース別圃場・演習林実習Ⅰ」を配置し、(略)</p>	<p>(66 ページ)</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の専門基礎科目として、1年次夏季に「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、2年次夏季に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、1年次夏季には「農林業政策」を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。</p> <p>「生産現場での就業イメージの形成」のために、職業専門科目の生産技術の科目として、1年次冬季に「コース別圃場・演習林実習Ⅰ」を配置し、(略)</p>

9 設置の趣旨等を記載した書類（資料）

誤記や不一致について修正する。

新	旧
<p style="text-align: center;">(目次)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">設置の趣旨等を記載した書類 資料目次</p> <p>資料 1 農林大学校卒業生数の推移 資料 2 静岡県立農林大学校卒業生の状況 資料 3 農林大学校卒業生の評価 資料 4 食料・農業・農村基本計画 資料 5 担い手の現状 資料 6-1 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（農業・農村編） 資料 6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021〇 資料 7 静岡県経済産業ビジョン【森林・林業編】静岡県森林共生基本計画 資料 8 専門職大学基本構想策定委員会 資料 9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査について（報告） 資料 10 高校生の進学意識に関するアンケート調査について（報告） 資料 11-1 静岡県専門職大学（農林業）基本構想 概要 資料 11-2 静岡県専門職大学（農林業）基本構想 資料 12 静岡県総合計画 資料 13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱 資料 14 静岡県教育振興基本計画 2018 年度～2021 年度 資料 15 静岡県の工業 資料 16 静岡新産業集積クラスター 資料 17 静岡県農林業従事者の就業の現状 資料 18 静岡県農林業従事者の就業の状況 資料 19-1 食料・農業・農村の動向 資料 19-2 食料・農業・農村基本法の骨子〇 資料 20 森林及び林業の動向 資料 21-1 生産科学科 カリキュラム・マップ※ 資料 21-2 農林大学校（養成部・研究部）カリキュラム・マップ〇 資料 21-3 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ〇 資料 22 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教員定年規程（案） 資料 23 履修モデル※ 資料 24 教育課程連携協議会の概要 資料 25 校舎の利用計画表※ 資料 26 時間割表※ 資料 27 実習を実施する付属施設〇 資料 28 学術雑誌目録 資料 29 臨地実務実習要綱（案）〇 資料 30 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p> <p>※：補正申請で内容が変更となった資料 〇：補正申請で新たに追加した書類</p> </div>	<p style="text-align: center;">(目次)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">設置の趣旨等を記載した書類 資料目次</p> <p>資料 1 静岡県立農林大学校卒業生の推移 資料 2 静岡県立農林大学校卒業生の状況 資料 3 静岡県立農林大学校卒業生の評価 資料 4 食料・農業・農村基本計画 資料 5 静岡県の担い手の現状 資料 6-1 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（農業・農村編） 資料 6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021〇 資料 7 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（森林・林業編） 資料 8 専門職大学基本構想策定委員会 資料 9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査 資料 10 高校生の進学意識に関するアンケート調査 資料 11 静岡県専門職大学（農林業）基本構想 資料 12 静岡県総合計画 資料 13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱 資料 14 静岡県教育振興基本計画 2018～2021 資料 15 静岡県の工業 資料 16 静岡新産業集積クラスター 資料 17 大学進学者流出・流入状況 資料 18 静岡県農林業従事者の就業の現状 資料 19-1 食料・農業・農村の動向 資料 19-2 食料・農業・農村基本法の骨子〇 資料 20 森林及び林業の動向 資料 21-1 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ※ 資料 21-2 農林大学校（養成部・研究部）カリキュラム・マップ〇 資料 21-3 生産科学科 カリキュラム・マップ〇 資料 22 静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程（案） 資料 23 履修モデル※ 資料 24 教育課程連携協議会の概要 資料 25 校舎の利用計画表※ 資料 26 時間割表※ 資料 27 附属施設・県有施設の概要〇 資料 28 学術雑誌目録 資料 29 臨地実務実習要綱〇 資料 30 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p> <p>※：補正申請で内容が変更となった資料 〇：補正申請で新たに追加した書類</p> </div>
<p>(資料 27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習圃場 【実施科目名】 「総合実習」 「圃場実習（栽培）」 「圃場実習（畜産）」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（栽培）（林業）（畜産）」 「演習林実習」 ・畜産技術研究所 本所 「生産マネジメント実習（畜産）」 	<p>(資料 27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習圃場 【実施科目名】 「総合実習」 「圃場実習（栽培）」 「圃場実習（畜産）」の一部 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（栽培）」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（林業）（畜産）」の一部 「演習林実習」の一部 ・畜産技術研究所 本所 「生産マネジメント実習（畜産）」の一部

新	旧
<p>・畜産技術研究所 中小家畜センター 「<u>生産マネジメント実習(畜産)</u>」</p> <p>・静岡県有林 【規模】 森林面積 <u>294ha</u> 【実施科目名】 「<u>生産マネジメント実習(林業)</u>」</p>	<p>・畜産技術研究所 中小家畜センター 「<u>生産マネジメント実習(林業)</u>」の一部</p> <p>・静岡県有林 【規模】 森林面積約 <u>280ha</u> 【実施科目名】 「<u>生産マネジメント実習(畜産)</u>」の一部</p>

【別紙1】

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） Study of Product ManagementⅡ（Forestry）		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、平岡裕一郎、近藤晃、鶴飼一博
授業時間	前期:木曜日1, 2時限、後期(9~16週目):木曜日1~4時限	教室	県有林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	効率的かつ安定的な林業経営を行うためには木材の生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した管理が必要である。本科目では、木材を生産する現場の管理技術を学ぶ。森林の面積・森林の内容・森林の林齢に応じた伐採計画と、その計画に沿った伐採時期や人員配置の計画、必要となる機材などの使用計画、費用と利益算出を策定し、実施する。計画の実施後、計画と実績を比較し、差異が生じた場合、要因が何であったかを分析し、分析結果を次の林業経営に活かす方法を考える。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する実践的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の分析方法を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎(平岡裕一郎)	
	2~6	経営基礎①(経営の必要データ、経営と森林部門の見方、労働力確保)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	7~10	経営基礎②(経営計画、施業計画の作成手順)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	11~14	経営基礎③(会計・簿記の方法、補助・融資の利用)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	15~22	マーケティング①(森林所有者のマーケティング戦略)(平岡裕一郎・池田潔彦)	
	23~30	マーケティング②(木材流通と市売市場のしくみ)(平岡裕一郎・池田潔彦)	
	31~38	マーケティング③(販売の仕組、市場への対応)(平岡裕一郎・池田潔彦)	
	39~42	土壌と水資源保全①(土壌の特徴、森林管理のポイント)(平岡裕一郎・近藤晃)	
	43~46	土壌と水資源保全②(水保全を考慮した森林管理)(平岡裕一郎・近藤晃)	
	47~50	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理①(里山林の森林保全活動)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	51~54	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理②(アウトドア活動型の森林管理)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	55~60	まとめ(平岡裕一郎・池田潔彦)	
キーワード	森林経営、木材マーケティング、土壌と水保全、森林レクリエーション、景観		
教科書・参考書	ニューフォレストーズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、農林業経営学、経営戦略		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

【別紙2】

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） Study of Product ManagementⅡ（Forestry）		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、平岡裕一郎、近藤晃、鶴飼一博
授業時間	前期：木曜日1, 2時限、後期（9～16週目）：木曜日1～4時限	教室	演習林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTON）のP D C Aサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎	
	2～6	経営基礎①（経営の必要データ、経営と森林部門の見方、労働力確保）	
	7～10	経営基礎②（経営計画、施業計画の作成手順）	
	11～14	経営基礎③（会計・簿記の方法、補助・融資の利用）	
	15～22	マーケティング①（森林所有者のマーケティング戦略）	
	23～30	マーケティング②（木材流通と市売市場のしくみ）	
	31～38	マーケティング③（販売の仕組、市場への対応）	
	39～42	土壌と水資源保全①（土壌の特徴、森林管理のポイント）	
	43～46	土壌と水資源保全②（水保全を考慮した森林管理）	
	47～50	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理①（里山林の森林保全活動）	
	51～54	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理②（アウトドア活動型の森林管理）	
	55～60	まとめ	
キーワード	森林経営、木材マーケティング、土壌と水保全、森林レクリエーション、景観		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド（社団法人全国林業改良普及協会）		
評価方法・評価基準	レポート（50％）、履修態度（50％）		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ（林業）、農林業経営学、経営戦略、森林マネジメント		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

【別紙3】

授業名 医福食農連携論 Science of Agro-Medicine		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	内藤博敬、吉村親
授業時間	火曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続可能な健康社会を構築するためには、食や環境と健康のつながり、すなわち「農」と「医」の連携を理解する必要がある。ヒトが健康であるためためには、予防医学の理解が重要であり、そのためには環境や食に関する基礎知識が必要不可欠である。また、園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーションや心の癒し効果、コミュニケーション促進、共同作業による社会参加促進などのさまざまな効用を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど生活の質の向上を実現しようという「農」と「福」の連携の動きがある。本科目では、「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業目的・目標	「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	環境問題と健康生活 (内藤博敬)	
	2	農林業と環境 (内藤博敬)	
	3	自然災害と農林業 (内藤博敬)	
	4	途上国の農業における環境問題 (内藤博敬)	
	5	持続可能な健康社会づくり (内藤博敬)	
	6	医食同源と神農本草経 (内藤博敬)	
	7	病気と免疫 (内藤博敬)	
	8	食品・食文化と免疫 (内藤博敬)	
	9	機能性食品とクスリ (内藤博敬)	
	10	これからの医学と食農 (内藤博敬)	
	11	園芸の癒しの効果① (吉村親)	
	12	園芸の癒しの効果② (吉村親)	
	13	園芸福祉士の役割 (吉村親)	
	14	農業における障害者雇用① (吉村親)	
15	農業における障害者雇用② (吉村親)		
キーワード	環境、食農、予防医学、食薬融合、医食同源		
教科書・参考書	日本医学交流協会医療団、「ヘルスケアプランナー教本 中巻」(株)ドクターズプラザ、2018) 日本農業検定事務局 編、「日本の農と食を学ぶ 初級編/中級編」(農山漁村文化協会、2018)		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	農学概論、農と食の健康論、農と食の哲学、食品科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別紙4】

授業名 医福食農連携論 Science of Agro-Medicine		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	内藤博敬、吉村親
授業時間	火曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続可能な健康社会を構築するためには、食や環境と健康のつながり、すなわち「農」と「医」の連携を理解する必要がある。ヒトが健康であるためためには、予防医学の理解が重要であり、そのためには環境や食に関する基礎知識が必要不可欠である。また、園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーションや心の癒し効果、コミュニケーション促進、共同作業による社会参加促進などのさまざまな効用を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど生活の質の向上を実現しようという「農」と「福」の連携の動きがある。本科目では、「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業目的・目標	「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	環境問題と健康生活	
	2	農林業と環境	
	3	自然災害と農林業	
	4	途上国の農業における環境問題	
	5	持続可能な健康社会づくり	
	6	医食同源と神農本草経	
	7	病気と免疫	
	8	食品・食文化と免疫	
	9	機能性食品とクスリ	
	10	これからの医学と食農	
	11	園芸の癒しの効果①	
	12	園芸の癒しの効果②	
	13	園芸福祉士の役割	
	14	農業における障害者雇用①	
15	農業における障害者雇用②		
キーワード	環境、食農、予防医学、食薬融合、医食同源		
教科書・参考書	日本医学交流協会医療団、「ヘルスケアプランナー教本 中巻」(榎ドクターズプラザ、2018) 日本農業検定事務局 編、「日本の農と食を学ぶ 初級編/中級編」(農山漁村文化協会、2018)		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	農学概論、農と食の健康論、農と食の哲学、食品科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

審査意見への対応を記載した書類 別添資料 目次

- 別添資料 1 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ
- 別添資料 4-1 科目・単位数の見直し状況
- 別添資料 4-2 4年制履修モデル

生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ

【養成する人材像】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修 ○選択必修 ●コース必修 ○(自)自由科目
■実験・実習 ※再掲

【ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力】

- (1)専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。
(2)栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。
(3)農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。
(4)農山村の地域社会における将来のリーダーとして、各分野の経営を通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。
(5)農山村の地域資源を活用することにより、各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。
(6)修得した専門知識と技術を駆使して各分野の経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

【カリキュラム・ポリシー】

- (1)ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせる。
(2)栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ教育課程を編成する。
(3)少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
(4)成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

Table with columns for Course (科目), Year (年), Semester (前期/後期), and Credits (単位). Rows include: 基礎 (20単位), 職業専門 (85単位), and 展開 (20単位). Each row lists specific courses and their credit values.

科目・単位数の見直し状況

申請時期	開講科目数・単位数							
	卒業要件に含まれる科目数・単位数							自由科目数・単位数
	必修科目数・単位数	選択科目数・単位数			自由科目数・単位数			
					(うち選択必修)	(うちコース必修)	(左記以外)	
当初申請	134科目(287単位)	134科目(287単位)	29科目(74単位)	105科目(213単位)	(6科目(12単位))	-	(99科目(201単位))	-
補正申請	126科目(267単位)	119科目(255単位)	35科目(79単位)	84科目(176単位)	(9科目(16単位))	(30科目(74単位))	(45科目(86単位))	7科目(12単位)
再補正申請	112科目(239単位)	85科目(191単位)	41科目(91単位)	44科目(100単位)	(3科目(6単位))	(28科目(68単位))	(13科目(26単位))	27科目(48単位)

(詳細) (●:必修、○:選択必修、◎:コース必修、無印:選択、自由:自由科目、※:未開講となる可能性がある科目)

項目	基礎科目			職業専門科目			展開科目		総合科目	
	当初申請	補正申請	再補正申請	当初申請	補正申請	再補正申請	当初申請	補正申請・再補正申請	当初申請	補正申請・再補正申請
開講科目数・単位数	17科目(32単位)	20科目(36単位)	20科目(36単位)	95科目(201単位)	93科目(207単位)	79科目(179単位)	16科目(32単位)	10科目(20単位)	6科目(22単位)	3科目(4単位)
必修科目数・単位数	7科目(14単位)	6科目(10単位)	6科目(10単位)	15科目(36単位)	16科目(45単位)	22科目(57単位)	1科目(2単位)	10科目(20単位)	6科目(22単位)	3科目(4単位)
選択科目数・単位数	10科目(18単位)	14科目(26単位)	10科目(20単位)	80科目(165単位)	70科目(150単位)	35科目(82単位)	15科目(30単位)	0科目(0単位)	0科目(0単位)	0科目(0単位)
(うち選択必修)	(0科目(0単位))	(4科目(8単位))	(3科目(6単位))	(6科目(12単位))	(5科目(8単位))	(0科目(0単位))	(0科目(0単位))	(0科目(0単位))	(0科目(0単位))	(0科目(0単位))
(うちコース必修)	-	-	-	-	(30科目(74単位))	(28科目(68単位))	-	-	-	-
(上記以外)	(10科目(18単位))	(10科目(18単位))	(7科目(14単位))	(74科目(153単位))	(35科目(68単位))	(7科目(14単位))	(15科目(30単位))	(0科目(0単位))	(0科目(0単位))	(0科目(0単位))
卒業要件に含まれる科目数・単位数	17科目(32単位)	20科目(36単位)	16科目(30単位)	95科目(201単位)	86科目(195単位)	57科目(139単位)	16科目(32単位)	10科目(20単位)	6科目(22単位)	3科目(4単位)
自由科目数・単位数	-	-	4科目(6単位)	-	7科目(12単位)	23科目(42単位)	-	-	-	-
科目統合				○木材生産システム論 森林施業プラン演習 森林認証演習 (展開科目:森林マネジメント論) 農と食の経済学 アグリフードシステム論 ●経営戦略 I 経営戦略 II 経営組織論 協同組合論 食品化学 食品衛生学 木材利用論 木材流通論	◎木材生産システム ◎森林マネジメント ◎フードシステム論 ◎経営戦略 ◎農林業の経営組織論 ◎食品科学 ◎木材利用・流通論				●プロジェクト研究 I ●プロジェクト研究 II	●プロジェクト研究
(科目統合理由) ・基礎と中級科目の統合 ・講義科目と演習科目の統合 ・類似科目の統合										
単位数の変更(変更理由) ・科目目的から必要な内容への見直し				管理会計 2	●管理会計 1				●経営分析演習 I 3 ●経営分析演習 II 3	●経営分析演習 I 1 ●経営分析演習 II 1
選択科目と履修要件の見直し状況 (履修要件見直し理由) ・コース制による履修要件の明確化 ・基礎力を養成する科目の自由科目化 ・発展的な科目の自由科目化 ・資格取得のための科目の自由科目化 ・視察を中心とした科目の自由科目化	歴史学概論 文明論 文学概論 茶道 華道 ●法学概論 社会学概論 政治学概論 (職業専門)農林業のための統計学	歴史学概論 文明論 文学概論 茶道 華道 ●法学概論 社会学概論 政治学概論 統計学	歴史学概論 ※ (自由)文明論 文学概論 ※ (自由)茶道 (自由)華道 法学概論 ※ 社会学概論 ※ 政治学概論 ※ 統計学 ※	(展開)環境と農林業 農林業史 ●農林業政策 県内農林業事情 県外農林業事情 海外農林業事情 農林業のための基礎数学 農林業のための生物学 農林業のための化学 農林業のための物理学 農林業のための地学 ●分子生物学 農業気象学 生命科学 (展開)野生鳥獣管理・利用論	●環境と農林業 農林業史 農林業政策 県内農林業事情 県外農林業事情 海外農林業事情 (自由)農林業のための基礎数学 (自由)農林業のための生物学 (自由)農林業のための化学 (自由)農林業のための物理学 (基礎科目) (自由)農林業のための地学 分子生物学 農業気象学 生命科学 野生鳥獣管理・利用論 ※	(必修科目) 農林業史 農林業政策 ※ 県内農林業事情 ※ (自由)県外農林業事情 (自由)海外農林業事情 (自由科目) (自由科目) (自由科目) (自由科目) (基礎科目) (自由科目)	環境保全型農業論 農と食の健康論 野生鳥獣管理・利用論 畜産環境学 森林マネジメント論 農村景観論 農村社会論 農山村デザイン演習 農と食の哲学 医福食農連携論 グリーン・ツーリズム論 食文化論 コミュニティビジネス論 在来作物学	(職業専門) (職業専門) (職業専門) (職業専門) (職業専門) ●農村景観論 ●農村社会論 ●農山村デザイン演習 ●農と食の哲学 ●医福食農連携論 ●グリーン・ツーリズム論 ●食文化論 ●コミュニティビジネス論 ●在来作物学		
				栽培学 植物生理生態学 作物学 園芸学 植物病理学 応用昆虫学 ◎肥料・植物栄養学 ◎土壌学 野菜園芸学 果樹園芸学 花き園芸学 植物遺伝育種学概論 (展開)森林計画・政策論 造林学 樹木・組織学 森林土木学 ◎木質科学概論 (新規)◎木材生産システム (新規)◎森林マネジメント ◎畜産概論 ◎飼料総論 ◎家畜生理解剖学 ◎家畜育種繁殖学 ◎家畜飼養学 ◎自給飼料 畜産法規 ◎人工授精論 ◎家畜衛生学 ◎家畜福祉学 ◎畜産環境学	○栽培学 ○植物生理生態学 作物学 園芸学 ◎植物病理学 ◎応用昆虫学 ◎肥料・植物栄養学 土壌学 野菜園芸学 果樹園芸学 花き園芸学 植物遺伝育種学概論 ◎環境保全型農業論 ◎森林計画・政策論 ◎造林学 ◎樹木・組織学 ◎森林土木学 ◎木質科学概論 ◎木材生産システム (削除) ◎畜産概論 ◎飼料総論 ◎家畜生理解剖学 ◎家畜育種繁殖学 ◎家畜飼養学 (削除) (自由)畜産法規 (自由)人工授精論 ◎家畜衛生学 (削除) (削除)					
				簿記基礎 簿記応用 (新規)●法と農業経営 ●経営管理論 農林業経営学 管理会計 労務管理 (新規)人材マネジメント 知的財産権 ●農と食の起業論	(自由)簿記基礎 (自由)簿記応用 フードシステム論 法と農業経営 経営管理論 ●農林業経営学 ●管理会計 ●労務管理 (自由)農林業の経営組織論 ●人材マネジメント (自由)知的財産権 (自由)農と食の起業論					
				(新規)食品科学 食品加工学 食品加工実習 収穫後生理学 (新規)◎木材利用・流通論 ◎木材加工学 ◎木材加工実習 食品流通論 販売管理論 販売実習 (新規) (展開)農と食の健康論 6次産業化実践論	(自由)食品科学 (削除) ◎食品加工実習 (自由)収穫後生理学 ◎木材利用・流通論 (削除) ◎木材加工実習 ◎食品流通論 (削除) (削除) ●販売管理実習 (自由)農と食の健康論 ●6次産業化実践論					
				圃場実習(栽培) 圃場実習(畜産) 演習林実習 生産マネジメント実習 I(栽培) 生産マネジメント実習 I(畜産) 生産マネジメント実習 I(林業) 生産マネジメント実習 II(栽培) 生産マネジメント実習 II(畜産) 生産マネジメント実習 II(林業) 大型機械実習 I 大型機械実習 II 林業機械実習 GAP演習	◎圃場実習(栽培) ◎圃場実習(畜産) ◎演習林実習 ◎生産マネジメント実習 I(栽培) ◎生産マネジメント実習 I(畜産) ◎生産マネジメント実習 I(林業) ◎生産マネジメント実習 II(栽培) ◎生産マネジメント実習 II(畜産) ◎生産マネジメント実習 II(林業) ●大型機械実習 I ●大型機械実習 II (自由)大型機械実習 II (自由)林業機械実習 ◎GAP演習					

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	統計学	2			文学概論	2									10
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
基礎科目	コミュニケーション・スキル	必修 静岡学		1	1													10
		英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2											
基礎科目	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2															10
		必修 保健体育 I		1	1													
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	農業気象学	2			必修 技術者倫理	2							10
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 植物病理学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
					選必 作物学	2	選必 園芸学	2	必修 環境保全型農林業論	2								
	生産技術	必修 総合実習		1	1	選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習 I(栽培)	4		必修 企業実習	10						26
						必修 GAP演習	2			必修 生産マネジメント実習 II(栽培)		2						
加工・流通・販売										必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2				8	
経営管理										必修 食品流通論	2						25	
									選必 食品加工実習	2								
経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5		
					必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2										
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2							
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源							必修 農山村デザイン演習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総目合														必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4
科総目合														必修 プロジェクト研究		1		
セメスター別単位数		18		15		22		21		21		18		7		7		129

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数	
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	政治学概論	2	歴史学概論	2	必修 情報処理応用	1									10	
		必修 情報処理基礎	1	必修 静岡学	1														
基礎科目	コミュニケーション・スキル	英語 I	2	英語 II	2														10
		必修 コミュニケーション論	2	必修 保健体育 I	1														
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2					必修 技術者倫理	2								10
		農林業政策	2	野生鳥獣害管理・利用論	2														
		生産理論		必修 農林業生産理論	2	選必 森林計画・政策論	2	選必 木質科学概論	2	必修 農林業のための先端技術	2								16
				選必 造林学	2	選必 木材生産システム	2	必修 環境保全型農林業論	2										
		生産技術	必修 総合実習	1	選必 演習林実習	2	選必 生産マネジメント実習 I (林業)	4			必修 企業実習	10							
				必修 GAP演習	2	必修 生産マネジメント実習 II (林業)	2												
	加工・流通・販売					選必 木材利用・流通論	2	必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2								8
								選必 木材加工実習	2										
	経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5		25
						必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2										
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2								20
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2								
								必修 農山村デザイン演習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2						
科総目合														必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4	
														必修 プロジェクト研究		1			
セメスター別単位数		18		17		21		22		19		18		7		7		129	

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	一般教養	必修 経済学概論	2	社会学概論	2			必修 情報処理応用	1									10
		必修 情報処理基礎 法学概論	1 2	必修 静岡学	1													
基礎 科目	コミュニケーション・ス キル	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2											10
		必修 コミュニケー ション論	2	必修 保健体育 I	1													
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 生命科学	2 2			必修 技術者倫理	2									10
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 飼料総論	2	選必 家畜育種繁殖学	2	必修 農林業のための 先端技術	2							16
	生産技術	必修 総合実習			1	選必 圃場実習(畜産)	2	選必 生産マネジメント 実習 I(畜産)	4		必修 企業実習	10						26
						必修 GAP演習	2	必修 大型機械実習 I	2	必修 生産マネジメント実習 II(畜産)			2					
	加工・流通・販 売								必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2						8
経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5		25
				必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2											
展 開 科 目	農山村の伝 統・文化の継 承、地域資源	必修 農山村田園地 域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2							
								必修 農山村デザイン演 習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総 目合														必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4
														必修 プロジェクト研究		1		
セメスター 別単位数			20		17		20		19		21		18		7		7	129